愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

── 2013年度 ──

愛媛大学埋蔵文化財調査室

２０１５

序　　文

国立大学法人愛媛大学の敷地は、松山市内および愛媛県内各所に点在し、敷地総面積は464ヘクタールに及ぶ。そのうち、大学本部と４つの学部が所在する城北団地には文京遺跡・道後樋又遺跡、附属幼稚園・附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校がある持田団地には持田遺跡、農学部と附属高等学校がある樽味団地には樽味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地には鷹子遺跡など、数多くの遺跡がある。

愛媛大学では、昭和62年に埋蔵文化財調査室を設置し、校舎建設や営繕工事等の際、埋蔵文化財への影響度をはかるための試掘調査を行い、埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合には、影響度に応じて全面調査（大規模調査、小規模調査）、立会調査の発掘調査を実施してきた。さらに、大学構内における遺跡の有無や精度の高い分布状況を把握する確認調査を実施し、埋蔵文化財の保護に努めている。

さて、埋蔵文化財調査室は、実務面では学内における埋蔵文化財の保護活動を行ってきたが、学内的な位置づけは不明確な状況が続いてきた。そうした中、平成26年４月１日付で愛媛大学先端研究・学術推進機構の所属となり、大学内における位置づけが明確化された。今後とも大学内における埋蔵文化財の保護に努める所存である。

本書は、2013年度に実施した試掘・立会調査の報告と、文京遺跡52次調査・55次調査・56次調査・57次調査、樽味遺跡12次調査・13次調査、持田遺跡８次調査・９次調査、山越遺跡５次調査の本報告を併せた『埋蔵文化財調査室年報』である。

最後になりましたが、本書をまとめるにあたっては、学内はもとより学外の多くの機関・個人の方々から協力を得た。その労に深く感謝するとともに、本書が多くの方々に利用・活用されることを願っております。

平成27年３月１日

愛媛大学先端研究・学術推進機構
埋蔵文化財調査室長
田　崎　博　之

例　　言

1．本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が2013年度に実施した事業、特に大学構内で実施した試掘・立会・確認形式で行った小規模調査および本格調査の成果等を報告する愛媛大学埋蔵文化財調査室年報であり、愛媛大学埋蔵文化財調査報告ＸＸⅧにあたる。

2．埋蔵文化財調査室では、本格全面調査・構内遺跡確認調査については、遺跡ごとに調査次数を付しているが、同時に、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って、立会・試掘形式の小規模調査も含めて、すべての調査に調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下３桁の後に年度ごとの調査順に01からの２桁の通し番号を加えた５桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点(トレンチ)を調査した場合、－の後に地点番号を付して表示している。

０１３０１－４

調査年度（西暦の下３桁）
年度ごとの調査順に付した番号
調査地点が複数時のトレンチ番号

3．本書では、遺構番号に冠して、掘立柱建物：SB、竪穴建物：SC、溝：SD、土壙：SK、柱穴・小穴：SP、自然河川：SR、その他の遺構：SXの記号で遺構の種別を表している。

4．本書で表示した方位・標高数値は、本格調査においては、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系第Ⅳ系にしたがっている。ただし、試掘・立会調査・確認調査で座標系が利用できなかった場合は、調査地点周囲の平板測量成果を掲載し、磁北を表示している。

5．小山正忠・竹原秀雄編著（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）『新版標準土色帖』に基づき、土色については土色名（Munsell記号）、遺物の色調についてはMunsell記号を省略し、土色名のみで表示している。

6．本書で使用した遺構図は、田崎博之・三吉秀充・宮崎直栄・田中いづみ・矢野宣子・濱田亜矢・高木あゆみが作成し浄写を行った。

7．本書で使用した遺物図は、三吉が実測・浄書を行った。

8．本書で使用した写真は、田崎・三吉が撮影した。

9．本書は田崎・三吉が執筆した。

10．本書に報告した調査に係わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において保管している。

11．本書は三吉が編集を行った。

本 文 目 次

Ⅰ　埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業 …… 1
1　埋蔵文化財調査委員会 …… 1
2　2013年度の埋蔵文化財調査室の事業 …… 1
（1）調査と体制 …… 1
（2）整理作業 …… 6
（3）印刷物の刊行 …… 6
（4）広報、資料等の利活用 ……14

Ⅱ　2013年度の発掘調査 ……20
01301　（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（その２）に伴う発掘調査（文京遺跡52次調査） ……20
01302　（樽味団地）附属高校校舎・ユーカリ会館耐震改修工事に伴う試掘調査 ……24
01303　（樽味団地）総合研究棟（農学系）改修その他工事に伴う発掘調査（樽味遺跡12次調査）……29
01304　（城北団地）西門周辺環境整備工事に伴う発掘調査（文京遺跡55次調査）……34
01305　（持田団地）附属中学校体育館等改修工事に伴う発掘調査（持田遺跡８次調査）……39
01306　（樽味団地）附属高校校舎等改修工事に伴う発掘調査（樽味遺跡13次調査）……45
01307　（山越団地）基幹環境整備（屋外排水）工事・合宿研修施設等改修機械設備工事に伴う確認調査（山越遺跡５次調査） ……64
01308　（城北団地）自家発電設備工事に伴う発掘調査（文京遺跡56次調査）……93
01309　（城北団地）総合研究棟（理学系）等環境整備（植栽等）工事に伴う発掘調査（文京遺跡57次調査）…95
01310　（樽味団地・持田団地）基幹・環境整備（給水設備）工事に伴う発掘調査（持田遺跡９次調査）……99
01311　（城北団地）城北事務センター１（生協売店部分）における埋蔵文化財試掘調査 ……102
01312　（樽味団地）ユーカリ会館等改修工事に伴う立会調査 ……104

挿 図 目 次

図１　埋蔵文化財調査室組織改編……6
図２　城北団地調査地点位置図（縮尺1/2,000）……15・16
図３　持田団地調査地点位置図（縮尺1/2,000）……18
図４　樽味・北吉井団地調査地点位置図（縮尺1/2,000）……19
図５　01301調査（文京遺跡52次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲……21
図６　01301調査（文京遺跡52次）調査区平面図（縮尺1/500）および土層柱状図（縮尺1/50）……22
図７　01302調査１・２トレンチ平面図および土層断面図（縮尺1/50）……25
図８　01302調査３～６トレンチ平面図および土層断面図（縮尺1/50）……27
図９　01303調査（樽味遺跡12次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲……30
図10　01303調査（樽味遺跡12次）調査地点位置図（縮尺1/500）、５トレンチ平面図（縮尺1/100）、１～６トレンチ土層図（縮尺1/50）……31
図11　01304調査（文京遺跡55次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲……35

図12　01304調査（文京遺跡55次）調査地点位置図(縮尺1/500)、土層柱状図（縮尺1/50)、２トレンチ平面図、土層断面図（縮尺1/50）……36
図13　01304調査（文京遺跡55次）出土遺物（縮尺1/３）……39
図14　01305調査（持田遺跡８次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲……40
図15　01305調査（持田遺跡８次）調査地点位置図(縮尺1/500)、土層柱状図（縮尺1/50）……41
図16　01306調査（樽味遺跡13次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲……46
図17　01306調査（樽味遺跡13次）調査地点位置図(縮尺1/500)……48
図18　01306調査（樽味遺跡13次）Ⅰ区平面図、土層断面図（縮尺1/60）……49
図19　01306調査（樽味遺跡13次）遺構（１）（縮尺1/50）……51
図20　01306調査（樽味遺跡13次）遺構（２）（縮尺1/50）……52
図21　01306調査（樽味遺跡13次）出土遺物（縮尺1/３）……52
図22　01306調査（樽味遺跡13次）Ⅱ区平面図、土層断面図（縮尺1/50）……54
図23　01306調査（樽味遺跡13次）Ⅲ区・Ⅳ区土層断面図（縮尺1/50）……54
図24　01307調査（山越遺跡５次）調査地点位置図(縮尺1/2,000)……65
図25　01307調査（山越遺跡５次）調査地点位置図(縮尺1/500)、土層断面図（縮尺1/500・1/50)、遺構集中地点拡大図（縮尺1/100)……67・68
図26　01307調査（山越遺跡５次）土層断面図（１）（縮尺1/60）……69
図27　01307調査（山越遺跡５次）土層断面図（２）（縮尺1/60）……70
図28　01307調査（山越遺跡５次）土層断面図（３）（縮尺1/60)……71
図29　01307調査（山越遺跡５次）土層断面図（４）（縮尺1/60)……72
図30　01307調査（山越遺跡５次）土層断面図（５）（縮尺1/60)……73
図31　01307調査（山越遺跡５次）出土遺物（１）（縮尺1/３）……75
図32　01307調査（山越遺跡５次）出土遺物（２）（縮尺1/３）……75
図33　01307調査（山越遺跡５次）出土遺物（３）（縮尺1/２・１/４)……76
図34　01307調査（山越遺跡５次）出土遺物（４）（縮尺1/２）……77
図35　01307調査（山越遺跡５次）出土遺物（５）（縮尺１/２)……78
図36　01308調査（文京遺跡56次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲　…93
図37　01308調査（文京遺跡56次）調査位置図（縮尺1/500)、土層柱状図（縮尺1/50）……94
図38　01309調査（文京遺跡57次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲……95
図39　01309調査（文京遺跡57次）調査地点位置図(縮尺1/500)、１区平面図（縮尺1/200)、土層柱状図（縮尺1/40）……96
図40　01310調査（持田遺跡９次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲 ……100
図41　01310調査（持田遺跡９次）調査地点位置図(縮尺1/500)、土層柱状図（縮尺1/50)……100
図42　01311調査調査地点位置図（縮尺1/500)、調査区平面図および土層図（縮尺1/50)……103
図43　01312調査調査地点位置図（縮尺1/500)、土層柱状図（縮尺1/50)……104

写真目次

写真１　（城北団地）総合研究棟（教育学系）改修その他工事に伴う工事立会　……９
写真２　（城北団地）本部管理棟北側駐輪場改修工事に伴う工事立会　……９
写真３　（城北団地）本部管理棟北側駐輪場改修工事に伴う工事立会　……９
写真４　（城北団地）本部管理棟北側駐輪場改修工事に伴う工事立会　……９

写真５　（城北団地）救助袋固定用フック据付工事に伴う工事立会……９
写真６　（城北団地）救助袋固定用フック据付工事に伴う工事立会……９
写真７　（城北団地）教育学部４号館西側フェンス等取設工事に伴う工事立会……９
写真８　（城北団地）教育学部４号館西側フェンス等取設工事に伴う工事立会……９
写真９　（城北団地）総合研究棟（理学系）等改修その他工事に伴う工事立会……10
写真10　（城北団地）総合研究棟（理学系）等改修その他工事に伴う工事立会……10
写真11　（城北団地）課外活動第１共用施設インターロッキング等修繕工事に伴う工事立会　…10
写真12　（樽味団地）ユーカリ会館等改修工事（大講義室分）に伴う工事立会……10
写真13　（樽味団地）ユーカリ会館等改修工事（大講義室分）に伴う工事立会……10
写真14　（城北団地）総合研究棟（理学系）等改修その他工事に伴う工事立会（移植地点）……10
写真15　（城北団地）総合研究棟（理学系）等改修その他工事に伴う工事立会(移植元・抜痕地点)……10
写真16　（城北団地）総合研究棟（理学系）等改修その他工事に伴う工事立会（抜痕地点）……10
写真17　（城北団地）構内道路修繕工事に伴う工事立会……11
写真18　（城北団地）構内道路修繕工事に伴う工事立会……11
写真19　（持田団地）愛媛大学教育学部付属小学校創立130周年記念事業遊具（ドラゴンスライダー）設置工事に伴う工事立会……11
写真20　（持田団地）愛媛大学教育学部付属小学校創立130周年記念事業遊具（ドラゴンスライダー）設置工事に伴う工事立会……11
写真21　（城北団地）自家発電設備支障樹木伐採業務に伴う工事立会……11
写真22　（城北団地）自家発電設備支障樹木伐採業務に伴う工事立会……11
写真23　（樽味団地）基幹・環境整備（自家発電設備）工事に伴う工事立会……11
写真24　（樽味団地）基幹・環境整備（自家発電設備）工事に伴う工事立会……11
写真25　（持田団地）基幹・環境整備（自家発電設備）工事に伴う工事立会……12
写真26　（持田団地）基幹・環境整備（自家発電設備）工事に伴う工事立会……12
写真27　（持田団地）附属小学校（創立130周年記念事業）に伴う工事立会　……12
写真28　（持田団地）附属小学校（創立130周年記念事業）に伴う工事立会……12
写真29　（城北団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会……12
写真30　（城北団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会……12
写真31　（城北団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会……12
写真32　（城北団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会……12
写真33　（持田団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会……13
写真34　（持田団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会……13
写真35　（樽味団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会……13
写真36　（樽味団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会……13
写真37　（城北団地）共通教育講義棟北側スロープ取設工事に伴う工事立会……13
写真38　（城北団地）共通教育講義棟北側スロープ取設工事に伴う工事立会……13
写真39　（城北団地）正門周辺樹木根回しその他業務に伴う工事立会……13
写真40　（城北団地）正門周辺樹木根回しその他業務に伴う工事立会……13
写真41　復旦大学教員・学生による施設見学（１）……14
写真42　復旦大学教員・学生による施設見学（２）……14
写真43　公開講座の様子（１）……14
写真44　公開講座の様子（２）……14
写真45　公開講座の様子（３）……14
写真46　公開講座の様子（４）……14
写真47　01301調査１区完掘状況（東から）……23
写真48　01301調査２区北壁土層（南から）……23
写真49　01301調査共通教育講義棟北側工事立会（南

から）……23
写真50　01301調査共通教育講義棟北側工事立会（西から）……23
写真51　01301調査共通教育講義棟北側工事立会地点土層（東から）……23
写真52　01301調査共通教育講義棟西側工事立会（西から）……23
写真53　01301調査共通教育講義棟南側工事立会（東から）……23
写真54　01301調査共通教育講義棟南側工事立会（西から）……23
写真55　01302調査１トレンチ（北西から）……26
写真56　01302調査１トレンチ（北西から）……26
写真57　01302調査１トレンチ南端部（南西から）…26
写真58　01302調査２トレンチ（南東から）……26
写真59　01302調査２トレンチ北端部（西から）……26
写真60　01302調査２トレンチ南部（西から）……26
写真61　01302調査３トレンチ（西から）……28
写真62　01302調査３トレンチ（南西から）……28
写真63　01302調査４トレンチ（東から）……28
写真64　01302調査４トレンチ（西から）……28
写真65　01302調査５トレンチ（西から）……28
写真66　01302調査５トレンチ（西から）……28
写真67　01302調査６トレンチ（南東から）……28
写真68　01302調査６トレンチ（北西から）……28
写真69　01303調査１-①トレンチ全景（北東から）…32
写真70　01303調査１-②トレンチ全景（東から）……32
写真71　01303調査１-③トレンチ全景（東から）……32
写真72　01303調査２トレンチ全景（南西から）……32
写真73　01303調査３トレンチ全景（西から）……32
写真74　01303調査４-①トレンチ全景（西から）……32
写真75　01303調査　４-②・③トレンチ全景（西から）……32
写真76　01303調査４-③トレンチ全景（南から）……32
写真77　01303調査４-③トレンチ全景（南西から）…33
写真78　01303調査４-④トレンチ全景（南から）……33
写真79　01303調査５トレンチ全景（南から）……33
写真80　01303調査６トレンチ全景（東から）……33
写真81　01303調査農学部２号館東側工事立会（南から）……33
写真82　01303調査農学部２号館東側工事立会（東から）……33
写真83　01304調査１・２トレンチ完掘状況（北東から）……37
写真84　01304調査１・２トレンチ完掘状況（北東から）……37
写真85　01304調査１トレンチ完掘状況（西から）…37
写真86　01304調査１トレンチ中央部南壁土層（北から）……37
写真87　01304調査２トレンチ完掘状況（西から）…37
写真88　01304調査２トレンチ完掘状況（北から）…37
写真89　01304調査３・４トレンチ（東から）……37
写真90　01304調査３トレンチ完掘状況（西から）…37
写真91　01304調査４トレンチ完掘状況（東から）…38
写真92　01304調査５・６トレンチ（西から）……38
写真93　01304調査５トレンチ完掘状況（東から）…38
写真94　01304調査６トレンチ完掘状況（東から）…38
写真95　01304調査７トレンチ完掘状況（南東から）……38
写真96　01304調査７トレンチ西端完掘状況（南から）……38
写真97　01304調査８トレンチ完掘状況（東から）…38
写真98　01304調査８トレンチ中央部北壁土層（南から）……38
写真99　01305調査１区全景（北から）……42
写真100　01305調査１区北端部北壁土層(南から)…42
写真101　01305調査１区南端部南壁土層(北から)…42
写真102　01305調査１区南端部南壁土層(北から)…42
写真103　01305調査２区全景（西から）……42
写真104　01305調査３区全景（南から）……42
写真105　01305調査４区全景（北から）……43
写真106　01305調査５区全景（北から）……43
写真107　01305調査６区全景（北から）……43
写真108　01305調査７区全景（北から）……43
写真109　01305調査８区全景（北から）……43
写真110　01305調査９区全景（東から）……43
写真111　01305調査10区～12区（東から）……43
写真112　01305調査10区全景（東から）……43
写真113　01305調査11区全景（東から）……44
写真114　01305調査12区全景（東から）……44
写真115　01305調査13区全景（東から）……44
写真116　01305調査14区全景（東から）……44
写真117　01305調査体育館北西部工事立会(南東から)……44
写真118　01305調査体育館西部工事立会（南東から）……44

写真119　01306調査Ⅰ区遺構検出状況（西から）…55
写真120　01306調査Ⅰ区遺構完掘状況（西から）…55
写真121　01306調査Ⅰ区遺構検出状況（東から）…56
写真122　01306調査Ⅰ区遺構完掘状況（東から）…56
写真123　01306調査Ⅰ区遺構検出状況(北東から)…57
写真124　01306調査Ⅰ区遺構完掘状況（北から）…57
写真125　01306調査Ⅰ区北壁土層……58
写真126　01306調査Ⅰ区西壁土層……58
写真127　01306調査Ⅰ区東壁土層……58
写真128　01306調査Ⅰ区SK-２土層（西から）……58
写真129　01306調査Ⅰ区SB-18完掘状況（北西から）……59
写真130　01306調査Ⅰ区SB-19完掘状況（北西から）……59
写真131　01306調査Ⅰ区SK-２遺構検出状況(北から)……60
写真132　01306調査Ⅰ区SK-２遺構完掘状況(北から)……60
写真133　01306調査Ⅰ区SK-１検出状況(東から)…61
写真134　01306調査Ⅰ区SK-１完掘状況(西から)…61
写真135　01306調査Ⅰ区SK-12完掘状況(北から)…61
写真136　01306調査Ⅰ区SK-12土層（西から）……61
写真137　01306調査Ⅰ区SK-５検出状況(西から)…61
写真138　01306調査Ⅰ区SP-３土層（東から）……61
写真139　01306調査Ⅰ区SP-７検出状況（東から)…61
写真140　01306調査Ⅰ区SP-10土層（東から）……61
写真141　01306調査Ⅱ区Ⅲ層検出状況（東から）…62
写真142　01306調査Ⅱ区完掘状況（北東から）……62
写真143　01306調査Ⅲ区完掘状況（南から）……63
写真144　01306調査中棟西側工事立会（北から）…63
写真145　01306調査Ⅳ区Ⅲ層検出状況（南から）…63
写真146　01306調査Ⅳ区完掘状況（南から）……63
写真147　01306調査中棟西側道路部分慎重工事（西から)……63
写真148　01307調査１区完掘状況（東から）……80
写真149　01307調査１区西壁土層（東から）……80
写真150　01307調査２区完掘状況（西から）……80
写真151　01307調査２区南壁土層（北から）……80
写真152　01307調査２区南壁土層（北から）……80
写真153　01307調査２区南壁土層（北から）……80
写真154　01307調査３区完掘状況（西から）……80
写真155　01307調査３区南壁土層（北から）……80
写真156　01307調査４区完掘状況（東から）……81
写真157　01307調査５区完掘状況（東から）……81
写真158　01307調査６区西壁土層（南東から）……82
写真159　01307調査７区西壁土層（北東から）……82
写真160　01307調査８区完掘状況（南東から）……83
写真161　01307調査８区Ⅲ層中遺物出土状況……83
写真162　01307調査９区完掘状況（東から）……83
写真163　01307調査10区SP-１土層断面（東から)…83
写真164　01307調査10区SP-１完掘状況（東から)…83
写真165　01307調査10区完掘状況（南東から）……84
写真166　01307調査11区完掘状況（南東から）……84
写真167　01307調査11区完掘状況（北東から）……85
写真168　01307調査12区完掘状況（南東から）……85
写真169　01307調査12区完掘状況（北から）……86
写真170　01307調査12区SD-13・14完掘状況(東から)……86
写真171　01307調査13区完掘状況（南東から）……87
写真172　01307調査14区完掘状況（南東から）……87
写真173　01307調査15区南部完掘状況(南東から)…88
写真174　01307調査15区北部完掘状況(南東から)…88
写真175　01307調査16区完掘状況（北東から）……89
写真176　01307調査17区完掘状況（南から）……89
写真177　01307調査17区北部完掘状況(南東から)…90
写真178　01307調査17区南端部完掘状況（南東から）……90
写真179　SD-13・14（図31-１）……91
写真180　SD-13・14（図31-２）……91
写真181　SD-13・14（図31-３）……91
写真182　SD-13・14（図31-４）……91
写真183　SD-13・14（図31-５）……91
写真184　13区Ⅲ層（図31-６）……91
写真185　SD-13・14（図31-11）……91
写真186　SD-13・14（図31-15）……91
写真187　SD-13・14（図31-16）……91
写真188　13区Ⅲ層（図33-17）……92
写真189　８区Ⅲ層（図33-18）……92
写真190　８区Ⅲ層（図34-19）……92
写真191　12区Ⅲ層（図34-20）……92
写真192　14区Ⅲ層（図34-21）……92
写真193　12区Ⅲ層（図35-22）……92
写真194　13区Ⅲ層（図35-25）……92
写真195　15区Ⅲ層（図35-26）……92
写真196　13区Ⅲ層（図35-24）……92
写真197　01308調査調査地点全景（南西から）……94

写真198　01308調査調査地点全景（南から）……94
写真199　01308調査１区完掘状況（南から）……94
写真200　01308調査２区完掘状況（南から）……94
写真201　01309調査１区完掘状況（南西から）……97
写真202　01309調査１区完掘状況（北東から）……97
写真203　01309調査１区完掘状況（西から）……97
写真204　01309調査１区土層（北から）……97
写真205　01309調査２区完掘状況（北から）……97
写真206　01309調査３区完掘状況（北から）……97
写真207　01309調査４区完掘状況（北西から）……97
写真208　01309調査４区完掘状況（南西から）……97
写真209　01309調査法文学部２号館北側工事地点（北西から）……98
写真210　01309調査法文学部２号館北側工事地点土層（北から）……98
写真211　01309調査法文学部講義棟北側工事立会（西から）……98
写真212　01309調査法文学部講義棟北側工事立会土層（北から）……98
写真213　01309調査理学部講内工事立会地点遠景（北から）……98
写真214　01309調査理学部工事立会（東から）……98
写真215　01309調査理学部工事立会（東から）……98
写真216　01309調査理学部工事立会（東から）……98
写真217　01310調査１区完掘状況（南東から）……101
写真218　01310調査１区北壁土層（南から）……101
写真219　01310調査２区工事立会（南から）……101
写真220　01310調査２区北端部土層（南から）……101
写真221　01310調査樽味団地工事立会（西から）…101
写真222　01310調査樽味団地工事立会（東から）…101
写真223　01311調査１区完掘状況（東から）……102
写真224　01311調査１区東壁土層（西から）……102
写真225　01312調査西区（南西から）……105
写真226　01312調査西区北壁土層（南西から）……105
写真227　01312調査東区全景（北東から）……105
写真228　01312調査東区北壁土層（南から）……105

表　目　次

表１　2013年度の埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の体制……５
表２　2013年度発掘調査一覧……５
表３　2013年度調査室・調査室資料利用一覧……５
表４　2013年度の埋蔵文化財調査依頼・照会一覧…７
表５　01306調査（樽味遺跡13次）出土遺物観察表……53
表６　01307調査（山越遺跡５次）出土遺物観察表……79

資 料 目 次

資料１　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程……２
資料２　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室設置要項……２
資料３　愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議埋蔵文化財小委員会内規……３
資料４　愛媛大学埋蔵文化財調査室規程……４

Ⅰ　埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の事業

1　埋蔵文化財調査委員会

埋蔵文化財調査室は、「国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規定」（資料１）に基づき設置された埋蔵文化財調査委員会の下、「国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室設置要項」（資料２）に沿って、発掘調査実施計画の立案およびその実施、出土資料の整理・保管、報告書作成と調査成果の公開・利活用、本学における教育・研究の支援業務を行っている。

2013年度の埋蔵文化財調査委員会（以下、委員会とする）の体制は表１の通りである。2013年度の埋蔵文化財調査委員会は、2013年４月30日（第１回）、11月19日（第２回）、2014年３月25日（第３回）で開催された。

第１回委員会では、議題１．平成25（2013）年度事業計画、議題２．平成25（2013）年度予算について、議題３．中期計画について審議された。議題１に関して、田崎室長から平成25年度実施事業計画案に沿って、１．発掘調査、２．整理作業、３．調査報告書・年報の刊行、４．利活用に係わる業務について説明があり、了承された。議題２について、田崎室長から平成25年度予算の埋蔵文化財調査室運営費と埋蔵文化財調査室人件費の説明があり、了承された。議題３について、田崎室長から文京遺跡12・14・16次調査発掘調査報告書刊行に向けた平成25・26年度中期計画の変更内容についての説明があり、原案のとおり了承された。

第２回委員会では、議題１．平成24（2012）年度事業報告・会計報告、議題２．平成25（2013）年度事業計画の変更について、議題３．平成23年度～26年度の中期計画について審議された。議題１に関して、田崎室長から平成24年度実施事業報告（１．発掘調査、整理作業、調査報告書・年報作成にかかわる業務、２．利活用にかかわる業務）、平成24年度会計報告（１．埋蔵文化財調査室運営費、２．人件費）について説明があり、了承された。議題２について、田崎室長から平成25年度施設整備事業および埋蔵文化財発掘調査工程表に沿って変更の説明があり、了承された。議題３について、田崎室長から、施設整備事業に伴う埋蔵文化財調査等への対応によって、報告書作成業務に専念できない状態となっており、平成23～26年度中期計画を変更する必要となったとの説明があり、了承された。

第３回埋蔵文化財調査委員会では、１．埋蔵文化財調査室の愛媛大学先端研究・学術推進機構への所属替について、２．松山市教育委員会への埋蔵文化財情報の提供について報告がされた。報告事項１では、学内における埋蔵文化財調査室の位置づけを明確にするため、2014年４月から埋蔵文化財調査室を愛媛大学先端研究・学術推進機構の所属とすることが報告された（図１、資料３・４）。報告事項２は、松山市教育委員会から周知の埋蔵文化財包蔵地外における埋蔵文化財情報の提供についての依頼があり、山越団地内で実施した確認調査（調査番号：01307）の概要報告を提出することとなった。

2　2013年度の埋蔵文化財調査室の事業

（1）調査と体制

2013年度の埋蔵文化財調査室の体制は表１の通りである。

愛媛大学構内に所在する文京遺跡や樽味遺跡をはじめとする各遺跡は、学術研究上、重要な位置を占めており、これまでの発掘調査成果報告ならびに分析を行った上で、最終的な発掘調査報告書を刊行し、学術的・社会的責務を果たす必要がある。埋蔵文化財調査室では、施設整備事業に伴う埋蔵文化財調査等への対応を行いながら、報告書の作成に努めてきた。しかし、施設整備事業が増加し、報告書作成担当調査員までもが、施設整備事業に伴う埋蔵文化財調査に対応し

資料１　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程

（設置）
第１条　国立大学法人愛媛大学（以下「法人」という。）に，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（任務）
第２条　委員会は，文化財保護法（昭和25年法律第214号）に基づき，法人の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する重要事項を調査審議する。
（組織）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 学長が指名する理事，副学長又は学長特別補佐１人
(2) 各学部長
(3) 発掘調査に関連のある専門分野の教員若干人
(4) 総務部長，財務部長及び施設基盤部長
２　前項第３号の委員は，学長が任命する。
３　第１項第３号の委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　委員会に委員長を置き，前条第１項第１号の委員をもって充てる。
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
（委員以外の者の出席）
第５条　委員長が必要があると認めるときは，委員以外の者を出席させ，説明又は意見を聴くことができる。
（調査室）
第６条　委員会に，委員会が定める基本方針に基づき発掘調査を実施し，その結果について報告書を作成するため，埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。
２　調査室に関する要項は，委員会の議を経て，別に定める。
（事務）
第７条　委員会に関する事務は，施設基盤部施設企画課において処理する。
（雑則）
第８条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，委員会が定める。

附則　この規程は，平成21年４月１日から施行する。

資料２　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室設置要項

第１　この要項は，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程第６条第２項の規定に基づき，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）に関し，必要な事項を定めるものとする。
第２　調査室は，国立大学法人愛媛大学（以下「本学」という。）の敷地内の施設整備に伴う埋蔵文化財の調査研究に関する次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 実施計画の立案及び実施に関すること。
(2) 遺物の整理及び保管に関すること。
(3) 報告書の作成に関すること。
(4) 出土埋蔵文化財及び調査成果の公開及び利活用に関すること。
(5) 本学の学生及び教員への実践的な教育及び研究の支援に関すること。
(6) その他必要な事項
第３　調査室に，室長，調査員その他所要の職員を置く。
第４　調査室に，必要に応じて，埋蔵文化財の調査研究に関し，それぞれの専門分野から特別な知識及び技術について協力及び助言を得るため，専門員を置くことができる。
第５　室長，調査員及び専門員は，国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）の議を経て，学長が任命する。
第６　室長，調査員及び専門員の任期は，委員会の議を経て，学長が定める。
第７　室長は，調査室に関する業務を掌理する。
２　調査員は，室長の指示の下，埋蔵文化財の調査研究に関する業務を行う。
第８　調査室に関する事務は，施設基盤部において処理する。
第９　この要項に定めるもののほか，調査室の運営に関し必要な事項は，委員会が定める。

附則　この要項は，平成16年８月４日から施行する。

資料３　愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議埋蔵文化財小委員会内規

（設置）
第１条　この内規は，愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議規程第７条第１項の規定に基づき，愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議に置く愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議埋蔵文化財小委員会（以下「小委員会」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。
（審議事項）
第２条　小委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 愛媛大学先端研究・学術推進機構埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の運営に係る基本事項に関すること。
(2) 調査室の予算及び決算に関すること。
(3) 愛媛大学の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
(4) 愛媛大学の埋蔵文化財の保護に係る重要事項に関すること。
(5) その他調査室の運営に関すること。
（組織）
第３条　小委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 愛媛大学先端研究・学術推進機構長（以下「機構長」という。）
(2) 調査室長
(3) 調査室の専任教員
(4) 関連学部等の専任教員 若干人
(5) 研究支援部長及び施設基盤部長
(6) その他委員長が必要と認めた者
２　前項第４号の委員は，当該教員の所属する当該学部等の長の推薦に基づき，機構長が委嘱する。
３　第１項第４号の委員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（委員長）
第４条　小委員会に委員長を置き，機構長をもって充てる。
２　委員長は，小委員会を招集し，その議長となる。
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
（議事）
第５条　小委員会は，委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。
２　議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員長が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，説明又は意見を聴くことができる。
（事務）
第７条　小委員会に関する事務は，研究支援部研究支援課及び施設基盤部施設企画課において処理する。
（雑則）
第８条　この規程に定めるもののほか，小委員会の運営に関し必要な事項は，小委員会が定める。

附 則　この内規は，平成26年４月10日から施行し，平成26年４月１日から適用する。

なければならず、報告書作成業務に専念できない状態が続いていた。事態を重く見た愛媛大学長の判断により、埋蔵文化財調査室調査員を１名増員することによって、施設整備事業への対応と報告書刊行スケジュールの円滑化を図ることとされた。その結果、2014年２月に柴田調査員が着任した。

さて、埋蔵文化財調査室では、愛媛大学構内における地盤掘削を伴う諸工事に際して、工事内容による埋蔵文化財への影響を周辺における既往の調査結果から判断し、それに応じた対応を行っている。2004年度、国立大学法人愛媛大学の発足以降、愛媛県教育委員会・松山市教育委員会と協議を重ね、2007年度から、周知の埋蔵文化財包蔵地においては、文化財保護法第93条に基づき、規模の大小に関わらず、工事着手の60日前までに、土木工事届を提出している。この土木工事届に対する通知に基づき、発掘調査・工事立会・慎重工事等の対応を行っている。また、周知の埋蔵文化財包蔵地とされていない団地でも、遺跡が存在しないというわけではなく、松山市教育委員会から愛媛大学による主体的な工事立会や確認調査の実施が求められており、これに対応する調査も行っている。

2013年度における埋蔵文化財に対する影響への確認と調査依頼は44件である（表４）。この調査依頼に対して、試掘調査や周辺における既往の調査結果から埋蔵文化財への影響を判断し、土木工事届等の所要の手続きを経た上で、８件について発掘調査を行った（表

資料４　愛媛大学埋蔵文化財調査室規程

（設置）
第１条　この規程は，国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第２項の規定に基づき，愛媛大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定めるものとする。
（目的）
第２条　調査室は，国立大学法人愛媛大学（以下「本学」という。）の敷地内の施設整備に伴う埋蔵文化財の調査研究を行うとともに，出土した埋蔵文化財を記録，保存及び活用し，もって本学の教育研究における学術的・社会的責務を果たすことを目的とする。
（業務）
第３条　調査室は，本学の敷地内の施設整備に伴う埋蔵文化財の調査研究に関する次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 実施計画の立案及び実施に関すること。
(2) 遺物の整理及び保管に関すること。
(3) 報告書の作成に関すること。
(4) 出土埋蔵文化財及び調査成果の公開及び利活用に関すること。
(5) 本学の学生及び教員への実践的な教育及び研究の支援に関すること。
(6) その他埋蔵文化財の調査研究に必要な事項
（組織）
第４条　調査室に，次の各号に掲げる職員を置く。
(1) 室長
(2) 専任教員
(3) 兼任教員
(4) その他必要な職員（以下「調査室職員」という。）
（学術研究会議）
第５条　調査室の業務に関する重要な事項は，愛媛大学先端研究・学術推進機構学術研究会議（以下「学術研究会議」という。）において審議する。
（室長）
第６条　室長候補者は，本学の専任の教授のうちから，学術研究会議が推薦し，学長が選考する。
２　室長の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，室長に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（専任教員）
第７条　専任教員は，学術研究会議が推薦し，国立大学法人愛媛大学人事委員会の議を経て，学長が選考する。
（兼任教員）
第８条　兼任教員は，本学の専任教員のうちから，室長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し，学長が任命する。
２　兼任教員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，兼任教員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（職務）
第９条　室長は，調査室の業務を掌理する。
２　専任教員は，室長の職務を助け，調査室の業務を遂行する。
３　兼任教員は，調査室の専任教員とともに調査室の業務を遂行する。
４　調査室職員は，調査室の業務に従事する。
（専門員）
第10条　調査室に，必要に応じて，埋蔵文化財の調査研究に関し，それぞれの専門分野から特別な知識及び技術について協力及び助言を得るため，専門員を置くことができる。
２　専門員に関し必要な事項は，別に定める。
（事務）
第11条　調査室に関する事務は，施設基盤部施設企画課及び研究支援部研究支援課において処理する。
（雑則）
第12条　この規程に定めるもののほか，調査室に関し必要な事項は，別に定める。

附則
１　この規程は，平成26年４月１日から施行する。
２　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査委員会規程（平成16年規則第19号）は，廃止する。
３　国立大学法人愛媛大学埋蔵文化財調査室設置要項（平成16年４月１日制定）は，廃止する。

表１　2013年度の埋蔵文化財調査委員会と埋蔵文化財調査室の体制

埋蔵文化財調査委員会

	氏　名	所属・役職	備　考
委員長	渡邉　春重	理事（総務担当）	
委　員	宮崎　幹朗	法文学部長	
委　員	田崎　博之	法文学部教授	埋蔵文化財調査室長
委　員	村上　恭通	東アジア古代鉄文化研究センター長	
委　員	三浦　和尚	教育学部長	
委　員	川岡　　勉	教育学部教授	
委　員	宇野　英満	理学部長	
委　員	安川　正貴	医学部長	
委　員	大賀水田生	工学部長	
委　員	仁科　弘重	農学部長	
委　員	西尾　澄気	総務部長	
委　員	水沼　浩司	財務部長	
委　員	大矢　浩二	施設基盤部長	

埋蔵文化財調査室

	氏　名	所　　属
室　　長	田崎　博之	法文学部教授
調　査　員	柴田　昌児	法文学部准教授（2014年２月１日～）
調　査　員	三吉　秀充	法文学部講師
兼任調査員	吉田　　広	ミュージアム准教授
専　門　員	村上　恭通	東アジア古代鉄文化研究センター長
専　門　員	川岡　　勉	教育学部教授
教育支援者	宮崎　直栄	施設基盤部施設企画課
教育支援者	田中いづみ	施設基盤部施設企画課
技能補佐員	井手野文江	施設基盤部施設企画課
技能補佐員	高須賀裕子	施設基盤部施設企画課（～2013年４月15日）
技能補佐員	高木あゆみ	施設基盤部施設企画課（2013年６月１日～）
事務補佐員	矢野　宜子	施設基盤部施設企画課（～2013年８月31日）
事務補佐員	濱田　亜矢	施設基盤部施設企画課（2013年10月１日～2014年２月21日）
学生補助員	蔵本　　諭	施設基盤部施設企画課（2013年６月１日～）

表２　2013年度発掘調査一覧

調査番号	団地	遺跡	工事名	調査種別	調査担当	調査期間	調査面積	出土遺物
01301	城北	文京52次	（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（その２）	本格調査（小規模調査）	三吉	2013年４月５日～４月15日	408㎡	0
01303	樽味	樽味12次	（樽味団地）総合研究棟（農学系）改修その他工事	本格調査（小規模調査）	三吉・田崎	2013年８月９日～10月８日	99㎡	0
01304	城北	文京55次	（城北団地）西門周辺環境整備工事	本格調査（小規模調査）	三吉	2013年８月27日～　８月29日	166㎡	1
01305	持田	持田８次	（持田団地）附属中学校体育館等改修工事	本格調査（小規模調査）	三吉	2013年11月８日 2014年２月４日	78㎡	0
01306	樽味	樽味13次	（樽味団地）附属高校校舎等改修工事	本格調査（小規模調査）	三吉	2013年11月18日～　11月29日	94㎡	1
01308	城北	文京56次	（城北団地）自家発電設備工事	本格調査（小規模調査）	三吉	2014年１月６日	6.4㎡	0
01309	城北	文京57次	（城北団地）総合研究棟（理学系）等環境整備（植栽等）工事	本格調査（小規模調査）	三吉・柴田	2014年１月27日、３月10日	61.4㎡	0
01310	持田	持田９次	（樽味団地・持田団地）基幹・環境整備（給水設備）工事	本格調査（小規模調査）	三吉・柴田	2014年２月21日	153㎡	0

表３　2013年度調査室・調査室資料利用一覧

	日　時	利　用　者	利　用　資　料	目　　的	利 用 内 容
1	2013/04/23	国立歴史民俗博物館教員	文京遺跡10次･26次調査出土遺物	研究	熟覧・実測・写真撮影
2	2013/04/25	愛媛大学法文学部人文学科教員	施設見学	教育（博物館実習）	施設見学
3	2013/06/15	西条市教育委員会職員	所蔵図書	研究	文献複写
4	2013/06/28	愛媛大学法文学部人文学科学生	文京遺跡10次･24次調査出土遺物	研究（卒業論文作成）	熟覧・写真撮影
5	2013/07/12	山口大学埋蔵文化財資料館職員	文京遺跡13次・18次・20次・45次調査出土遺物	研究	熟覧・写真撮影
6	2013/07/12	愛媛大学上級研究員	測量機材	教育	借用
7	2013/07/25	愛媛大学法文学部総合政策学科教員	御幸遺跡出土遺物	展示	借用
8	2013/08/01	愛媛大学法文学部人文学科教員	樽味遺跡出土遺物	教育（附属高校向け講義）	借用（熟覧・写真撮影）
9	2013/09/02	愛媛大学ミュージアム教員	旧歴史学研究会保管資料	教育	借用
10	2013/10/17	愛媛大学法文学部人文学科学生	所蔵図書	研究	借用
11	2013/11/15	愛媛大学法文学部人文学科教員・学生、復旦大学教員・学生	施設見学	教育（愛媛大学国際連携促進事業：平成25年度「中国史学の領域を基盤とする相互交流型インターンシップ」）	施設見学
12	2014/03/03	松山市内在住市民	調査室刊行物	研究	文献希望

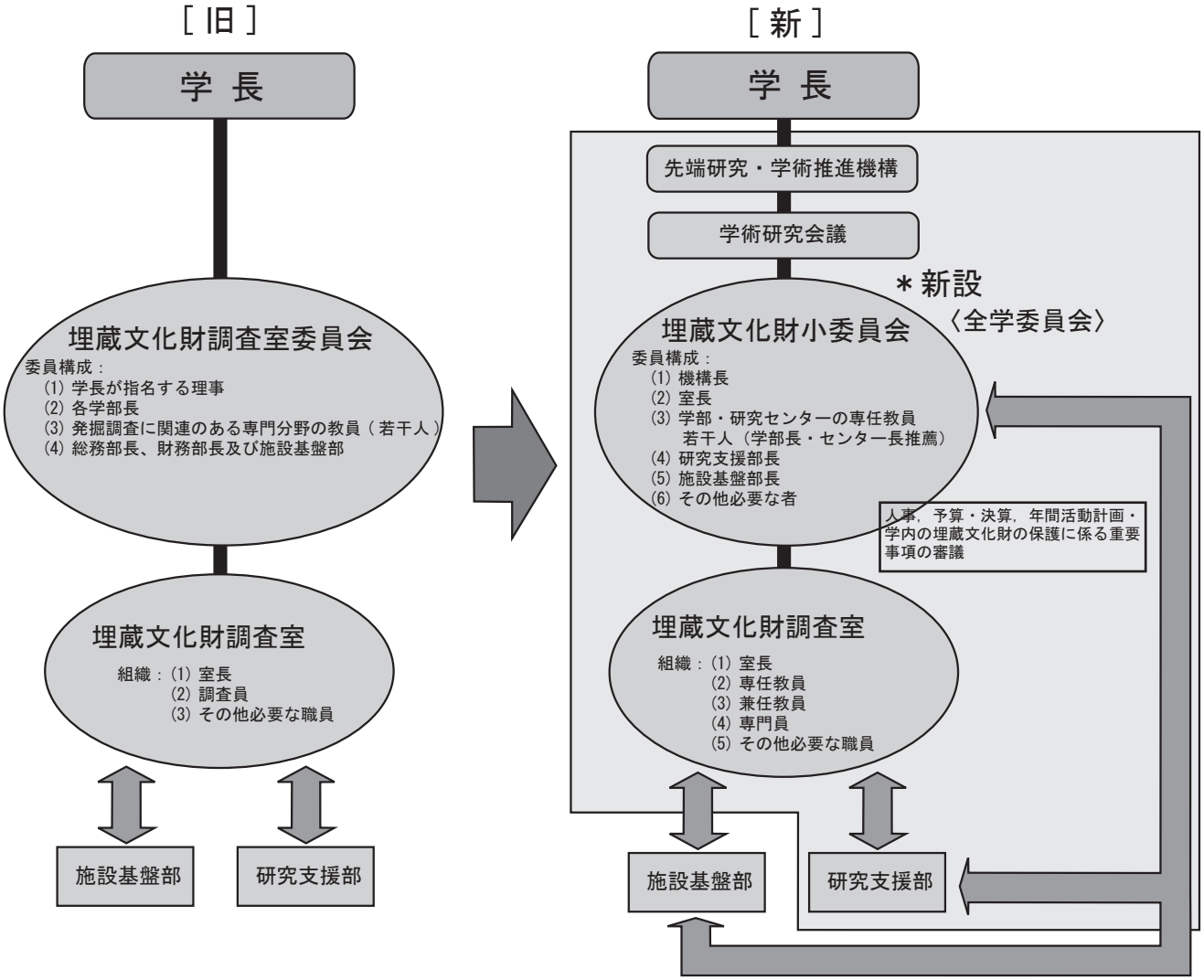


図１　埋蔵文化財調査室組織改編

２）。埋蔵文化財調査室では、発掘調査の規模に応じて、大規模調査と小規模調査に分類しているが、2013年度はいずれも小規模調査である。団地別では、城北団地で４件、樽味団地で２件、持田団地で２件である。その他、工事立会を19件実施した。試掘調査は城北団地と樽味団地で２件実施した。確認調査は山越団地で１件を実施した。

（２）整理作業

年報ならびに報告書刊行に向けた整理作業として以下の作業を行った。文京遺跡12次調査、文京遺跡14次調査の遺物復元補修作業、2012年度に調査を実施した文京遺跡45・49・50次調査、道後樋又遺跡３次調査、持田遺跡６・７次調査、立会調査で出土した遺物の注記・復元作業・遺物台帳作成作業、実測・写真撮影作業、遺構実測図のデジタルトレース作業・写真の整理作業を行った。さらに文京遺跡45次調査で採取した土壌の水洗作業、水洗した土壌からの微細遺物の選別作業を行った。

（３）印刷物の刊行

平成９年度に発掘調査を実施した文京遺跡16次調査Ａ区（平成９年度工学部校舎新営第Ⅲ期工事に伴う発掘調査）の正式調査報告書『文京遺跡Ⅶ－３』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告ＸＸⅥ－３）、文京遺跡16次調査Ｂ区（平成９年度工学部校舎新営第Ⅲ期工事に伴う発掘調査）の正式調査報告書『文京遺跡Ⅶ－４』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告ＸＸⅥ－４）をようやく刊行できた。加えて、2012年度に実施した全面調査の正式報告・概要報告と小規模調査・立会調査などの報告をまとめた『埋蔵文化財調査室年報―2012年度―』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告ＸＸⅦ）を刊行した。同年

表４　2013年度の埋蔵文化財調査依頼・照会一覧

依頼			対応					
日付	発	工事名	意見書・回答文書		土木工事届	調査		
2月12日	施設基盤部長	（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（その２）	2月14日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	2月18日	本格調査（文京遺跡52次調査）	2013年 ４月５日～４月15日	本文20頁
4月16日	施設基盤部長	（樽味団地）総合研究棟（農学系）改修その他工事	5月13日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	5月17日	本格調査（樽味遺跡12次調査）	８月９日～10月８日	本文29頁
4月19日	施設基盤部長	（城北団地）総合研究棟（教育学系）改修その他工事	4月23日	樹木の移植に伴う工事であり、周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	－	工事立会	５月９日～５月11日	写真１
4月30日	財務部長	（持田団地）附属特別支援学校敷地内電柱建替工事	5月７日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
5月２日	施設基盤部長	（城北団地）本部管理棟北側駐輪場改修工事	5月８日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。（平成24年７月３日付けで土木工事届を提出した工事に含まれる。）	－	工事立会	５月15日～５月16日	写真２～４
5月２日	施設基盤部長	（城北団地）喫煙所取設工事	5月８日	既設掘り返し部分（文京遺跡45次調査地点）の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
5月８日	施設基盤部長	（持田団地）附属特別支援学校校舎避難器具廻りフェンス取設工事	5月13日	周辺の既往調査から、工事による埋蔵文化財への影響はないと判断。	－	慎重工事	－	－
5月10日	施設基盤部長	（山越団地）馬糞置場取設工事	5月15日	周辺の既往調査から、工事による埋蔵文化財への影響はないと判断。	－	慎重工事	－	－
5月14日	施設基盤部長	（城北団地）救助袋固定用フック据付工事	5月15日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ぶと予想されるが、既掘部分が不明である。	－	工事立会	５月16日	写真５・６
5月14日	施設基盤部長	（樽味団地）附属高校校舎・ユーカリ会館耐震改修工事	6月21日	周辺における調査事例が少ないことから、試掘調査を実施し、試掘調査の報告を行う。	－	試掘調査（01302調査）	６月４日～６月６日	本文24頁
5月22日	施設基盤部長	（城北団地）教育学部４号館西側フェンス等取設工事	5月24日	周辺の既往調査から、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満であると判断。	6月７日	工事立会	７月17日	写真７・８
5月24日	施設基盤部長	（持田団地）附属幼稚園園舎給水管改修工事	5月28日	周辺の既往調査から、工事による埋蔵文化財への影響はないと判断。	－	慎重工事	－	－
7月１日	施設基盤部長	（城北団地）本部管理棟排水桝取設工事	7月24日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
7月３日	施設基盤部長	（城北団地）西門周辺環境整備工事	7月５日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	7月11日	本格調査（文京遺跡55次調査）	８月27日～８月29日	本文34頁
7月９日	施設基盤部長	（城北団地）総合研究棟（理学系）等改修その他工事	7月12日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満であると判断。	7月18日	工事立会	８月23日	写真９・10
7月17日	施設基盤部長	（城北団地）課外活動第１共用施設インターロッキング等修繕工事	7月19日	工事による掘削深度は、表土層内におさまると予想されるが、周辺における調査事例が少ないことから工事立会が必要と判断。	－	工事立会	８月９日	写真11
8月７日	施設基盤部長	（樽味団地）ユーカリ会館等改修工事（大講義室分）	8月12日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満であると判断。	8月21日	工事立会		写真12・13
8月21日	施設基盤部長	（城北団地）総合研究棟（理学系）等改修その他工事	8月21日	周辺の既往調査から移植工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満であることから工事立会が必要と判断。	－	工事立会	８月21・22日	写真14～16
8月28日	施設基盤部長	（城北団地）構内道路修繕工事	8月30日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満であると判断。	9月４日	工事立会	10月９日	写真17・18
8月29日	施設基盤部長	（持田団地）附属中学校体育館等改修工事	9月４日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	9月５日	本格調査（持田遺跡８次調査）	2013年11月８日、2014年２月４日	本文39頁
9月３日	施設基盤部長	（樽味団地）附属高校校舎等改修工事	9月10日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	9月13日	本格調査（樽味遺跡13次調査）	11月18日～11月29日	本文45頁
9月９日	施設基盤部長	（樽味団地）ユーカリ会館等改修工事（ユーカリ会館分）	9月25日	周辺の既往調査から工事地点の一部で埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	9月27日	工事立会（01312調査）	12月20日	本文104頁
9月19日	教育学生支援部学生生活支援課長	（山越団地）山越合宿研修施設プレハブ設置工事	9月20日	現地表下50cm間での掘削工事であり、周辺の既往調査から埋蔵文化財へ影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－

依　　頼			対　　応					
日　付	発	工　事　名	意　見　書・回　答　文　書		土木工事届	調　　査		
9月30日	施設基盤部長	（城北団地）総合研究棟（教育学系）改修工事	10月9日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	10月22日	慎重工事	－	－
10月3日	施設基盤部長	（山越団地）基幹環境整備（屋外排水）工事　合宿研修施設等改修機械設備工事	10月4日	山越団地における埋蔵文化財の情報が限られているため、工事に伴って確認調査が必要と判断。	－	確認調査	2013年12月4日～2014年1月10日	本文64頁
10月10日	施設基盤部長	（城北団地）自家発電設備工事	10月15日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満であると判断。	10月21日	本格調査（文京遺跡56次調査）	1月6日	本文93頁
10月16日	教育学生支援部事務課長	（持田団地）愛媛大学教育学部附属小学校創立130周年記念事業　遊具（ドラゴンスライダー）設置工事	11月12日	周辺の既往調査から、埋蔵文化財との間の土層が30cm以上であると判断。	11月14日	工事立会	12月25日	写真19・20
10月31日	施設基盤部長	（城北団地）本部管理棟周辺イロハモミジ植栽工事	11月6日	周辺の既往調査から、埋蔵文化財への影響はないと判断。	－	慎重工事	－	－
11月20日	施設基盤部長	（城北団地）総合研究棟（理学系）等環境整備（植栽等）工事	11月22日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削によって埋蔵文化財へ影響が及ぶと判断。	11月28日	本格調査（文京遺跡57次調査）	1月27日、3月10日	本文95頁
11月21日	施設基盤部長	（城北団地）総合研究棟（理学系）等環境整備（植栽等）工事	11月25日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削によって埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性があると判断。	－	工事立会	2月7日、2月10日	写真213～216
11月25日	施設基盤部長	（城北団地）自家発電設備支障樹木伐採業務	11月27日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削によって埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性があると判断。	－	工事立会	12月6日	写真21・22
11月27日	施設基盤部長	（樽味団地・持田団地）基幹・環境整備（自家発電設備）工事	12月2日	周辺の既往調査から、埋蔵文化財との間の土層が30cm以上であると判断。	12月4日	工事立会	2月12日	写真23～26
12月3日	施設基盤部長	（持田団地）附属小学校（創立130周年記念事業）	12月6日	附属小学校遊具タイヤの撤去に伴い、既存埋設位置の再掘削工事であるが、周辺の情報が限られていると判断。	－	工事立会	12月19日	写真27・28
12月5日	施設基盤部長	（城北団地他）防災倉庫新営工事	12月11日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満であると判断。	12月18日	工事立会	2月4日、2月11日 2月13日、2月17日	写真29～36
12月13日	施設基盤部長	（樽味団地・持田団地）基幹・環境整備（給水設備）工事	12月18日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満であると判断。	12月25日	本格調査（持田遺跡9次）	2月21日	本文99頁
1月15日	施設基盤部長	（樽味団地・持田団地）基幹・環境整備（給水設備）工事（設計変更）	1月16日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
1月22日	施設基盤部長	（城北団地）総合研究棟（法文学系）受変電設備改修工事	1月27日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
1月27日	施設基盤部長	（城北団地）共通教育講義棟北側スロープ取設工事	2月4日	周辺の既往調査から、工事による掘削面と埋蔵文化財との間の土層が30cm未満であると判断。	1月31日	工事立会	2月24日	写真37・38
1月27日	施設基盤部長	（城北団地）教育学部身障者用駐車場整備工事	2月14日	周辺の既往調査から、埋蔵文化財との間の土層が30cm以上であると判断。	1月31日	工事立会	2014年度に実施。	－
1月31日	施設基盤部長	（城北団地）総合情報メディアセンター北側通路整備工事	2月3日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	1月31日	慎重工事	－	－
2月19日	施設基盤部長	（城北団地）工学部本館等照明設備改修工事	2月21日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。	－	慎重工事	－	－
3月3日	施設基盤部長	（城北団地）城北事務センター1（生協売店部分）	3月18日	周辺における調査事例が少ないことから、試掘調査を実施し、試掘調査の報告を行う。	－	試掘調査（01311調査）	3月7日	本文102頁
3月14日	施設基盤部長	（城北団地）正門周辺樹木根回しその他業務	3月19日	周辺の既往調査から、工事地点の一部で、工事による掘削によって埋蔵文化財へ影響が及ぶ可能性があると判断。	－	工事立会	3月25日	写真39・40
3月17日	施設基盤部長	（城北団地）大学会館西側給水管修繕工事	3月24日	既設掘り返し部分の再掘削であり埋蔵文化財への影響が及ばないと判断。 ※緊急工事のため3月15日に工事を実施。施設基盤部担当職員より口頭で連絡を受け、掘削部分の状況は埋蔵文化財調査室調査員が確認。	－	－	－	－

写真１　（城北団地）総合研究棟（教育学系）改修その他工事に伴う工事立会

写真２　（城北団地）本部管理棟北側駐輪場改修工事に伴う工事立会

写真３　（城北団地）本部管理棟北側駐輪場改修工事に伴う工事立会

写真４　（城北団地）本部管理棟北側駐輪場改修工事に伴う工事立会

写真５　（城北団地）救助袋固定用フック据付工事に伴う工事立会

写真６　（城北団地）救助袋固定用フック据付工事に伴う工事立会

写真７　（城北団地）教育学部４号館西側フェンス等取設工事に伴う工事立会

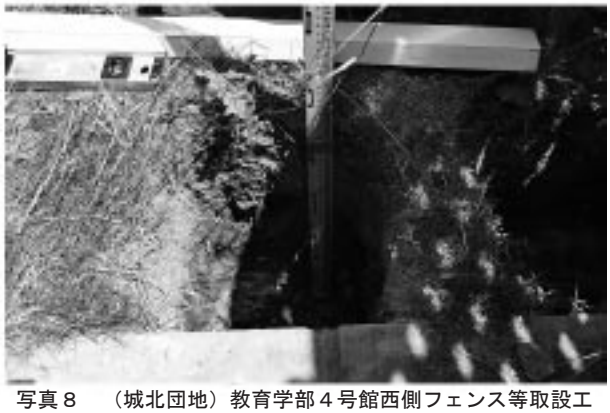


写真８　（城北団地）教育学部４号館西側フェンス等取設工事に伴う工事立会

写真９　（城北団地）総合研究棟（理学系）等改修その他工事に伴う工事立会

写真10　（城北団地）総合研究棟（理学系）等改修その他工事に伴う工事立会

写真11　（城北団地）課外活動第１共用施設インターロッキング等修繕工事に伴う工事立会

写真12　（樽味団地）ユーカリ会館等改修工事（大講義室分）に伴う工事立会

写真13　（樽味団地）ユーカリ会館等改修工事（大講義室分）に伴う工事立会

写真14　（城北団地）総合研究棟（理学系）等改修その他工事に伴う工事立会（移植地点）

写真15　（城北団地）総合研究棟（理学系）等改修その他工事に伴う工事立会（移植元・抜痕地点）

写真16　（城北団地）総合研究棟（理学系）等改修その他工事に伴う工事立会（抜痕地点）

写真17　（城北団地）構内道路修繕工事に伴う工事立会

写真18　（城北団地）構内道路修繕工事に伴う工事立会

写真19　（持田団地）愛媛大学教育学部附属小学校創立130周年記念事業遊具（ドラゴンスライダー）設置工事に伴う工事立会

写真20　（持田団地）愛媛大学教育学部附属小学校創立130周年記念事業遊具（ドラゴンスライダー）設置工事に伴う工事立会

写真21　（城北団地）自家発電設備支障樹木伐採業務に伴う工事立会

写真22　（城北団地）自家発電設備支障樹木伐採業務に伴う工事立会

写真23　（樽味団地）基幹・環境整備（自家発電設備）工事に伴う工事立会

写真24　（樽味団地）基幹・環境整備（自家発電設備）工事に伴う工事立会

写真25　（持田団地）基幹・環境整備（自家発電設備）工事に伴う工事立会

写真26　（持田団地）基幹・環境整備（自家発電設備）工事に伴う工事立会

写真27　（持田団地）附属小学校（創立130周年記念事業）に伴う工事立会

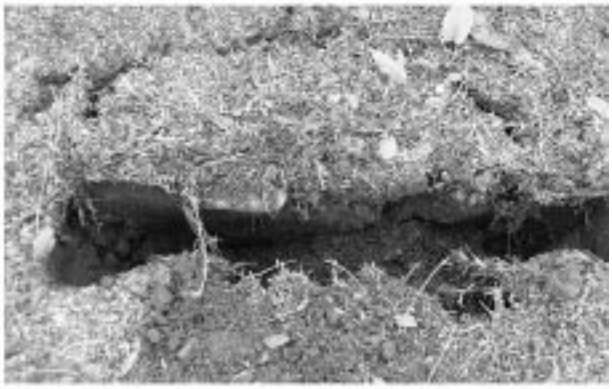


写真28　（持田団地）附属小学校（創立130周年記念事業）に伴う工事立会

写真29　（城北団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会

写真30　（城北団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会

写真31　（城北団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会

写真32　（城北団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会

写真33　（持田団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会

写真34　（持田団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会

写真35　（樽味団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会

写真36　（樽味団地）防災倉庫新営工事に伴う工事立会

写真37　（城北団地）共通教育講義棟北側スロープ取設工事に伴う工事立会

写真38　（城北団地）共通教育講義棟北側スロープ取設工事に伴う工事立会

写真39　（城北団地）正門周辺樹木根回しその他業務に伴う工事立会

写真40　（城北団地）正門周辺樹木根回しその他業務に伴う工事立会

写真41　復旦大学教員・学生による施設見学（１）

写真42　復旦大学教員・学生による施設見学（２）

写真43　公開講座の様子（１）

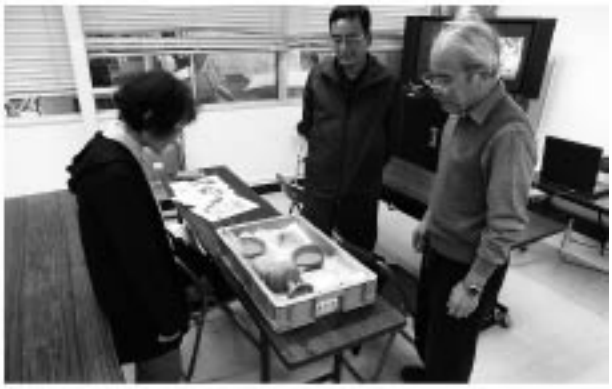


写真44　公開講座の様子（２）

写真45　公開講座の様子（３）

写真46　公開講座の様子（４）

報では文京遺跡49次・51次調査、道後樋又遺跡３次調査、持田遺跡６・７次調査の正式報告を行っている。

2012年度末に刊行した『埋蔵文化財調査室年報―2011年度―』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告ＸＸⅣ）『樽味遺跡Ⅴ』（愛媛大学埋蔵文化財調査報告ＸＸⅤ）を全国の大学・研究機関、文化庁、教育委員会・埋蔵文化財センター、博物館・資料館等へ発送した。

（４）広報、資料等の利活用

埋蔵文化財調査室では、これまで実施してきた構内遺跡出土の遺物や調査に関するデータなどを保管している。これらの調査室保管資料に関して、学内外から資料の公開や利用の要望が寄せられてきた。これに対して、埋蔵文化財調査室では資料の一部については、2009年11月に開館した愛媛大学ミュージアムにおいて

図２　城北団地調査地点位置図（縮尺1/2,000）

常設展示し、広報パンフレットの配布やWebを利用した情報発信、公開講座の企画・実施などを通じて積極的に広報活動を進めている。

①埋蔵文化財調査室保管資料の活用状況

2013年度、埋蔵文化財調査室保管資料等に対する資料申請件数は12件であった(表３)。内訳は学内７件、学外５件である。利用件数は例年より少ない。この他に法文学部地域文化実験演習における学部教育、法文学研究科埋蔵文化財論課題研究における大学院教育における教材として教育活動にも利用している。また、愛媛大学国際連携促進事業：平成25年度「中国史学の領域を基盤とする相互交流型インターンシップ」の一環で復旦大学教員・学生の教育の場としても利用されている（写真41・42)。そこでは室内整理作業の見学だけではなく、微細遺物の水洗選別作業を実際に体験してもらい、参加した教員・学生一同の興味を引いていた。中国ではあまり行われていない作業であり、日中間における考古資料の整理方法の違いを理解する上で役立ったと思われる。

②広報パンフレットの配布

埋蔵文化財調査室では、広報パンフレット『発掘愛媛大学』を作成し、希望者には随時配布している。2013年４月には、新入学生ならびに新規採用職員を対象として約2,400部を配布した。

③公開講座の開催

平成25年度愛媛大学公開講座『文京遺跡から学ぶ(9)―文京遺跡から東アジアの歴史と文化を探る―』を以下の日程で開催した（写真43～46)。

第１回　10月26日（土）田崎博之
「文京遺跡から読み取る東アジアの歴史―指輪・鏡・瑪瑙・管玉―」

第２回　11月２日（土）三吉秀充
「文京遺跡出土の須恵器・陶器に見る古代における対外交流」

第３回　11月16日（土）槙林啓介（愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター）
「文京遺跡と東アジアの農耕文化」

第４回　11月30日（土）田崎・槙林・三吉「討論」

今回の講座は、東アジアという歴史の流れの中で文京遺跡を位置づける試みであり、第１回～３回の講義では、文京遺跡から出土している指輪・鏡・瑪瑙・管玉といった装身具、古墳時代～古代の須恵器・陶器、農耕文化を採り上げて、東アジアの各地域の歴史と文化について講義を行った。年度末には平成25年度愛媛大学公開講座記録集『文京遺跡から学ぶ(9)』を刊行し、受講生ならびに関係機関へ配布した。

④Webを利用した広報活動

埋蔵文化財調査室では、2004年度にホームページを開設し、発掘調査や情報発信を行っている。2013年度は、樽味遺跡13次発掘調査速報や公開講座情報などを随時更新した。

（愛媛大学埋蔵文化財調査室ホームページアドレス http://www.ehime-u.ac.jp/~maibun/index.html 内の「2013年度のTOPICS」を参照）

⑤愛媛大学ミュージアム展示品関連事業

埋蔵文化財調査室は、2009年11月に開館した愛媛大学ミュージアム「人間の営み」ゾーンにおいて、文京遺跡を中心とした構内遺跡出土資料の常設展示を行っており、2013年度も継続して展示活動を行っている。

（三吉）

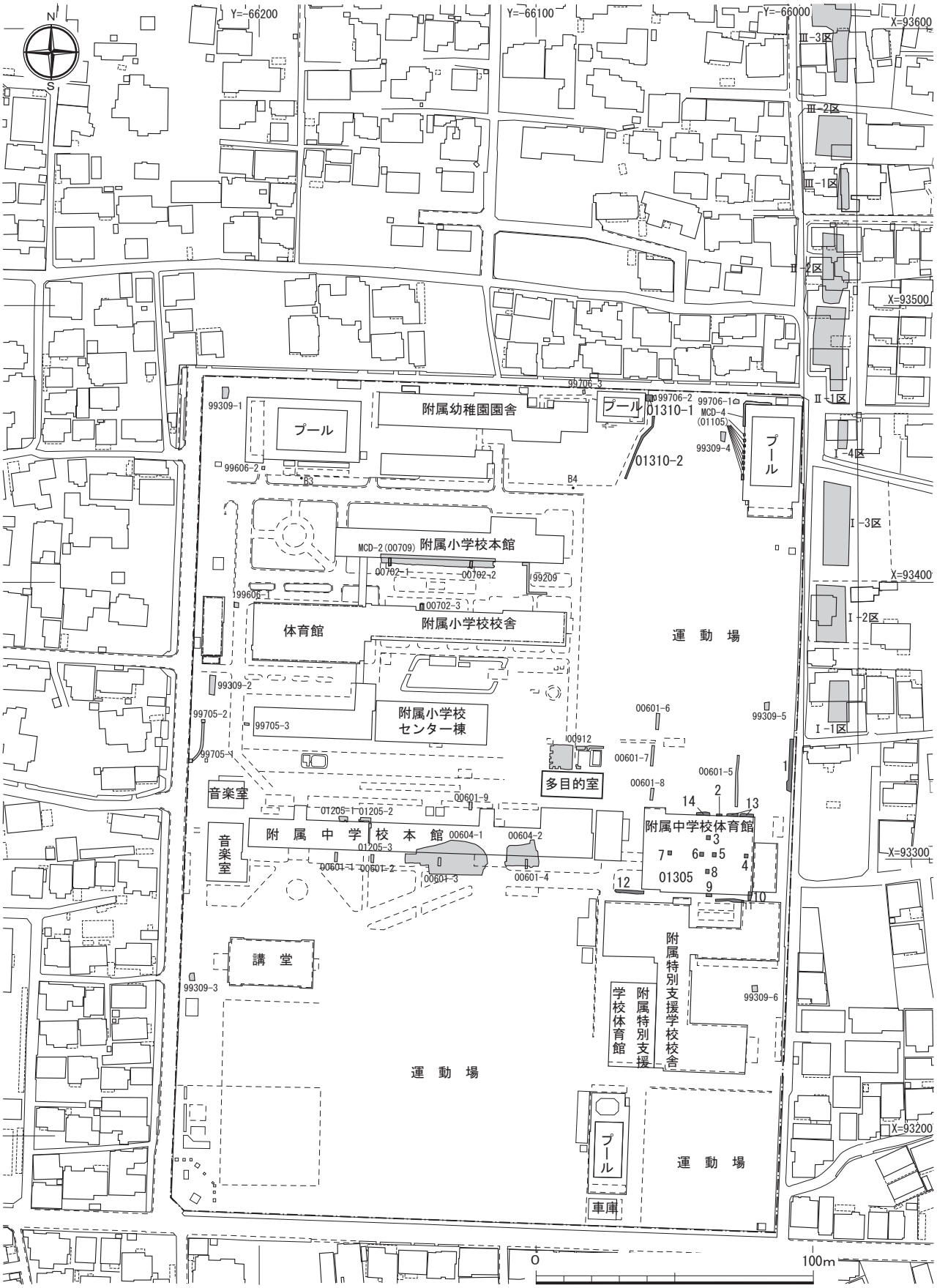


図３　持田団地調査地点位置図（縮尺1/2,000）

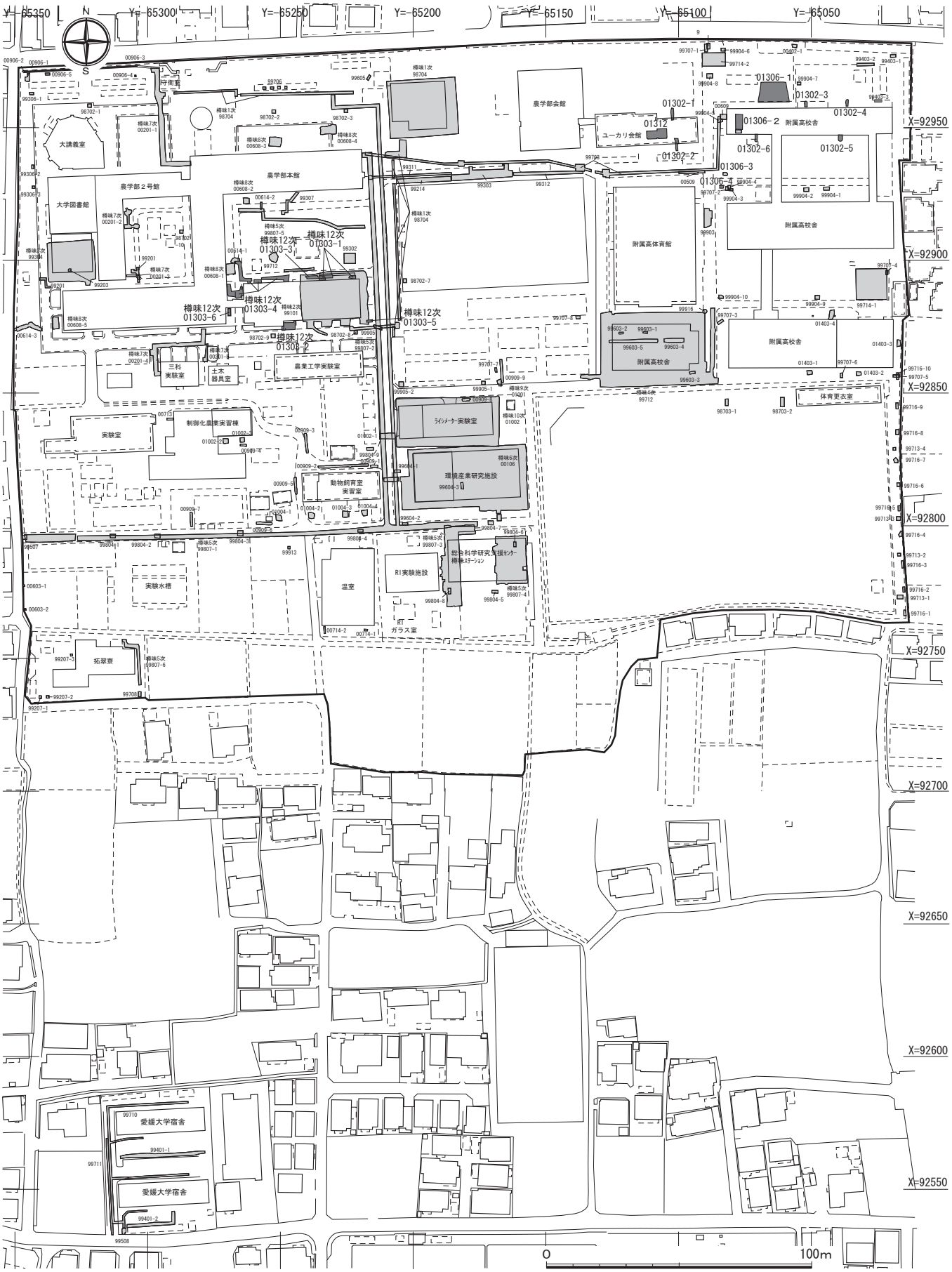


図４　樽味・北吉井団地調査地点位置図（縮尺1/2,000）

Ⅱ　2013年度の発掘調査

01301　（城北団地）基幹・環境整備（給水設備等改修）工事（その２）に伴う発掘調査（文京遺跡52次調査）

調 査 地 点　松山市文京町３番　城北団地内
調 査 面 積　408㎡
調 査 期 間　2013年４月５日～４月15日
調査の種別　本格調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
（平成25年２月12日付）

１　はじめに

2013年２月、施設基盤部より城北団地内ミュージアム東側で実施している基幹・環境整備（給水設備等改修）工事に引き続いて、共通教育講義棟の南部と北部における環境整備事業ならびに教育学部技術科実習棟の改修工事計画の提示があった。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で、埋蔵文化財への影響をできるだけ少なくするよう工事計画の見直しを行った後、同年２月18日付で土木工事等届出書を提出した。同年３月７日付で愛媛県教育委員会より指示があった(図５)。それによると、共通教育講義棟の北側で実施する工事に関して発掘調査の指示で、その他の工事については工事立会・慎重工事（写真49～52)、同棟の南側で実施する工事については工事立会・慎重工事（写真53・54)、技術科実習棟東側で実施する工事に関しては工事立会の指示があった。これを受けて、同年３月11日付で埋蔵文化財発掘調査届出書を提出し、３月13日付で受理したとの通知があった。

３月下旬から発掘調査に着手する予定であったが、既存構造物の撤去作業や年度末における学内諸行事により平成24年度内に着手できず、年度を越えた４月になって発掘調査を実施した。なお、技術科実習棟東側工事部分（３区）については、３月に工事立会を行い、既掘部分の掘り返しであることを確認した。本報告は、発掘調査の正式報告である。

２　調査の記録（図６）

共通教育棟講義棟北側の東西道路部分を１区とし、南西部の縁石およびインターロッキング舗装工事部分を２区とした。

１区は、東西約77ｍ、南北約５ｍの調査区である(写真47)。調査区中央部分を東西方向に共同溝が走っており、調査区内の大部分においてすでに埋蔵文化財が破壊されていると考えられる。調査では、重機を用いて調査区東端部、中央部では現地表から約８㎝、西端部では現地表から約30㎝まで掘り下げを行い、表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

２区では、花壇縁石部分から約50㎝掘り下げを行い、瓦礫を伴ったⅠ層が続いていることを確認した(写真48)。

３　まとめ

今回の調査では、１区、２区ともに工事による掘削はⅠ層におさまっていることを確認し、掘削が及ばない現地表から30～50㎝以下については、現状保存することとした。１区に関しては、報告でも述べたように共同溝設置に伴う掘削工事の際、埋蔵文化財の大部分がすでに破壊されていると想定される。ただ一部では、埋蔵文化財が残されている可能性も残されており、周辺における諸工事の際には、共同溝の掘り形の範囲をつかみ、正確な埋蔵文化財の残存状況の把握に努める必要がある。以上の経緯から、今後、１区・２区範囲で深度が深い掘削を伴う諸工事を行う際には、発掘調査等を実施しなければならない。　（三吉）

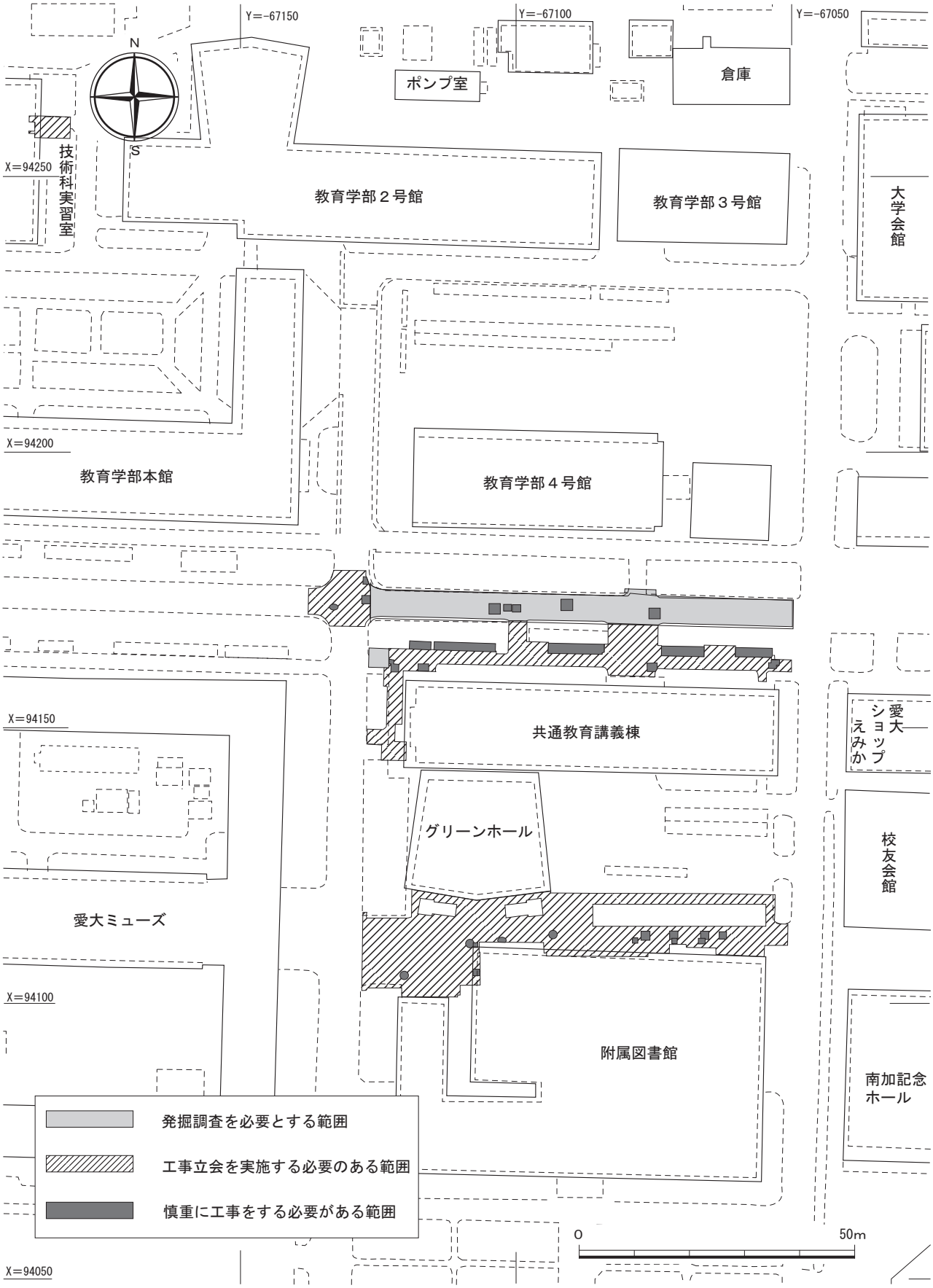


図５　01301調査（文京遺跡52次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲

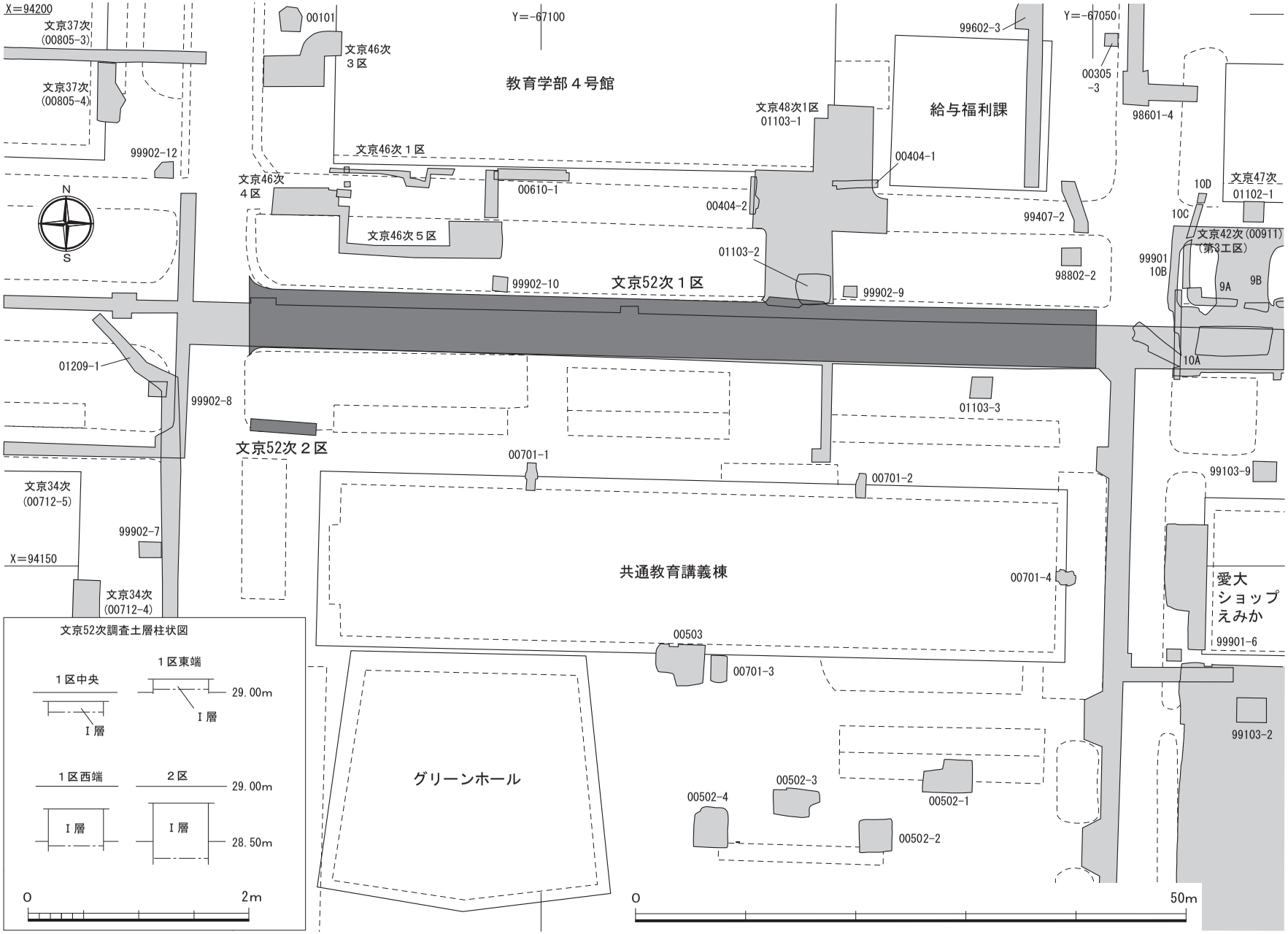


図６　01301調査（文京遺跡52次）調査区平面図（縮尺1/500）および土層柱状図（縮尺1/50）

写真47　01301調査　１区完掘状況（東から）

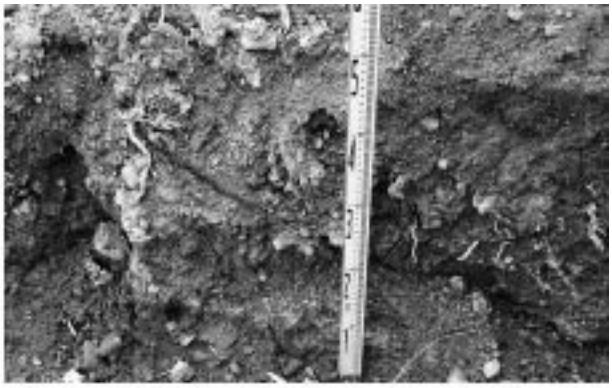


写真48　01301調査　２区北壁土層（南から）

写真49　01301調査　共通教育講義棟北側工事立会（南から）

写真50　01301調査　共通教育講義棟北側工事立会（西から）

写真51　01301調査　共通教育講義棟北側工事立会地点土層（東から）

写真52　01301調査　共通教育講義棟西側工事立会（西から）

写真53　01301調査　共通教育講義棟南側工事立会（東から）

写真54　01301調査　共通教育講義棟南側工事立会（西から）

01302　（樽味団地）附属高校校舎・ユーカリ会館耐震改修工事に伴う試掘調査

調 査 地 点　松山市樽味３丁目２番および５番
　　樽味団地内
調 査 面 積　17.9㎡
調 査 期 間　2013年６月４日～６月６日
調査の種別　試掘調査
調 査 担 当　三吉秀充
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成25年５月14日付）

１　はじめに

愛媛大学では、近年、既設建物の耐震改修工事を継続的に進めている。2013年３月中旬、施設基盤部との協議の中で、2013年度樽味団地内附属高校、ユーカリ会館の耐震改修工事を予定しているとの報告がなされた。附属高校ならびにユーカリ会館周辺における発掘調査ならびに工事立会件数は少なく、埋蔵文化財の分布状況も不明である上に、耐震改修予定建物の余掘り範囲も不明であった。そこで、余掘り範囲の確定と埋蔵文化財の分布状況の確認を目的として試掘調査を実施することとした。５月中旬、現地にて耐震改修予定建物を確認し、試掘地点を確定した。当初、試掘調査は附属高校の夏休み期間に実施予定であったが、日程を前倒しして６月上旬に実施した。

本報告は、発掘調査の正式報告である。

２　調査の記録

ユーカリ会館周辺で２地点、附属高校校舎周辺で４地点の調査区を設定した（図17・43）。

（１）ユーカリ会館周辺

ユーカリ会館北側に設けた調査区を１トレンチ、南側に設けた調査区を２トレンチとした。

①１トレンチ（図７・43、写真55～57）

ユーカリ会館北壁に接した南北長4.6m、東西幅0.8～1.1mの調査区である。建物北壁から北へ約1.8mまでの範囲は、建物北側を巡る縁石基礎等があることから掘り下げることができなかった。建物北壁から北へ約1.8m地点より北については、現地表下50～55㎝まで瓦礫を伴った表土層であるⅠ層が続く。Ⅰ層の直下には、団地造成以前の水田層であるⅡ層が堆積する。Ⅱ層は褐灰（10YR6/1）色シルトで明黄褐（2.5Y7/6）色砂質シルトのブロックが混じる。Ⅱ層直下、現地表下約80㎝でⅣ層が出土する。Ⅳ層は調査区内東側では黄（2.5Y7/6）色砂質シルト、西側では明黄褐（2.5Y8/6）色細砂に変化する。建物建設に伴う余掘りの範囲は確定できなかった。しかし、建物北壁から約1.8mの地点でⅡ層・Ⅳ層を確認しており、余掘り範囲はそれより建物近くにおさまっている。

②２トレンチ（写真58～60）

ユーカリ会館南壁に接した南北長4.75m、北部では東西幅1.1m、南部では東西幅0.8mの調査区である。調査区内には東西方向にのびる配管が４本走り、調査区南部は大型の瓦礫を多く含んだ表土層であるⅠ層がみられた。さらに調査区南部には周辺樹木の根が大量にのびていることから、現地表下95㎝まで掘り下げ、Ⅰ層が続いていることを確認して、調査を終了した。調査区内北東隅部で建物基礎の上部を検出したのみで、余掘り範囲の確定は行えなかった。

（２）附属高校校舎周辺

今年度改修工事が計画されている第１棟の北側と南側で、それぞれ東西に２つの調査区を設けた。北側西部に設けた調査区を３トレンチ、北側東部に設けた調査区を４トレンチ、南側東部に設けた調査区を５トレンチ、南側西部に設けた調査区を６トレンチとした。

①３トレンチ（図８・17、写真61・62）

附属高校第１棟北壁犬走りに接した南北長2.1m、東西幅1.0～1.1mの調査区である。第１棟北壁から北へ約2.12mの範囲まで建物建設時の余掘りが続く。調査区内北端部では、現地表下約132㎝まで瓦礫を伴った表土層であるⅠ層が続き、直下で明黄褐（10YR7/6）色シルトのⅣ層が出土している。

②４トレンチ（図８・17、写真63・64）

附属高校第１棟北壁犬走りに接した南北長2.55m、東西幅0.7～0.95mの調査区である。第１棟北壁から北へ約2.45mの範囲まで建物建設時の余掘りが続く。調査区内北端部では、現地表下約81㎝まで瓦礫を伴った表土層が続き、Ⅰ層直下でにぶい黄橙（10YR7/4）色シルトのⅣ層が出土している。

③５トレンチ（図８・17、写真65・66）

附属高校第１棟南側廊下に接した南北長2.3m、東西幅1.55～1.6mの調査区である。南端部以外は、校舎建設時あるいは管路設置工事に伴い破壊されている。

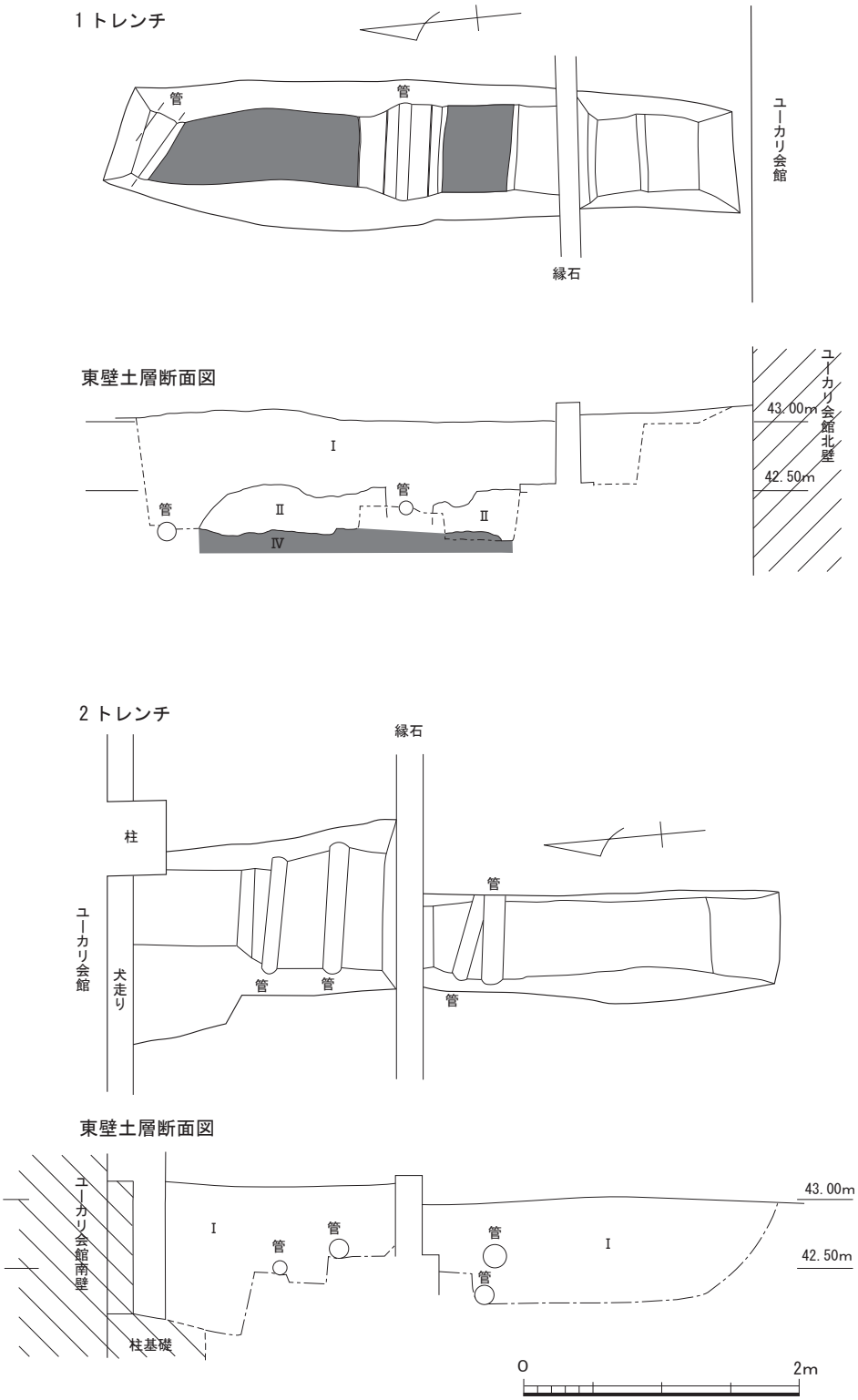


図７　01302調査１・２トレンチ平面図および土層断面図（縮尺1/50）

写真55　01302調査　１トレンチ（北西から）

写真56　01302調査　１トレンチ（北西から）

写真57　01302調査　１トレンチ南端部（南西から）

写真58　01302調査　２トレンチ（南東から）

写真59　01302調査　２トレンチ北端部（西から）

写真60　01302調査　２トレンチ南部（西から）

破壊前の状況をとどめている調査区南端部では、現地表下約40cmまで瓦礫を伴った表土層であるⅠ層が続き、直下でⅡ層が出土した。Ⅱ層は、団地造成前の水田あるいは畠の耕作土であり、黄灰（2.5Y6/1）色シルトである。Ⅱ層直下、現地表下約50cmでⅣ層が出土した。Ⅳ層はにぶい黄橙(10YR7/4）色シルトである。Ⅳ層上面では、団地造成以前の畠耕作に伴う天地返しの小溝が出土した。

調査区内では校舎建設時の余掘りと考えられる掘り込みは確認できなかった。校舎南壁から南へ約3.05mの地点では、調査区南端部より25cm低い、現地表下75cmでⅣ層が出土している。管路設置工事の際の掘削によってⅣ層が掘り込まれており、校舎建設時の余掘りではない。このことから校舎建設時の余掘り範囲は、この地点より北側であることになる。これより北側には廊下が設置されており、調査ができなかった。建物南壁から廊下南端部までの長さが約2.25mであり、校舎北側の２地点の状況からすると、廊下の範囲内が余掘り範囲に相当する可能性が高い。

④６トレンチ（図８・17、写真67・68）

附属高校第１棟南側廊下に接した南北長2.5m、東西幅0.9～0.95mの調査区である。調査区南部では現

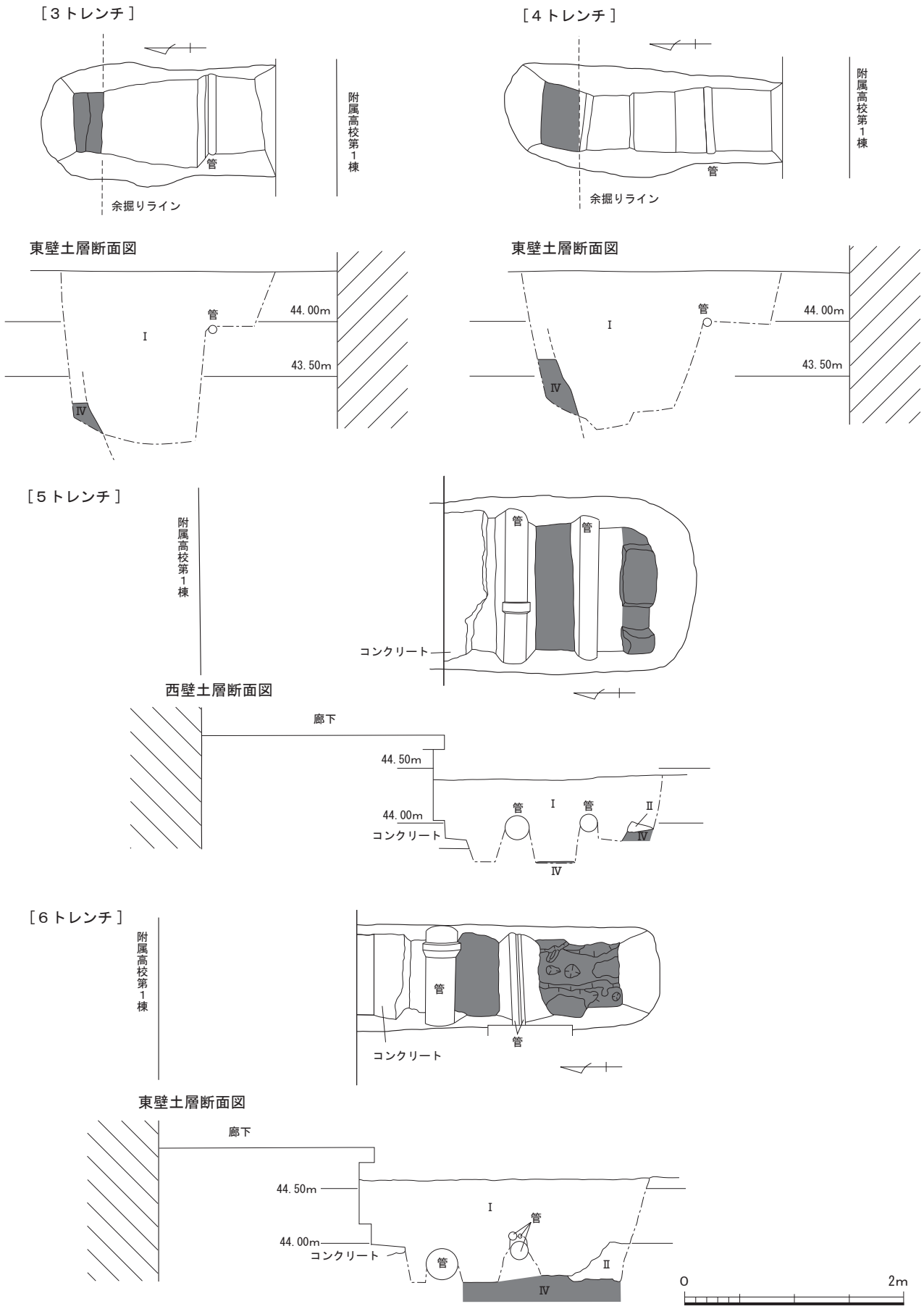


図８　01302調査３～６トレンチ平面図および土層断面図（縮尺1/50）

写真61　01302調査　３トレンチ（西から）

写真62　01302調査　３トレンチ（南西から）

写真63　01302調査　４トレンチ（東から）

写真64　01302調査　４トレンチ（西から）

写真65　01302調査　５トレンチ（西から）

写真66　01302調査　５トレンチ（西から）

写真67　01302調査　６トレンチ（南東から）

写真68　01302調査　６トレンチ（北西から）

地表下58cmまで表土層であるⅠ層が続き、Ⅰ層直下で黄灰（2.5Y6/1）色シルトのⅡ層が出土した。Ⅱ層は団地造成前の水田あるいは畠の耕作土である。Ⅱ層直下の現地表下93cmでⅣ層が出土した。Ⅳ層は橙（7.5YR6/6）色～明黄褐（10YR7/6）色シルトである。Ⅳ層上面では南北方向に続く団地造成以前の畠に伴う小溝が出土している。その他の遺構は確認できなかった。

調査区内で校舎建設時の余掘り範囲を確定できる掘り込みは確認できなかった。建物南壁から南へ約2.8mの地点では、現地表下95cmでⅣ層が出土しており、この地点までは校舎建設時の余掘りが及んでいない。５トレンチ同様、建物南壁から廊下南端部までの約２mの範囲内に余掘りが収まっている可能性が高い。

３　まとめ

（１）ユーカリ会館

ユーカリ会館北側、南側の１・２トレンチでは、ともに建物建設時の余掘り範囲は確定できなかった。ただし、１トレンチの結果から、ユーカリ会館北側では、建物北壁から約1.8mまでは余掘り範囲におさまっている。余掘り範囲以外では現地表下約80cmで基本層序Ⅳ層が出土している。弥生時代～中世の遺構・遺物を包含する基本層序Ⅲ層は出土していない。

（２）附属高校校舎

第１棟北側の校舎建設時の余掘り範囲は、建物北壁から３トレンチでは2.12m、４トレンチでは2.45mまでである。第１棟南側の正確な校舎建設時の余掘り範囲は確定できていないが、建物南壁から５トレンチでは3.05m、６トレンチでは2.8mまでの範囲内におさまっていると考えられる。

第１棟北側の３トレンチでは現地表下132cm、４トレンチでは現地表下81cmで基本層序Ⅳ層が出土している。また南側の５トレンチでは現地表下50cm、６トレンチでは現地表下93cmで基本層序Ⅳ層が出土している。Ⅲ層は出土していない。

（３）今後の対応

今回の試掘調査では、弥生時代～中世の遺物包含層である樽味遺跡基本層序Ⅲ層や遺構は確認できていない。しかしながら、附属高校第１棟の南東部で実施した99707調査２トレンチ、99904調査４トレンチではⅢ層が、99904調査３トレンチではⅣ層上面で柱穴・小穴、小溝などの遺構が出土している。第１棟の西側で実施した99904調査５トレンチではⅢ層が出土している。

以上の状況からすると、工事地点周辺に遺跡が展開していることは確実である。耐震改修工事に伴う掘削工事が、上記で想定した余掘り範囲を越える場合や掘削深度が深くなる場合に関しては、本格調査等の対応が必要である。　（三吉）

01303　（樽味団地）総合研究棟（農学系）改修その他工事に伴う発掘調査（樽味遺跡12次調査）

調 査 地 点　松山市樽味三丁目118番地１の一部　樽味団地内
調 査 面 積　99㎡
調 査 期 間　2013年８月９日～10月８日
調査の種別　本格調査
調 査 担 当　三吉秀充・田崎博之
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡（平成25年４月16日付）

１　はじめに

2013年３月中旬、施設基盤部から農学部３号館周辺において改修工事を計画しているとの報告があり、平成25年４月16日付で、施設基盤部から埋蔵文化財調査室に対して依頼が行われた。同年５月17日付で土木工事等届出書を提出した。６月17日付で愛媛県教育委員会から「発掘調査を必要とする範囲」「工事立会が必要となる範囲」「慎重に工事をする必要がある範囲」の指示があった（図９）。「発掘調査を必要とする範囲」との指示があった該当工事地点については、同年６月25日付で発掘調査届出書の提出を行い、７月２日付で発掘調査に係る届出を受理したとの通知があった。これを受けて、工事の実施時期に対応しながら８月９日に１トレンチ、10月１日に２～５トレンチ、10月８日に６トレンチの発掘調査を行った。これとは別に、工事立会の指示があった農学部２号館東側の中庭での工事については、７月２日に工事立会を実施し、樽味遺跡基本層序Ⅰ層内に収まっていることを確認し

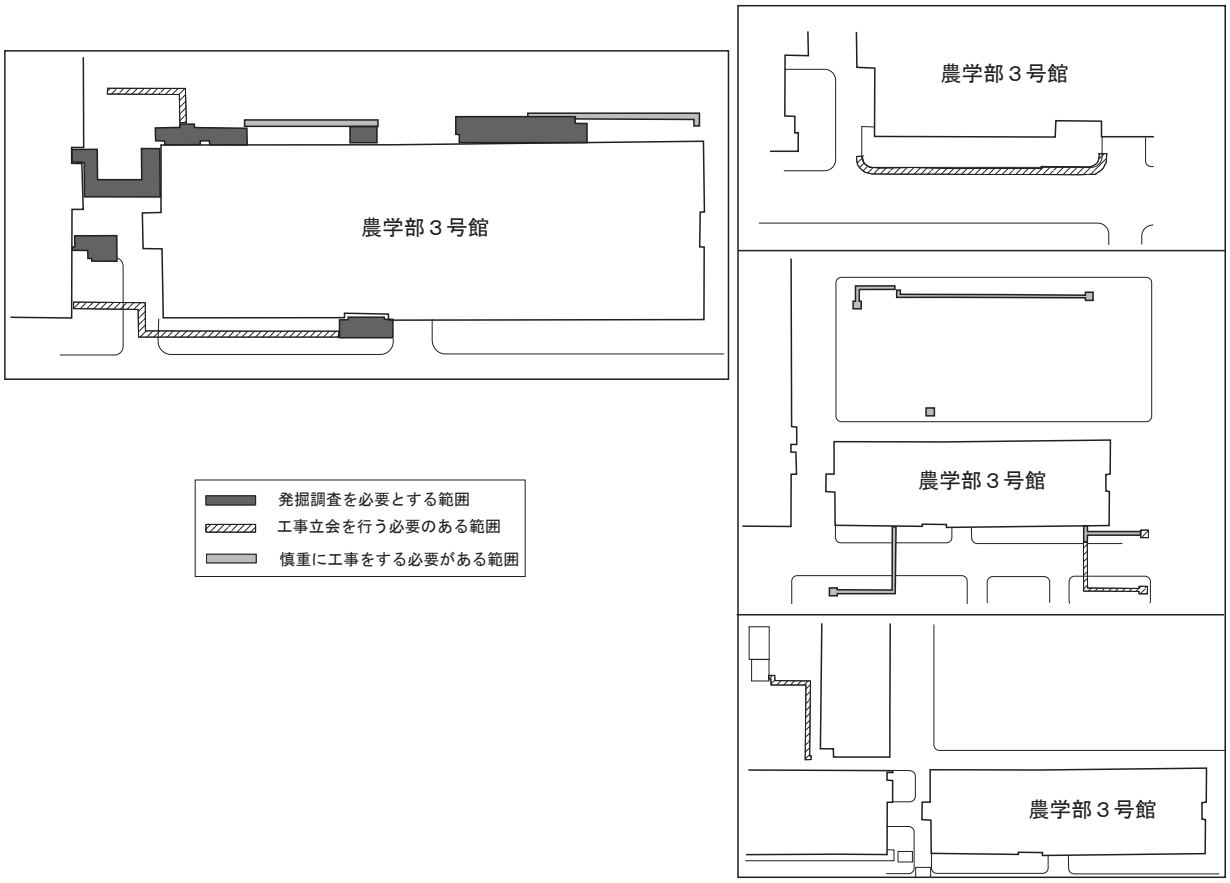


図９　01303調査（樽味遺跡12次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲

た（写真81・82）。

本報告は、発掘調査の正式報告である。

２　調査の記録（図10）

（１）１トレンチ（写真69～71）

農学部３号館北東部に設けた調査区である。調査区全体が、樽味遺跡２次調査範囲内に含まれている。東側建物際の調査区を１-①トレンチ、西側建物際の調査区を１-③トレンチ、東西方向にのびる調査区を１-②トレンチとした。現地表下70～75cmまで重機を用いて掘り下げを行い、瓦礫を伴ったⅠ層が続いていることを確認して調査を終了した。

（２）２トレンチ（写真72）

農学部３号館南側中央付近に設けた調査区である。現地表下58cmまで重機を用いて掘り下げ、瓦礫を伴ったⅠ層が続いていることを確認して調査を終了した。

（３）３トレンチ（写真73）

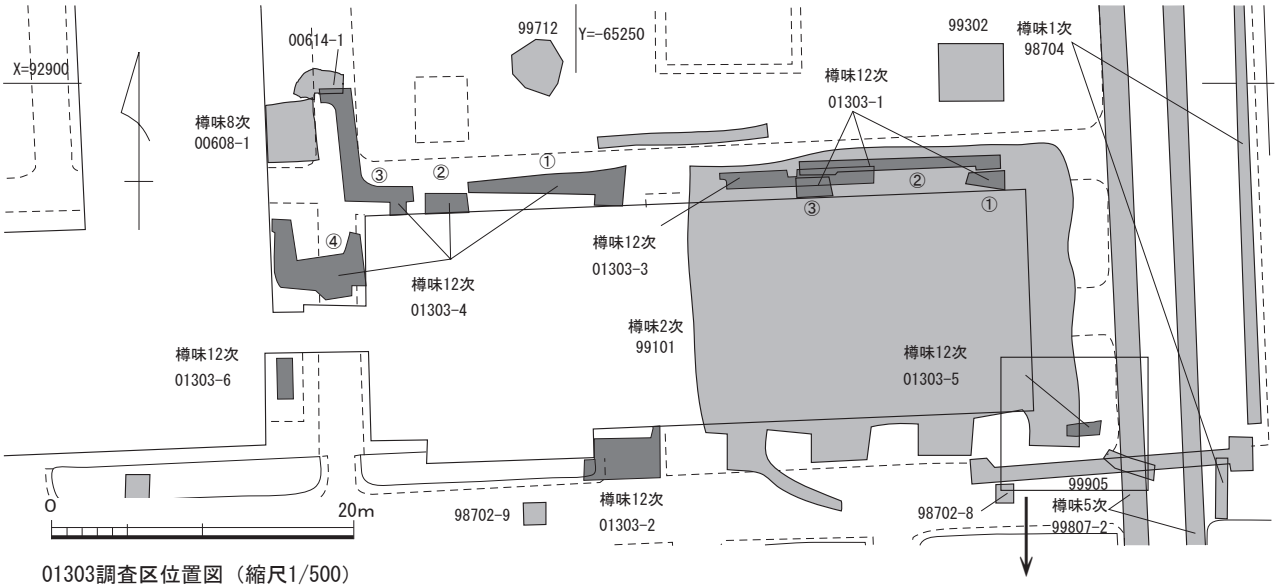
農学部３号館北側中央部に設けた調査区である。１トレンチの西側になる。調査区全体が、樽味遺跡２次調査範囲内に含まれている。現地表下43cmまで重機を用いて掘り下げを行い、瓦礫を伴ったⅠ層が続いていることを確認して調査を終了した。

（４）４トレンチ（写真74～78）

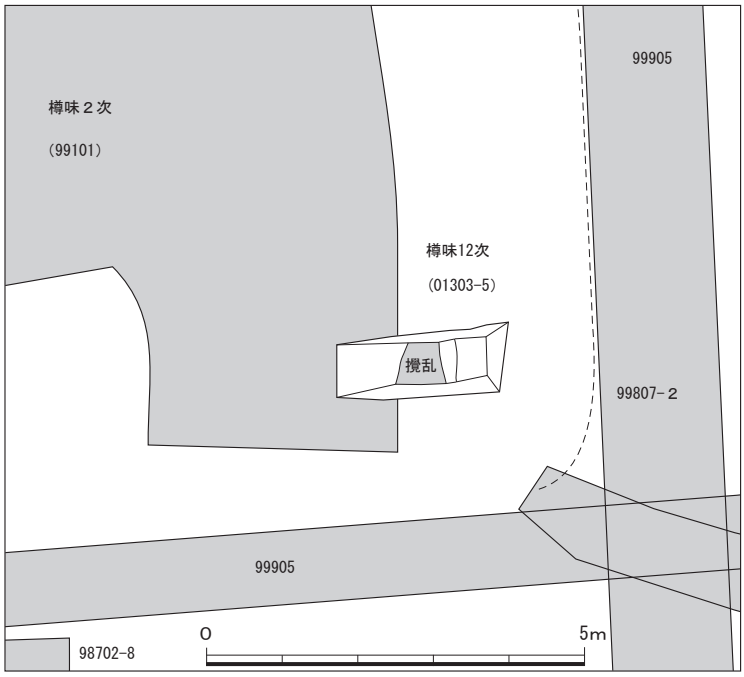
農学部３号館北西部に設けた調査区である。東から西に向けて順に４-①トレンチ、４-②トレンチ、４-③トレンチ、南西部を４-④トレンチとした。現地表下50～65cmまで重機を用いて掘り下げを行い、瓦礫を伴ったⅠ層が続いていることを確認して調査を終了した。

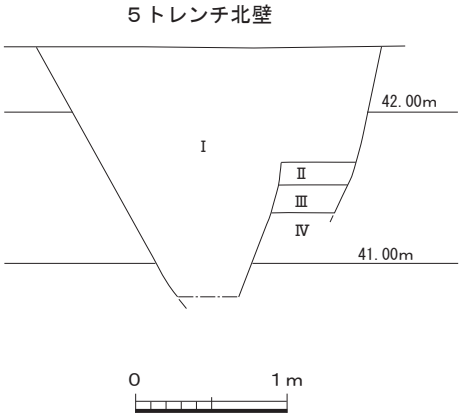
（５）５トレンチ（写真79）

農学部３号館南東部に設置する外灯基礎工事地点に設けた調査区である。愛媛県教育委員からの指示では「工事立会を実施する必要のある範囲」にあたる。現地表下75cmまで、瓦礫を伴ったⅠ層が続き、直下で褐灰色砂質土であるⅡ層が出土した。Ⅱ層直下、現地表下90cmで暗褐色シルトのⅢ層が出土した。Ⅲ層は約20cm堆積し、Ⅲ層直下、現地表下110cmでⅣ層が出土した。工事による掘削深度である現地表下165cmまでⅣ層が続いていることを確認して調査を終了した。遺物



01303調査区位置図（縮尺1/500）





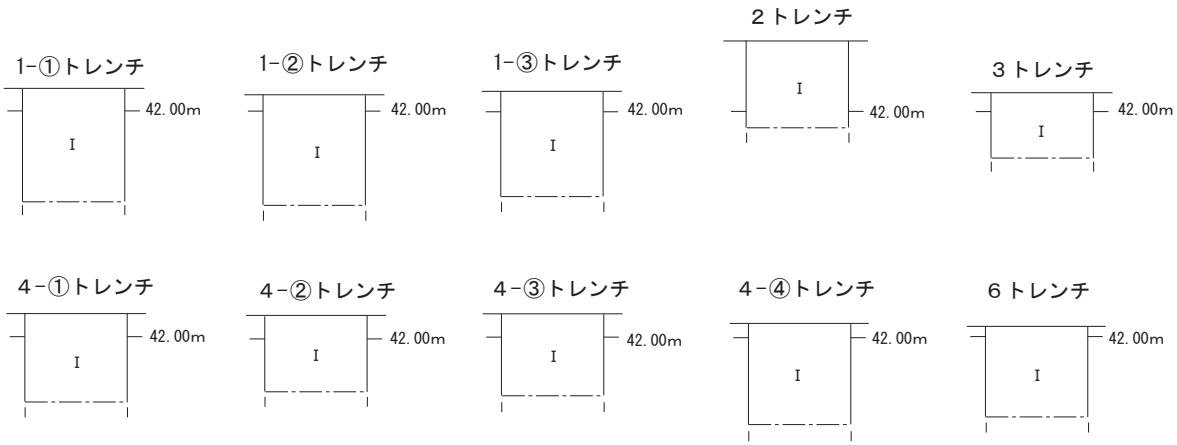


図10　01303調査（樽味遺跡12次）調査地点位置図（縮尺1/500）、５トレンチ平面図（縮尺1/100）、
１～６トレンチ土層図（縮尺1/50）

写真69　01303調査　１-①トレンチ全景（北東から）

写真70　01303調査　１-②トレンチ全景（東から）

写真71　01303調査　１-③トレンチ全景（東から）

写真72　01303調査　２トレンチ全景（南西から）

写真73　01303調査　３トレンチ全景（西から）

写真74　01303調査　４-①トレンチ全景（西から）

写真75　01303調査　４-②・③トレンチ全景（西から）

写真76　01303調査　４-③トレンチ全景（南から）

写真77　01303調査　４-③トレンチ全景（南西から）

写真78　01303調査　４-④トレンチ全景（南から）

写真79　01303調査　５トレンチ全景（南から）

写真80　01303調査　６トレンチ全景（東から）

写真81　01303調査　農学部２号館東側工事立会（南から）

写真82　01303調査　農学部２号館東側工事立会（東から）

は出土していない。

（6）６トレンチ（写真80）

農学部３号館南西部に設けた調査区である。現地表下60㎝まで重機を用いて掘り下げを行い、瓦礫を伴ったⅠ層が続いていることを確認して調査を終了した。

３　まとめ

今回の調査地点の中で、埋蔵文化財を確認できたのは５トレンチのみである。１～４トレンチおよび６トレンチは、既往の調査範囲、既存建物の余掘り範囲内に収まっていることを確認できた。５トレンチでは、基本層序Ⅲ層が出土している。調査区が狭かったために遺物包含層としたが、調査地点の南側である99905調査４トレンチでは中世の溝が出土しており、これらに関連する遺構の可能性も考えられる。今後の調査で確認する必要がある。（三吉）

01304　（城北団地）西門周辺環境整備工事に伴う発掘調査（文京遺跡55次調査）

調査地点　松山市文京町３番　城北団地内
調査面積　166㎡
調査期間　2013年８月27日～８月29日
調査の種別　本格調査
調査担当　三吉秀充
調査補助　宮崎直栄
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
（平成25年７月３日付）

１　はじめに

2013年６月、施設基盤部から城北団地内西門周辺環境整備工事を計画しており、夏期休業期間中に当たる８月中旬～10月中旬に工事を実施したいとの連絡があった。年度当初には計画されていなかった工事である。工事内容から埋蔵文化財へ影響が及ぶことが予想されたため、急遽調査に向けた対応を迫られることとなった。それと同時に、調査室と施設基盤部との間で、埋蔵文化財へ影響が及ばないよう工事に伴う掘削深度を浅くするなどの協議を行った。７月３日、施設基盤部より正式な工事図面の提示があり、平成25年７月11日付で土木工事等届出書を、松山市教育委員会を通じて、愛媛県教育委員会に提出した。７月29日付で愛媛県教育委員会より指示があった（図11）。それを受けて８月７日付で発掘調査に係わる届出を提出し、８月13日付で受理に関する通知があった。

愛媛県教育委員会からの指示では、超高圧実験室の北側擁壁工事部分、道路を挟んだ北側部分が発掘調査とされて、その他の工事については、工事立会あるいは慎重工事の指示であった。工事地点の内、電灯基礎工事の一部は、掘削深度から埋蔵文化財に影響が及ぶことが予想され、発掘調査期間中に調査を実施することとした。７トレンチと８トレンチとの間についても発掘調査範囲との指示であるが、現状では遮断機が設置されており、その下部に関しての調査は不可能である。よって発掘調査範囲の対象外とした。

８月19日から、調査対象地域における既存施設の撤去作業を進め、８月27日から発掘調査を開始した。

本報告は、発掘調査の正式報告である。

２　調査の記録（図12）

（１）層序

愛媛大学埋蔵文化財調査室では、文京遺跡における基本層序を上位から以下のⅠ～Ⅴ層に区分している。

Ⅰ層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分である。
Ⅱ層：造成以前の灰色系の古代～近代の水田層である。
Ⅲ層：弥生時代～古墳時代の遺構・遺物を包含する黒色～暗褐色系の土層である。
Ⅳ層：縄文時代の遺構・遺物を包含する黄褐色系のシルト～砂質土層で、下部には礫が混じる。
Ⅴ層：Ⅳ層下の花崗岩を主体とする砂礫ないし礫層である。

今回の調査では、基本層序Ⅰ～Ⅴ層のすべてを確認している。

（２）調査成果

調査地点は、擁壁部分が１トレンチ、７・８トレンチとした。電灯基礎工事部分を西から順に２～６トレンチとした。

①１トレンチ（図12、写真83～86）

超高圧実験室北側に設けられた擁壁工事部分である。道路面から70㎝、最深部で標高27.23ｍまで重機で掘り下げ、瓦礫を伴ったⅠ層が続いていることを確

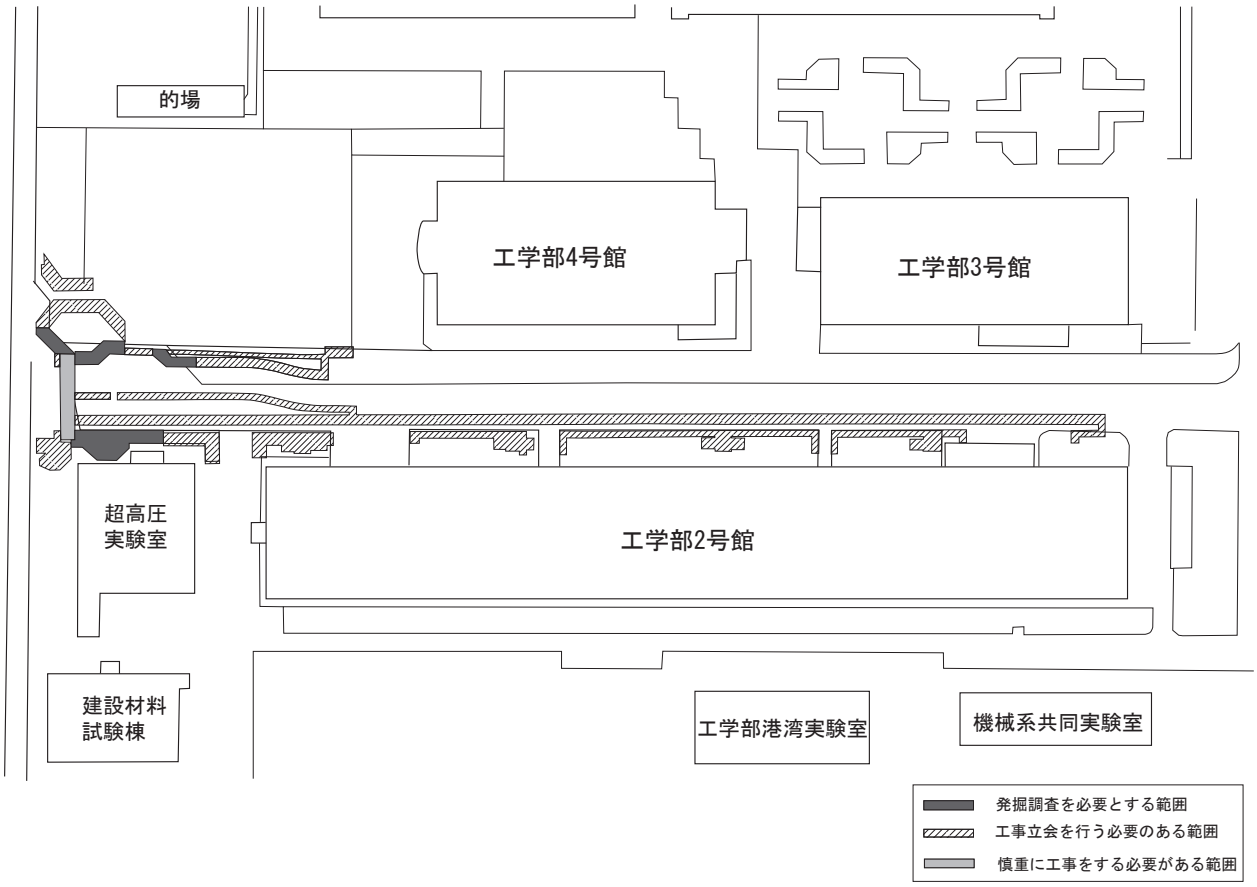


図11　01304調査（文京遺跡55次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲

認した。工事ではこれ以上の掘削を行わないことから、以下については現状保存することとした。

②２トレンチ（図12・13、写真83・84・87・88）

外灯基礎工事部分である。道路面から67㎝、標高27.28ｍまで重機で掘り下げⅢ層を検出した。Ⅲ層から人力で掘り下げ、最終的に道路面から105㎝、標高26.90ｍまで調査区全調査した。

Ⅲ層上部からは径２㎜前後の少量の炭化物小片と弥生土器片が出土している。弥生時代後期初頭～前葉の甕の底部（図13-２）や胴部片などが中心であるが、１点だけ胎土中に角閃石を含む細頸壺片（図13-１）も見られる。器形や胎土の特徴などから弥生時代後期後半～終末期に讃岐周辺から搬入された土器と考えられる。一方、Ⅲ層下部には土器片がほとんど見られない。Ⅲ層以下は、明黄褐色砂質土に灰色砂礫が混じるⅣ①層、明黄褐色砂質土からなるⅣ②層、灰色砂礫層からなるⅤ層を確認している。なお攪乱中からも弥生土器片（図13-３）が多く出土している。

③３トレンチ（図12、写真89・90）

工学部２号館北側に設けられた外灯基礎工事部分である。道路面から125㎝、標高26.70ｍまで重機で掘り下げ、瓦礫を伴ったⅠ層が続いていることを確認した。文京遺跡１次調査範囲内に含まれる。

④４トレンチ（図12、写真89・91）

工学部２号館北側に設けられた外灯基礎工事部分である。道路面から113㎝、標高26.82ｍまで重機で掘り下げ、瓦礫を伴ったⅠ層が続いていることを確認した。工学部２号館の余掘り範囲、文京遺跡１次調査範囲内に含まれる。

⑤５トレンチ（図12、写真92・93）

工学部２号館北側に設けられた外灯基礎工事部分である。道路面から133㎝、標高26.62ｍまで重機で掘り下げ、瓦礫を伴ったⅠ層が続いていることを確認した。工学部２号館の余掘り範囲にあたる。

⑥６トレンチ（図12、写真92・94）

工学部２号館北側に設けられた外灯基礎工事部分で

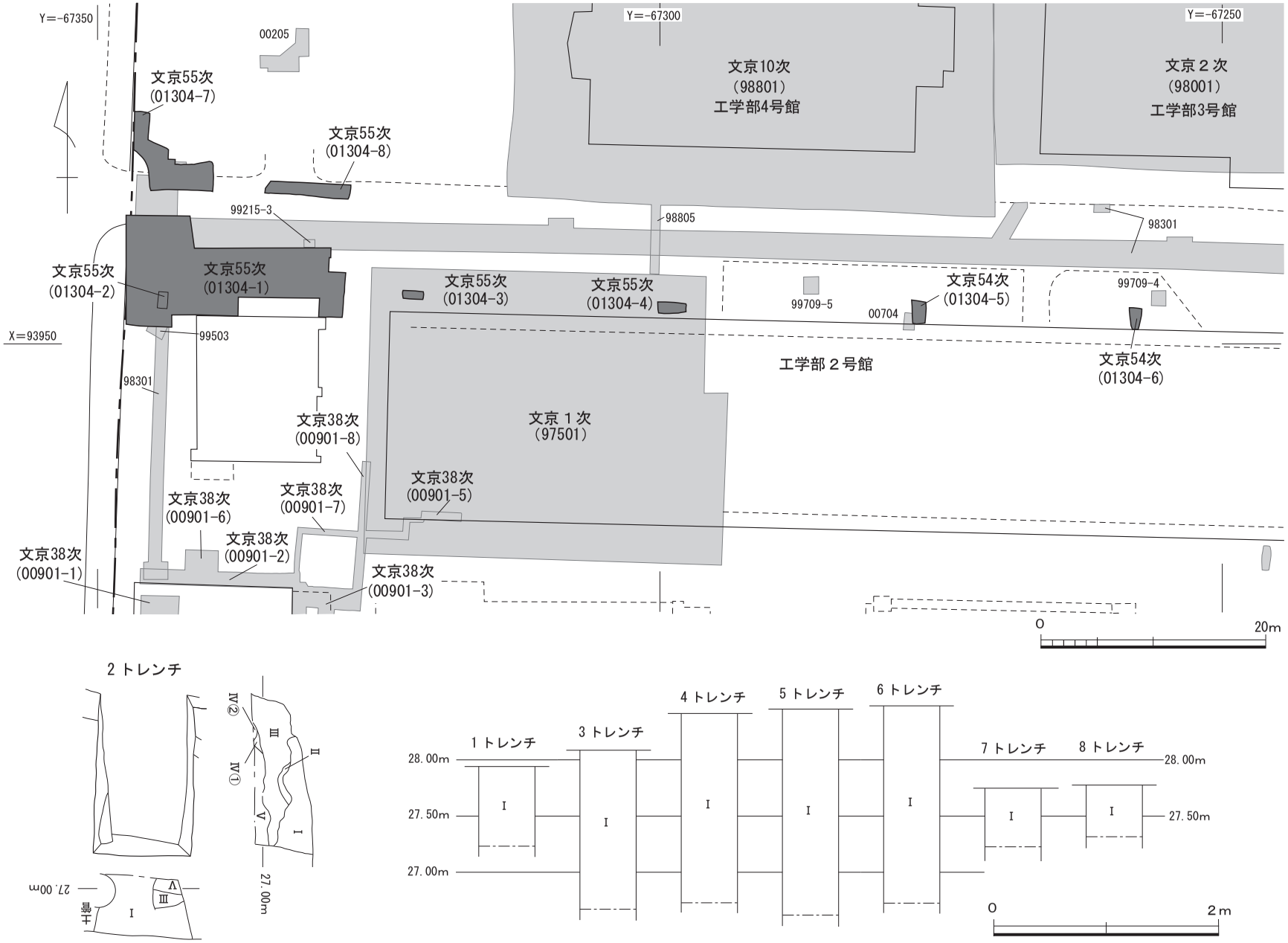


図12　01304調査（文京遺跡55次）調査地点位置図（縮尺1/500）、土層柱状図（縮尺1/50）、２トレンチ平面図、土層断面図（縮尺1/50）

写真83　01304調査 1・2トレンチ完掘状況（北東から）

写真84　01304調査 1・2トレンチ完掘状況（北東から）

写真85　01304調査　1トレンチ完掘状況（西から）

写真86　01304調査　1トレンチ中央部南壁土層（北から）

写真87　01304調査　2トレンチ完掘状況（西から）

写真88　01304調査　2トレンチ完掘状況（北から）

写真89　01304調査 3・4トレンチ（東から）

写真90　01304調査 3トレンチ完掘状況（西から）

写真91　01304調査　４トレンチ完掘状況（東から）

写真92　01304調査　５・６トレンチ（西から）

写真93　01304調査　５トレンチ完掘状況（東から）

写真94　01304調査　６トレンチ完掘状況（東から）

写真95　01304調査　７トレンチ完掘状況（南東から）

写真96　01304調査　７トレンチ西端完掘状況（南から）

写真97　01304調査　８トレンチ完掘状況（東から）

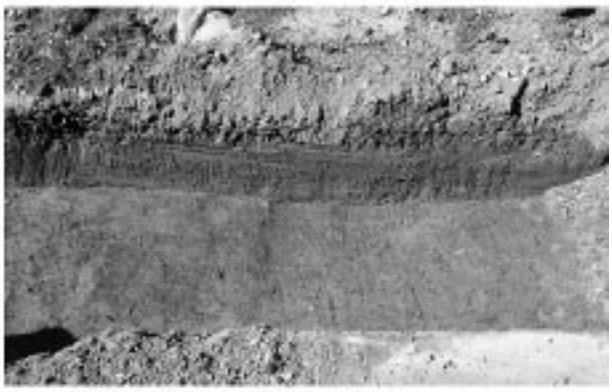


写真98　01304調査　８トレンチ中央部北壁土層（南から）

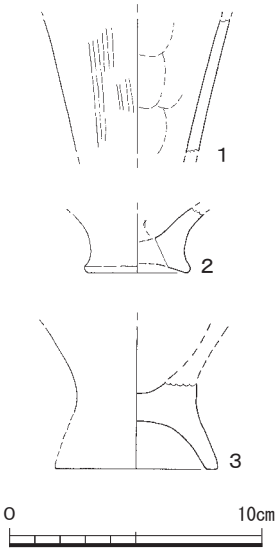


図13　01304調査（文京遺跡55次）出土遺物（縮尺1/３）

ある。道路面から122㎝、標高26.73ｍまで重機を用いて掘り下げ、瓦礫を伴ったⅠ層が続いていることを確認した。工学部２号館の余掘り範囲にあたる。

⑦７トレンチ（図12、写真95・96）

１トレンチ北側に設けられた擁壁工事部分である。現地表下52㎝、標高27.22ｍまで重機を用いて掘り下げ、瓦礫を伴ったⅠ層が続いていることを確認している。擁壁工事に伴う掘削工事では、これ以上の掘削を行わないため、以下については現状保存することとした。なお７トレンチ内でかつて実施した99404調査では標高約27.20ｍでⅢ層が出土している。

⑧８トレンチ（図12、写真97・98）

７トレンチの東側に設けられた擁壁工事部分である。現地表下45㎝、標高27.32ｍまで重機で掘り下げ、瓦礫を伴ったⅠ層が続いていることを確認した。擁壁工事に伴う掘削工事では、これ以上の掘削を伴わないため、以下については現状保存することとした。

３　まとめ

今回の調査では、２トレンチにおいて文京遺跡基本層序Ⅲ層の調査を行い、弥生時代後期初頭から終末期の土器が出土した。調査地点の周辺では、99404調査において弥生時代中期後葉～終末期の甕や壺片、分銅形土製品が出土している。また、工学部２号館西端部分で実施した文京遺跡１次調査では、弥生時代中期後葉の竪穴建物跡のほか、弥生時代後期～終末期の遺構も出土している。このように２トレンチ周辺では、弥生時代中期後葉～終末期の遺跡が展開しており、今回の調査では、その一画の包含層を調査したことになる。

今回の調査では、２トレンチを除く各調査区は、埋蔵文化財へ直接影響を与えないことを確認した上で、現状保存とした。将来２トレンチを除く調査区および周辺地域で全面掘削が行われるような工事では、本格調査が必要である。　（三吉）

01305　（持田団地）附属中学校体育館等改修工事に伴う発掘調査（持田遺跡８次調査）

調査地点　松山市持田町一丁目860番の一部　持田団地内
調査面積　78㎡
調査期間　2013年11月８日、2014年２月４日
調査の種別　本格調査
調査担当　三吉秀充
調査補助　宮崎直栄・田中いづみ
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡（平成25年８月29日付）

１　はじめに

（１）調査に至る経緯

2013年８月末、施設基盤部から附属中学校体育館等改修工事の依頼があった。埋蔵文化財調査室では意見書を作成した後、平成25年９月５日付で土木工事等届出書を提出し、愛媛県教育委員会から同年９月19日付で「発掘調査を必要とする範囲」、「工事立会を行う必要のある範囲」、「慎重に工事をする必要がある範囲」の指示があった（図14）。これを受けて、10月２日付で埋蔵文化財発掘調査届出書を提出し、10月10日付で発掘調査に係る届出について受理したとの通知があった。

（２）工事の概要と調査

施設基盤部から示された工事内容は、建築工事部と管路工事部とからなる。

建築工事部は、Ａ：コンクリートブロック塀工事、Ｂ：上屋基礎工事、Ｃ：消火栓廻り外壁工事、Ｄ：砂利敷縁石工事、Ｅ：舗装縁石工事、Ｆ：アスファルト舗装工事、Ｇ：支柱基礎工事、Ｈ：砂利敷工事である。これらの工事の内、愛媛県教育委員会からの指示では、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄの一部・Ｅの一部・Ｆの一部・Ｇ・Ｈの一部について「発掘調査を必要とする範囲」、Ｄの一部・Ｅの一部・Ｆの一部・Ｈの一部について「工事立会を行う必要のある範囲」であった。埋蔵文化財調

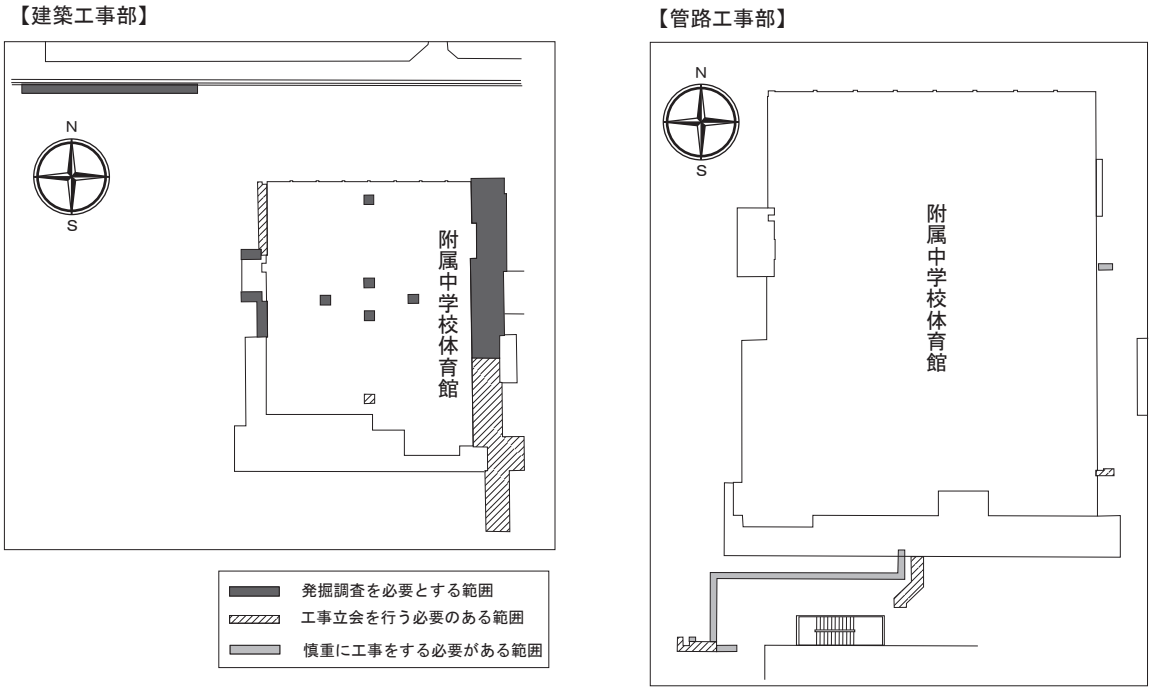


図14　01305調査（持田遺跡８次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲

査室では、これらのすべてについて発掘調査・工事立会を実施することとし、同年11月８日に１～９トレンチ、2014年２月４日に10～14トレンチとして調査を行った。

管路工事部は、Ａ：配管工事（一部、既設掘削部分の再掘削）、Ｂ：配管工事、Ｃ：配管工事（一部、既設掘削部分の再掘削）Ｄ：配管工事、Ｅ：配管工事である。愛媛県教育委員会からの指示では、ＡおよびＣの既設掘削部分については「慎重に工事をする必要がある範囲」、それ以外については「工事立会を行う必要のある範囲」であった。2013年10月28日に工事立会を実施し、基本層序Ⅰ層あるいは近・現代の水田層であるⅡ層上部層内に収まっていることを確認した(写真117・118)。

さて、持田遺跡１次調査を実施した際に、平面直角座標系第Ⅳ系の基準点を持田団地内の２地点に設置している。１次調査以降、可能な限り基準点データを基に測量を行ってきた。今回の調査区内は、附属中学校構内での作業ということもあって､工事地点外周をフェンスで囲ったため、基準点の利用が不可能となった。

そこで位置図に関しては、平板を用いた建物配置から位置図を作成した。また１～９トレンチのレベルは、松山市都市計画図に記された附属体育館北側のグラウンド面を35.10ｍとしてレベル測量を行った。なお、10～14トレンチのレベルは、平面直角座標系第Ⅳ系基準点レベルを用いている。

本報告は、発掘調査の正式報告である。

２　調査の記録

（１）１区（図15、写真99～102）

体育館北東部のコンクリートブロック塀工事部分である。調査区北端部では現地表下97㎝、標高34.54ｍまで表土層であるⅠ層が続く。南端部では既存のブロック塀基礎工事の際、破壊を受けた部分を除き、現地表下約70㎝、標高34.80ｍで基本層序Ⅱ層が出土した。オリーブ灰色シルト質土であり、周辺の調査成果や検出レベルを考慮すると､近現代の水田層と考えられる。遺物は出土していない。以下、現地表下97㎝、標高34.56ｍまで掘り下げを行い、Ⅱ層が続いていることを確認した。

（２）２区（図15、写真103）

体育館北側の上屋基礎工事部分である。現地表下73㎝、標高34.56ｍまで掘り下げを行い表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。柱基礎部分に接して

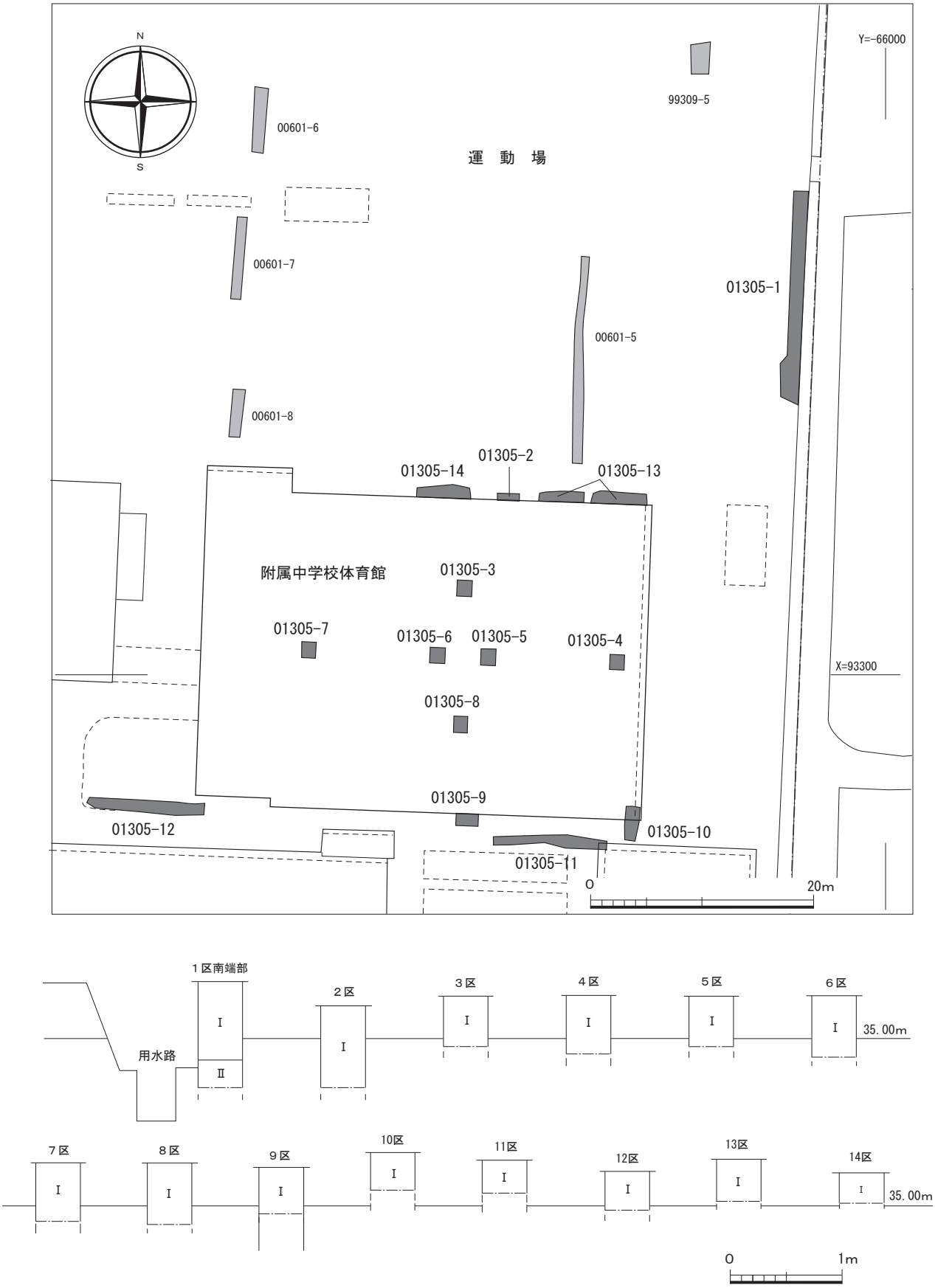


図15　01305調査（持田遺跡８次）調査地点位置図（縮尺1/500）、土層柱状図（縮尺1/50）

写真99　01305調査　1区全景（北から）

写真100　01305調査　１区北端部北壁土層（南から）

写真101　01305調査　１区南端部南壁土層（北から）

写真102　01305調査　１区南端部南壁土層（北から）

写真103　01305調査　２区全景（西から）

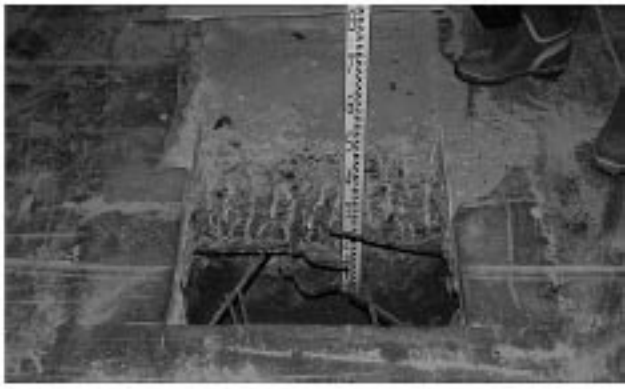


写真104　01305調査　３区全景（南から）

写真105　01305調査　４区全景（北から）

写真106　01305調査　５区全景（北から）

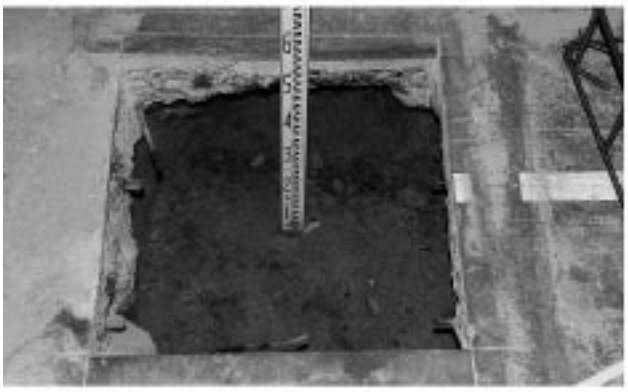


写真107　01305調査　６区全景（北から）

写真108　01305調査　７区全景（北から）

写真109　01305調査　８区全景（北から）

写真110　01305調査　９区全景（東から）

写真111　01305調査　10区～12区（東から）

写真112　01305調査　10区全景（東から）

写真113　01305調査　11区全景（東から）

写真114　01305調査　12区全景（東から）

写真115　01305調査　13区全景（東から）

写真116　01305調査　14区全景（東から）

写真117　01305調査　体育館北西部工事立会（南東から）

写真118　01305調査　体育館西部工事立会（南東から）

おり、余掘り内に収まっていると考えられる。

（3）３区（図15、写真104）

体育館内の支柱基礎工事部分である。体育館床面を標高35.38mとする。床面下45cm、標高34.93mまで表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

（4）４区（図15、写真105）

体育館内の支柱基礎工事部分である。床面下45cm、標高34.93mまで表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

（5）５区（図15、写真106）

体育館内の支柱基礎工事部分である。床面下45cm、標高34.93mまで表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

（6）６区（図15、写真107）

体育館内の支柱基礎工事部分である。床面下45cm、標高34.93mまで表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

（7）７区（図15、写真108）

体育館内の支柱基礎工事部分である。床面下45cm、標高34.93mまで表土層であるⅠ層が続いていること

を確認した。

（8）8区（図15、写真109）

体育館内の支柱基礎工事部分である。床面下45㎝、標高34.93ｍまで表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

（9）9区（図15、写真110）

体育館南側の消火栓廻り外壁工事部分である。現地表下75㎝、標高34.60ｍまで表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

（10）10区（図15、写真111・112）

体育館南東部の舗装縁石工事部分である。現地表下34㎝、標高35.15ｍまで表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

（11）11区（図15、写真111・113）

体育館南部の舗装縁石工事部分である。現地表下30㎝、標高35.11ｍまで表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

（12）12区（図15、写真111･114）

体育館南西部の舗装縁石工事部分である。現地表下36㎝、標高34.96ｍまで表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

（13）13区（図15、写真115）

体育館北東部の砂利敷工事および砂利敷縁石工事部分である。現地表下37㎝、標高35.04ｍまで表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

（14）14区（図15、写真116）

体育館北東部の砂利敷工事および砂利敷縁石工事部分である。現地表下27㎝、標高35.04ｍまで表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

3　まとめ

今回の調査区周辺では、00601調査５トレンチで15世紀後半を前後する水田・畠跡を確認している。このような遺跡の性格を踏まえて、調査区が小面積である今回の調査では、工事による掘削が埋蔵文化財へ直接的な影響を与えることがないことを現地で確認した上で、現状保存することとした。今後、今回の調査区および周辺で掘削を伴った全面工事を行う際には、埋蔵文化財が保存されていることから発掘調査を行う必要がある。（三吉）

01306　（樽味団地）附属高校校舎等改修工事に伴う発掘調査（樽味遺跡13次調査）

調査地点　松山市樽味三丁目305番の一部　樽味団地内
調査面積　94㎡
調査期間　2013年11月18日～11月29日
調査の種別　本格調査
調査担当　三吉秀充
調査補助　宮崎直栄・田中いづみ
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡
（平成25年９月３日付）

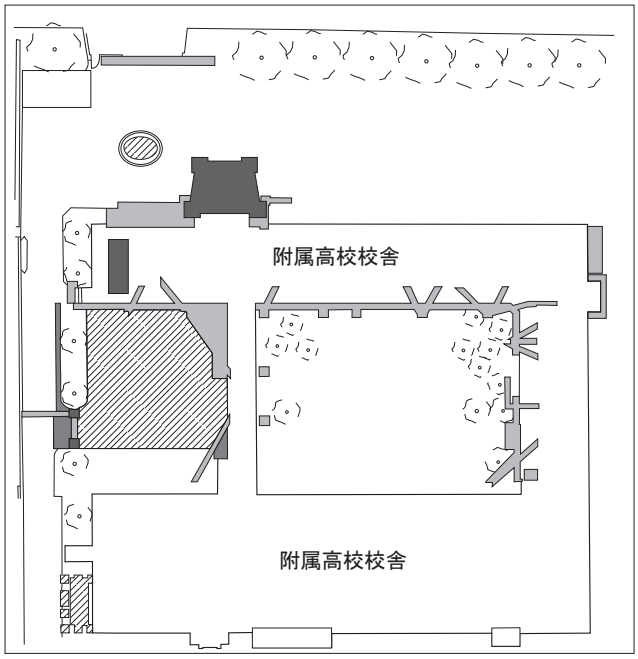
1　はじめに

（1）調査に至る経緯

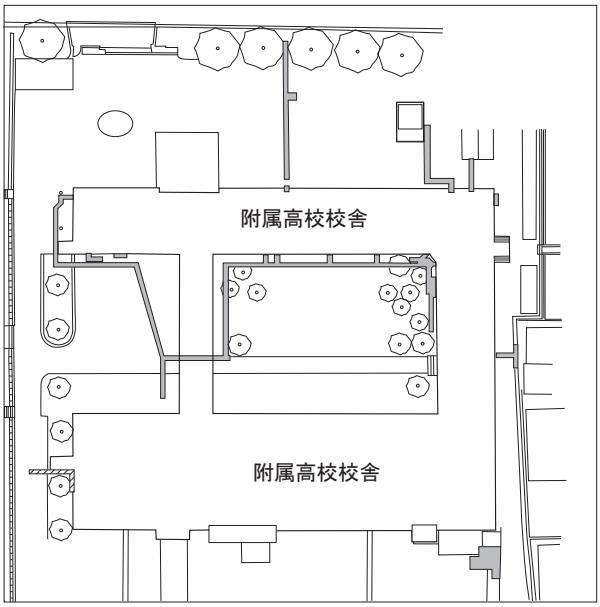
2013年３月中旬、施設基盤部との協議の中で、2013年度樽味団地内附属高校、ユーカリ会館の耐震改修工事計画を作成中であるとの報告がなされた。愛媛大学埋蔵文化財調査室では、余掘り範囲の確定と埋蔵文化財の分布状況の確認を目的として、６月上旬に試掘調査（01302調査）を実施し、平成25年６月21日付で施設基盤部に試掘調査を報告した。９月上旬、施設基盤部より附属高校校舎等改修工事計画の提示があり、埋蔵文化財調査室では意見書を作成し、９月13日付で愛媛県教育委員会へ土木工事等届出書を提出した。10月10日付で愛媛県教育委員会から、工事に対して「発掘調査を必要とする範囲」「工事立会を行う必要のある範囲」「慎重に工事をする必要がある範囲」の指示があった（図16）。それを受けて10月23日付で埋蔵文化財発掘調査届出書を提出し、10月30日付で愛媛県教育委員会より発掘調査に係る届出について受理したとの通知があった。

以上の手続きと同時に、埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で発掘調査計画を作成し、当初、2014年１月に発掘調査を実施する計画であった。しかし、附属高校校舎等改修工事計画の変更に伴って11月中旬に着手する必要が生じた。そこで、埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で協議を行い、11月中旬から着手予定であった山越団地における確認調査（01307調査）を12月着手に変更し、本調査を11月18日から開始することとした。

【校舎工事】

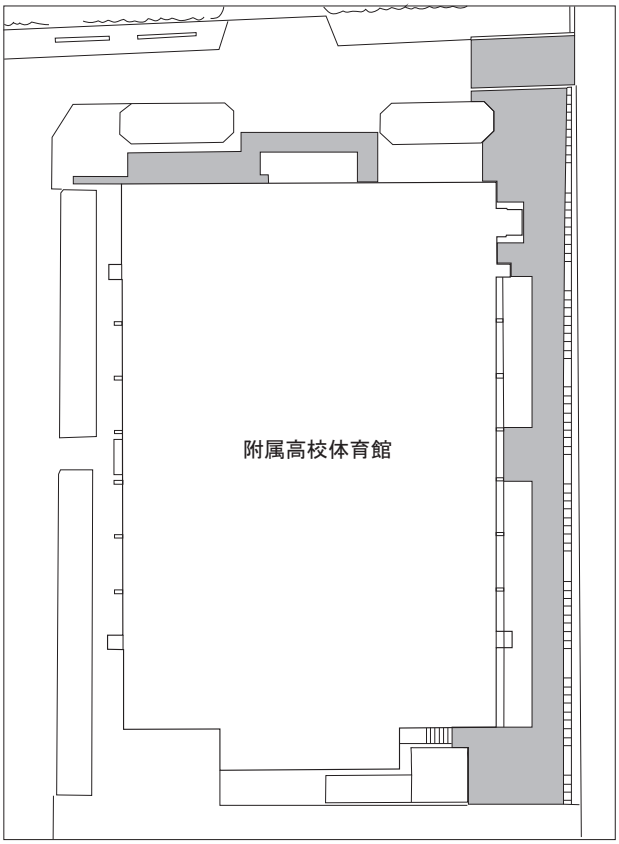


【校舎配管工事】



発掘調査を必要とする範囲
工事立会を行う必要のある範囲
慎重に工事をする必要がある範囲

【体育館工事】



【体育館配管工事】

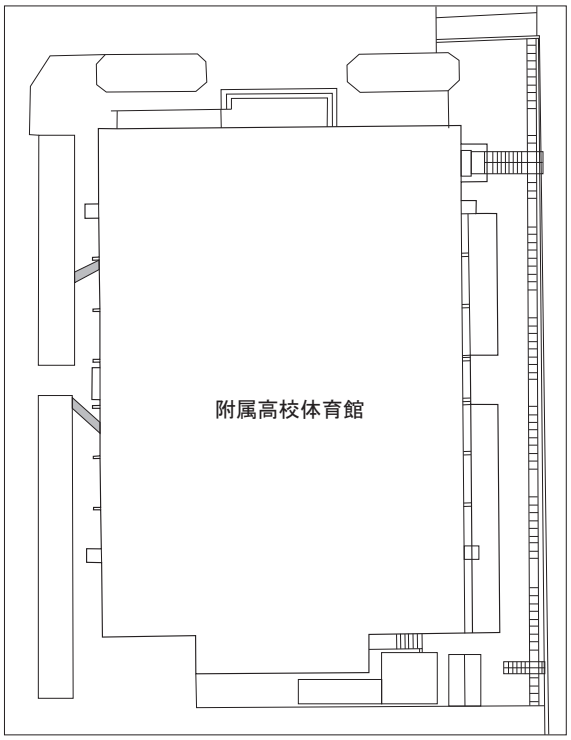


図16　01306調査（樽味遺跡13次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲

（2）工事の概要

工事は校舎工事、校舎配管工事、体育館工事、体育館配管工事の大きく４工事からなる。

校舎工事は、Ａ１：柱基礎工事、Ａ２：柱基礎工事、Ｂ１：樹木撤去工事（再掘削工事）、Ｂ２：樹木撤去工事（再掘削工事）、Ｂ３：樹木除去工事（再掘削工事）、Ｃ：L型側溝用枡、Ｄ１：地中梁工事、Ｄ２：地中梁工事、Ｅ：床下ピット工事、Ｆ１：雨水枡工事（再掘削工事）、Ｆ２：雨水枡工事（再掘削工事）、Ｆ３：雨水枡工事（再掘削工事）、Ｆ４：雨水枡工事(再掘削工事)、Ｆ５：雨水枡工事（再掘削工事）、Ｆ６：雨水枡工事（再掘削工事）、Ｆ７：雨水枡工事（再掘削工事）、Ｆ８：雨水枡工事（再掘削工事）、Ｆ９：雨水枡工事（再掘削工事）、Ｇ：ネットフェンス基礎工事、Ｈ：雨水排水管工事（再掘削工事）、Ｉ：花壇工事（再掘削工事）、Ｊ：オープン廊下工事（再掘削工事）、Ｋ：外部スロープA工事（再掘削工事）、Ｌ：外部スロープB工事（再掘削工事）、Ｍ：片引門工事(再掘削工事)、Ｎ：縁石B（一部撤去）工事、Ｏ：玄関階段工事（再掘削工事）、Ｐ：土間コンクリート工事、Ｑ：花壇ブロック撤去工事（再掘削工事）、Ｒ：外部階段A工事（再掘削工事）、Ｓ：外部階段B工事（再掘削工事）、Ｔ：外部階段C工事（再掘削工事）、Ｕ：外部階段D工事、Ｖ：L型側溝工事、Ｗ１：機械基礎工事、Ｗ２：機械基礎工事、Ｘ：舗装工事である。

Ａ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｏの工事は「発掘調査を必要とする範囲」、Ｇ・Ｖ・Ｘの工事は「工事立会を行う必要のある範囲」、Ｆ・Ｈ・Ｉ・Ｊ・Ｋ・Ｌ・Ｍ・Ｒ・Ｓ・Ｔ・Ｕ・Ｗの工事は「慎重に工事をする必要がある範囲」との指示であった。

校舎配管工事は、Ａ：管路工事（再掘削工事）、Ｂ：枡工事、Ｃ：管路工事、１：管路工事（再掘削工事）、２：管路工事（再掘削工事）、３：管路工事（再掘削工事）、４：管路工事（再掘削工事）、５：管路工事（再掘削工事）、６：管路工事（再掘削工事）、７：管路工事である。

７の工事は「工事立会を行う必要のある範囲」、Ａ・Ｂ・Ｃ・１～６の工事は「慎重に工事をする必要がある範囲」という指示であった。

体育館工事はA：樹木撤去工事（再掘削工事）、Ｂ：雨水排水管工事、Ｃ：東基礎（柔道場）撤去工事（再掘削工事）、Ｄ：東基礎（アリーナ）撤去工事（再掘削工事）、Ｅ：ポーチ工事（再掘削工事）、Ｆ：縁石撤去工事（再掘削工事）、Ｇ：縁石撤去工事（再掘削工事）、Ｈ：スロープ工事、Ｉ：舗装工事（再掘削工事）である。Ａ・Ｂ・Ｅ・Ｆ・Ｇ・Ｈ・Ｉの工事について「慎重に工事をする必要がある範囲」との指示であった。

体育館配管工事は「慎重に工事をする必要がある範囲」との指示であった。

発掘調査対象地点は、Ａ・Ｄ・Ｅ・Ｏ工事：玄関ポーチ部分の柱基礎および地中梁工事地点（Ⅰ区）、E工事：校舎西端部の床下ピット工事地点（Ⅱ区）、Ｃ工事：L型溝用枡工事地地点（Ⅲ区・Ⅳ区）である。工事立会については、適宜対応し、掘削深度が造成土層内におさまっていることを確認した（写真144・147）。なお、校舎工事の内、工事立会・慎重工事に該当する一部の工事については、計画のみで実施されなかったものがある。

本報告は、発掘調査の正式報告である。

２　調査の概要

（1）層序

樽味遺跡では基本層序を上位からⅠ～Ⅴ層に区分している（『愛媛大学構内遺跡調査集報Ⅰ』愛媛大学埋蔵文化財調査室1997年）。

Ⅰ層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分。

Ⅱ層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。

Ⅲ層：遺物を包含する黒色～黒褐色系の土層。

Ⅳ層：黄褐色系のシルト層で、下部には砂礫が混じる。

Ⅴ層：Ⅳ層下の花崗岩を主体とする砂礫ないし礫層。

本調査では、基本層序Ⅰ層～Ⅳ層を検出している。

（2）調査の経過

11月18日（月）

重機を用いてⅠ区・Ⅱ区の表土層の掘り下げ開始。

11月19日（火）

Ⅱ区でⅢ層検出状況の写真撮影を行い、Ⅲ層の掘り下げを行う。

11月20日（水）

Ⅱ区を完掘し、写真撮影・図面作成を行う。Ⅲ区の調査を行う。

11月21日（木）

Ⅳ区の調査を行う。

Ⅰ区で、Ⅰ層の掘り下げ。調査区内に測量杭を設置。測量杭に樽味団地内の基準点から座標点移動を行う。

11月22日（金）

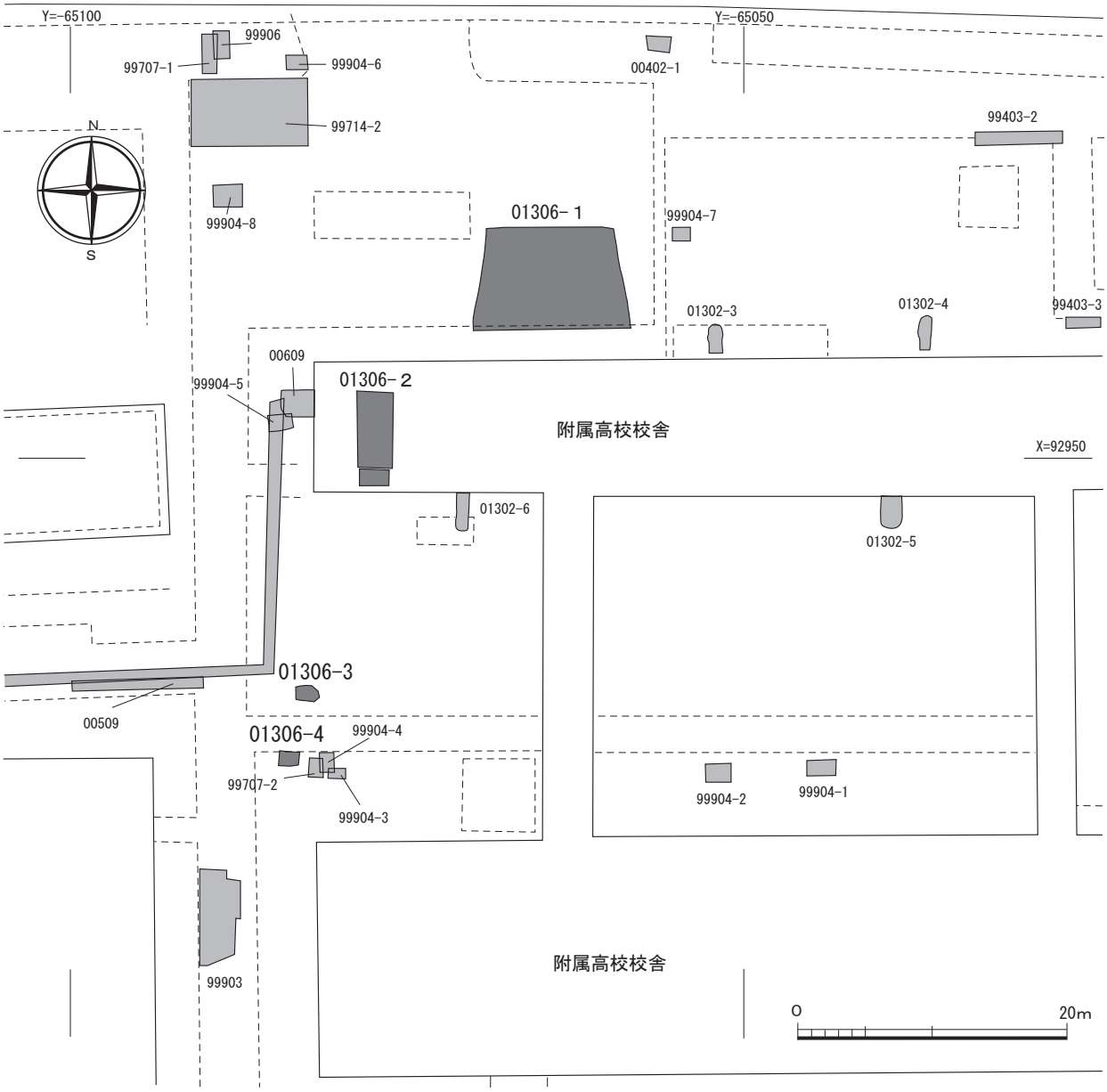


図17　01306調査（樽味遺跡13次）調査地点位置図（縮尺1/500）

Ⅰ区の表土層の掘り下げを行い、Ⅳ層上面にて遺構検出作業を行う。

11月26日（火）

Ⅰ区で遺構検出状況の写真撮影を行い、遺構の調査を開始。

11月27日（水）

Ⅰ区で遺構の調査。午後、雷雨のため作業中止。

11月28日（木）

Ⅰ区で遺構の調査。遺構図の作成および土層図の作成。

11月29日（金）

Ⅰ区で完掘状況の写真撮影。遺構図の作成および土層図の作成。調査終了。

3　調査の記録（図17）

（1）Ⅰ区（図18、写真119～127）

重機を用いて現地表下60～70cmまで掘り下げを行い、基本層序Ⅲ層、Ⅳ層を検出した。Ⅲ層は調査区西側の一部、南東部の一部で検出した。Ⅲ層を人力で掘り下げた後、Ⅳ層上面で精査を行い、掘立柱建物２棟、土壙４基、柱穴遺構７基を検出した。遺構埋土の特徴から、黒褐色系（SK-２・５・12）と灰黄褐色系

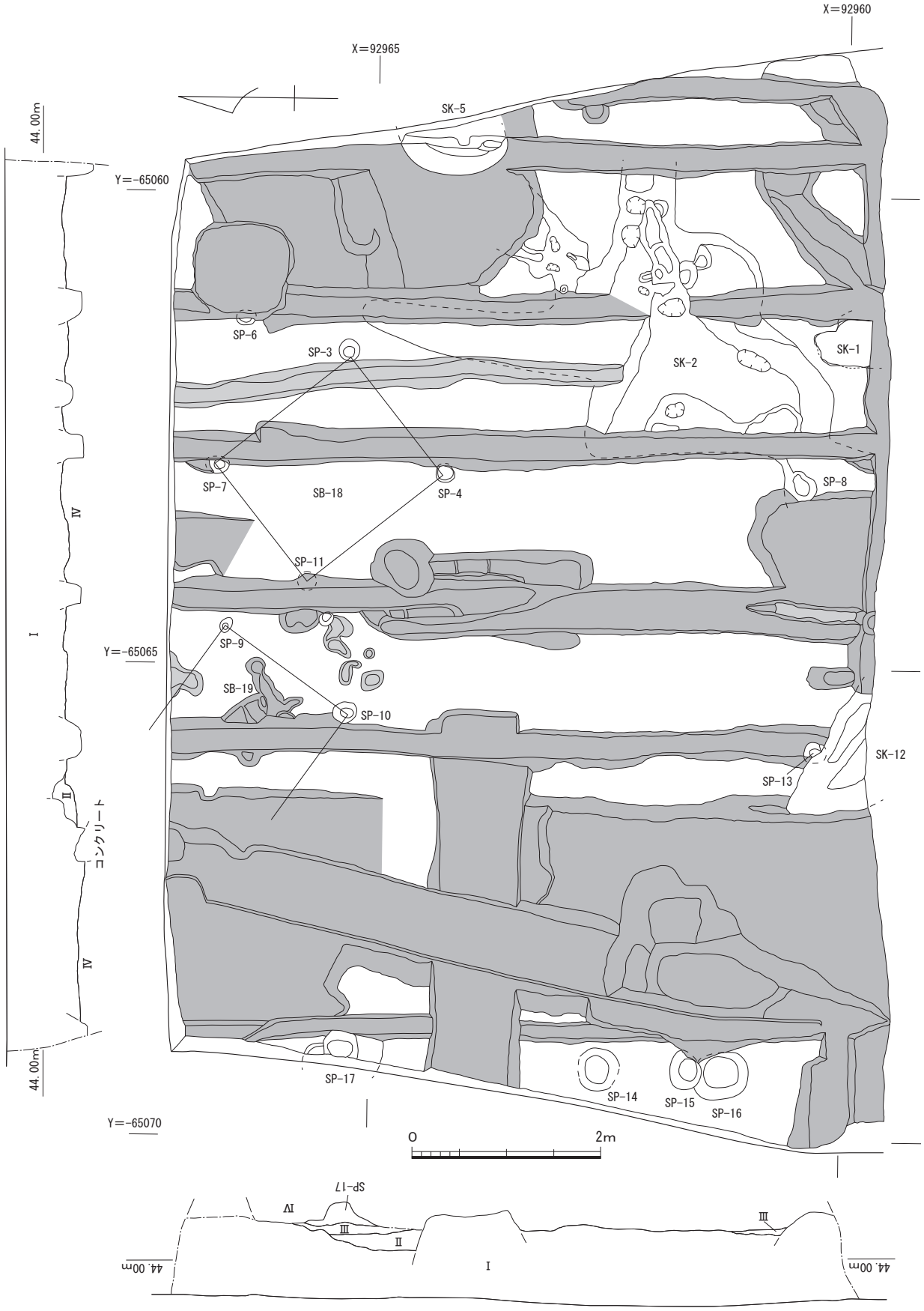


図18　01306調査（樽味遺跡13次）Ⅰ区平面図、土層断面図（縮尺1/60）

（SK-１、SP-３・４・６～11、SP-13～17）に分類ができる。

〔掘立柱建物〕

SB-18（図19・21、写真129）

調査区北東部で検出した１間×１間の掘立柱建物である。SP-３・４・７から構成される。

SP-３（写真138）は径22～24cm、深さ40cm、SP-４は径20cm、深さ14cm、SP-７（写真139）は径22cm、深さ28cmの柱穴である。SP-３①層、SP-４①層は灰黄褐（10YR4/2）色砂質シルトで、径１～２mm砂粒をごく少量含む。

遺物はSP-３とSP-４から出土している。SP-３の埋土から土師器坏片（図21-６）が１点、柱の底に敷いていた可能性のある偏平な河原石が１点出土している。SP-４の埋土中から瓦器椀の細片が１点出土しているが、細片のため図化していない。

SB-19（図19、写真130）

調査区北部で検出した１間×１間以上の掘立柱建物である。SP-９・10から構成される。

SP-９は径12～17cm、深さ15cm、SP-10（写真140）は径23～25cm、深さ23cmの柱穴である。SP-10①層は灰黄褐（10YR4/2）色砂質シルトで、径２～３mm大の砂礫を少量含む。いずれの埋土からも遺物は出土していない。

〔土壙〕

SK-１（図20・21、写真133・134）

調査区南東部で検出した土壙である。南部は、校舎建設に伴う掘削ですでに破壊されている。南北残存長約60cm、東西幅35cm、深さ17cmを測る。側壁は上端より内側に入り込む部分も見られる。埋土は灰黄褐（10YR4/2）色シルトで、明黄褐色（2.5Y7/6）シルトの小ブロックを少量含む。径0.3～１cm大の炭化物がやや多く混じる。埋土中から出土した遺物の内、図化したのは４点である。１は口径14.6cm、器高４cmの土師器坏である。２・３の瓦器椀は口縁部片である。４は土師器の土鍋である。口縁部は外反し、口縁部内面と胴部内面との間には明瞭な稜がつく。その他に土師器坏片３点、瓦器椀片１点が出土している。１の土師器坏や４の土師器土鍋から14世紀～15世紀に埋没したと考えられる。

SK-２（図19・21、写真128・131・132）

調査区南東部で検出した南北5.4m、東西約3.5mに広がる不定形の土壙である。検出面からの深さは最大で約28cmである。埋土は黒褐（7.5YR3/1）色シルトで、明黄褐（10YR7/6）色シルトの径３cm前後の丸いブロックをごく少量含む。埋土から土師器坏あるいは皿片が２点出土しており、そのうちの１点を図化している（図21-５）。

SK-５（図20、写真137）

調査区東壁に沿って検出した土壙である。南北長113cmである。深さは43cmである。南側にはテラス状の平坦面が見られる。大半は調査区外に続いているが、平面は円形と推定される。埋土は黒褐（7.5YR2/2）色シルトで褐（10YR4/4）色シルトの径２～３cm大のブロックをごく少量含む。遺物は出土していない。

SK-12（図20、写真135・136）

調査区南西部で検出した不定形の土壙である。南側は、校舎建設に伴う掘削工事で破壊されている。検出面からの深さは80cmである。埋土は黒褐（7.5YR2/2）色シルトで径１～２mmの砂粒が少量混じる。

〔柱穴・小穴〕

SP-６（図20）　調査区北東部で検出した残存径20cmの小穴。東半分は攪乱により破壊されている。深さは22cmである。埋土は灰黄褐（10YR4/2）色砂質シルトで、にぶい黄橙（10YR6/4）色シルトの径0.5～２cmの不整形ブロックが上部に多く混じる。遺物は出土していない。

SP-８（図18）　調査区南部で検出した径26～35cm、深さ16cmの小穴である。埋土は灰黄褐（10YR4/2）色砂質シルト。遺物は出土していない。

SP-11（図18）　径17cm、深さ約32cmの小穴である。埋土は灰黄褐（10YR4/2）色砂質シルトである。遺物は出土していない。

SP-13（図18）　調査区南西部で検出した残存径25cm、深さ10cmの小穴である。SK-12と切り合い関係にある。遺物は出土していない。

SP-14（図18）　調査区南西部で検出した径46～48cm、深さ22cmの穴である。埋土は灰褐（7.5YR4/2）色砂質土である。

SP-15（図20）　調査区南西部で検出した残存長径42cm、短径34cm、深さ14cmの穴である。東側の一部が攪乱によって欠損する。埋土は灰褐（7.5YR4/2）色砂質土に径３mm大の粒状炭化物を少量と浅黄橙色シルトの１cm大のレンズ状ブロックをやや多く含む。遺物は出土していない。SP-16を切る。

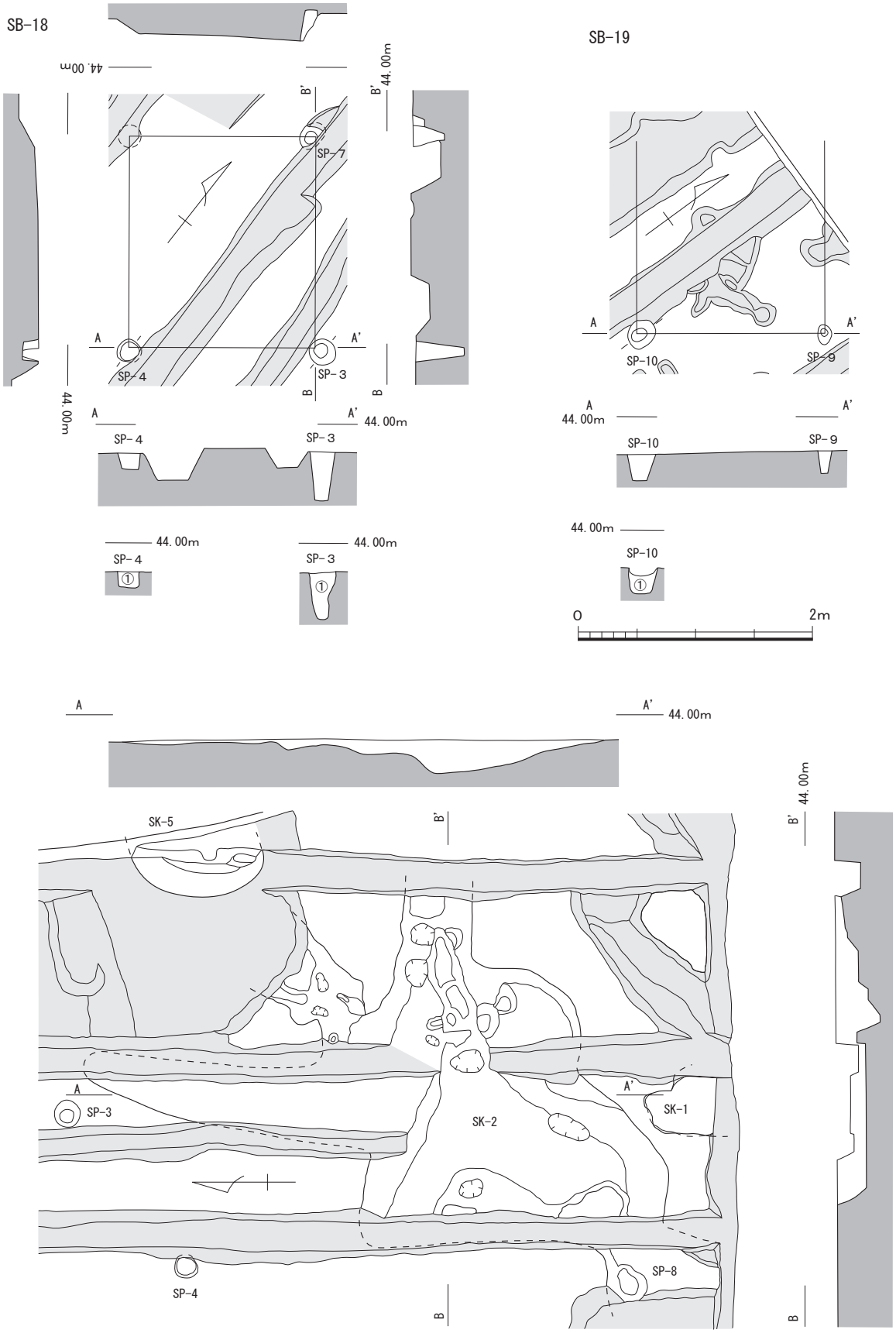


図19　01306調査（樽味遺跡13次）遺構（1）（縮尺1/50）

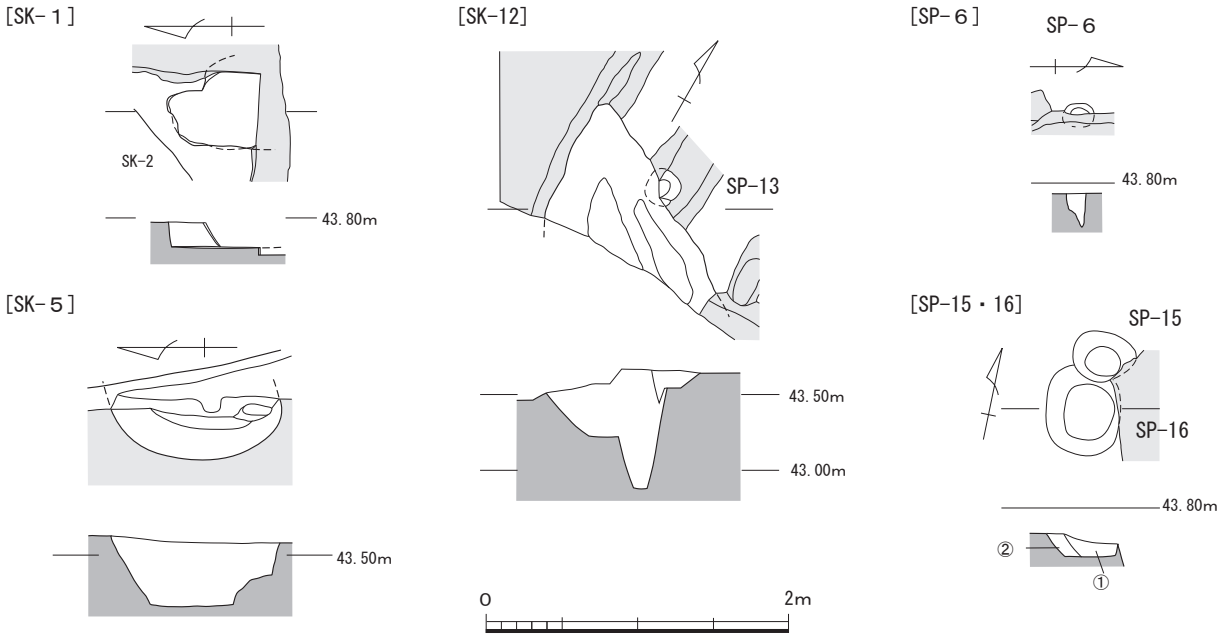


図20　01306調査（樽味遺跡13次）遺構（２）（縮尺1/50）

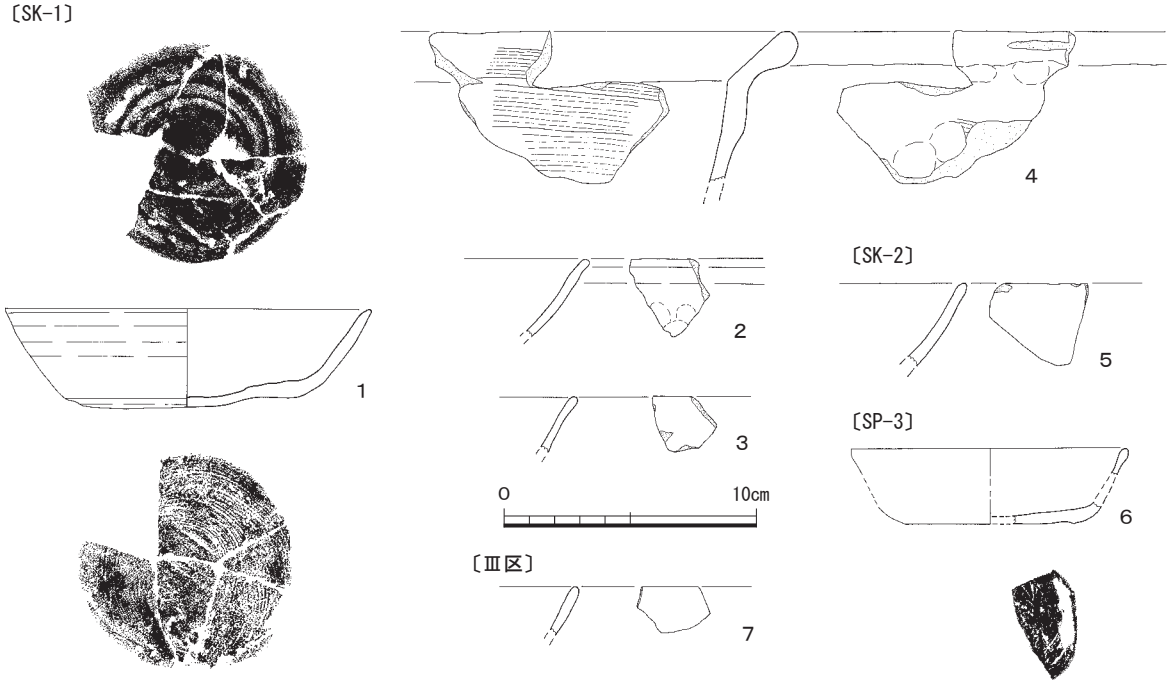


図21　01306調査（樽味遺跡13次）出土遺物（縮尺1/３）

SP-16（図20）　調査区南西部で検出した穴である。東側は攪乱によって、北側はSP-15によって切られる。残存長径59cm、残存短径48cm、深さ15cmを測る。埋土は２層からなる。①層は灰褐（7.5YR4/2）色砂質土で径２～３㎜大の砂礫が多く入る。②層は灰褐（7.5YR4/2）色砂質土に径３㎜大の粒状の炭化物片を少量含む。浅黄（2.5Y7/4）色シルトの径１cmのレンズ状ブロックがやや多くみられる。遺物は出土していない。SP-15に切られる。

SP-17（図18）　調査区の北西部の西壁沿いで検出

表５　01306調査（樽味遺跡13次）出土遺物観察表

挿図		遺構／調査区	出土状況	遺物の観察				遺物登録番号	遺物採り上げ番号	遺物実測図№	収納コンテナ
図	№			種別	器種	器面調整・焼成等	色調･赤彩･付着物				
21	1	SK-1	埋土	土師器	坏	内外面ともに回転横ナデ調整。底部内面は同心円状の凹みが数条めぐる。底部外面は回転糸切り離し。	にぶい黄橙色。内面には煤が付着。	R-101	R-2	1	1
21	2	SK-1	埋土	瓦器	椀	内外面ともに回転横ナデ調整。体部外面には指頭圧痕が残る。	口縁部内外面は黄灰色。体部内外面は灰白色。	R-102	R-2	1	1
21	3	SK-1	埋土	瓦器	椀	内外面ともに磨滅。	外面は灰色～黒色。内面は灰色～灰白色。	R-103	R-1	1	1
21	4	SK-1	埋土	土師器	鍋	外面はやや磨滅。体部外面には刷毛目調整や指頭圧痕が残る。内面は刷毛目調整。	外面はにぶい黄褐色。内面はにぶい橙色。	R-104	R-2	1	1
21	5	SK-2	埋土	土師器	坏	内外面ともに磨滅。	内外面ともに浅黄橙色。	R-105	R-3	1	1
21	6	SP-3	埋土	土師器	坏	内対面ともに磨滅。底部外面には回転糸切り。	外面はにぶい黄橙色、内面はにぶい橙色～橙色。	R-106	R-4	1	1
21	7	Ⅱ区	Ⅲ層	土師器	坏	内外面ともに磨滅。	灰色～浅黄橙色。	R-107	R-10	1	1

した。西半分は調査区西側に続く。直径39cmの円形小穴である。北側にはテラス状の平坦面が見られる。深さは約22cm。埋土は褐灰（7.5YR5/1）色シルトで、明黄褐（2.5Y7/6）色シルトの小ブロックをごく少量含む。遺物は出土していない。

以上の他に出土遺物としてⅣ層上面から外底面に回転糸切り痕が残る土師器小片が１点出土している。

（２）Ⅱ区（図22、写真141・142）

附属高校校舎内の床下ピット工事地点である。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間における調査計画の協議段階では、既存建物建設時の掘削によって埋蔵文化財が破壊されていると想定していた。調査段階で重機を用いて表土層であるⅠ層、水田層であるⅡ層を掘り下げた結果、調査区の北端部近く、校舎床面下約145cmでⅢ層が出土した。Ⅲ層は８cm～25cmの堆積である。Ⅲ層は黒（10YR2/1）色シルトで、明黄褐（2.5Y7/6）色砂質土の径５cmの丸いブロックが混じる。Ⅲ層中から土師器小片・細片が10点弱出土しており、そのうち土師器坏の口縁部片１点を図化した（図21-７）。Ⅳ層上面で精査を行ったが、調査区内では、遺構と認識できる痕跡は見られなかった。

（３）Ⅲ区（図17・23、写真143）

L型溝用枡の北側部分に当たる。重機を用いて表土層であるⅠ層とⅡ層を現地表下110cmまで掘り下げ、Ⅳ層を検出した。Ⅱ層はⅡ-１層とⅡ-２層とからなる。Ⅱ-１層は水田層であり灰白（2.5Y7/1）色シルト。Ⅱ-２層はにぶい黄（2.5Y6/4）色シルトで水田床土層である。Ⅳ層は黄褐（2.5Y5/4）色シルトで、層上面にはマンガン粒を含む。そこから人力での調査に切り替え、現地表下約143cmまでⅣ層を掘り下げた。Ⅳ層から遺物は出土していない。

（４）Ⅳ区（図17・23、写真145・146）

L型溝用枡の南側部分である。重機を用いて表土層であるⅠ層、近現代の水田層であるⅡ層を、現地表下115cmまで掘り下げ、Ⅲ層を検出した。そこから人力による手掘りでの作業に切り替えて、現地表下138cmまで調査した。調査区内のⅡ層は約40cm堆積し、Ⅱ-１層とⅡ-２層とからなる。Ⅱ-１層は黄灰(2.5Y6/1)色シルトで水田層である。Ⅱ-２層は明黄褐（2.5Y6/6）色シルトで、水田の床土層である。Ⅲ層は20～23cm堆積する。Ⅲ層はⅢ-１層とⅢ-２層とからなる。Ⅲ-１層は黒（N2/）色シルト、Ⅲ-２層は黒褐（10YR3/2）色シルトである。Ⅲ層直下のⅣ層上面で精査を行ったが遺構と認識できるような痕跡は見られなかった。Ⅳ層は明黄褐（2.5Y7/6）色シルトで、径10cm前後の円礫を含む。Ⅲ層、Ⅳ層ともに遺物は出土していない。

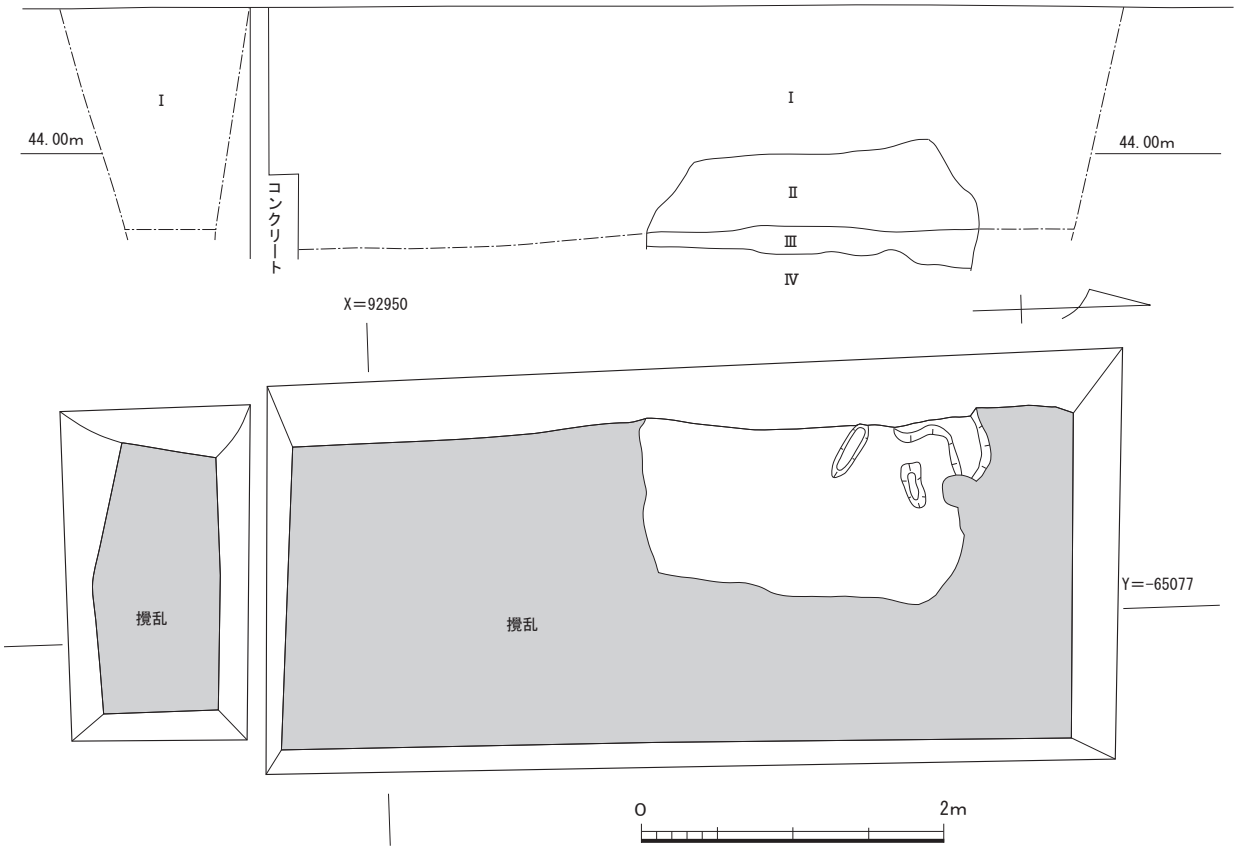


図22　01306調査（樽味遺跡13次）Ⅱ区平面図、土層断面図（縮尺1/50）

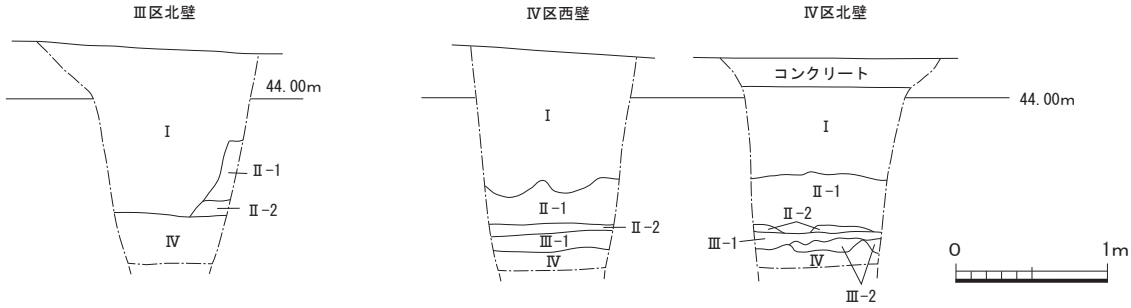


図23　01306調査（樽味遺跡13次）Ⅲ区・Ⅳ区土層断面図（縮尺1/50）

4　まとめ

Ⅰ区では、黒褐色系の埋土をもつ遺構（SK-２・５・12）と灰黄褐色系の埋土をもつ遺構（SB-18・19、SK-１）が出土している。灰黄褐色系の埋土をもつSK-１は、出土した遺物から14世紀～15世紀に位置づけられ、同様の埋土をもつSB-18・19も14世紀～15世紀の掘立柱建物と考えられる。SB-18とSB-19の構造を見ると、１間×１間、１間×１間以上と小規模であり、柱穴も小さく、小規模な掘立柱建物である。建物の方向を見るとわずかに異なっており、時間差があるものと考えられる。一方、黒褐色系の埋土をもつ遺構は、全形が不明である上に出土遺物も少なく、遺構の性格や年代的位置づけを行うのは難しい。しかし、SK-２から中世に位置づけられる土師器坏の小片が２点出土しており、これを根拠に中世の遺構と考えておきたい。黒褐色系の埋土は、３次調査で検出されている黒褐色土に比べて、若干灰みをおびている。３次調査では、弥生時代～古墳時代の遺構の埋土であり、土質の違い

写真119　01306調査　Ⅰ区遺構検出状況（西から）

写真120　01306調査　Ⅰ区遺構完掘状況（西から）

写真121　01306調査　Ⅰ区遺構検出状況（東から）

写真122　01306調査　Ⅰ区遺構完掘状況（東から）

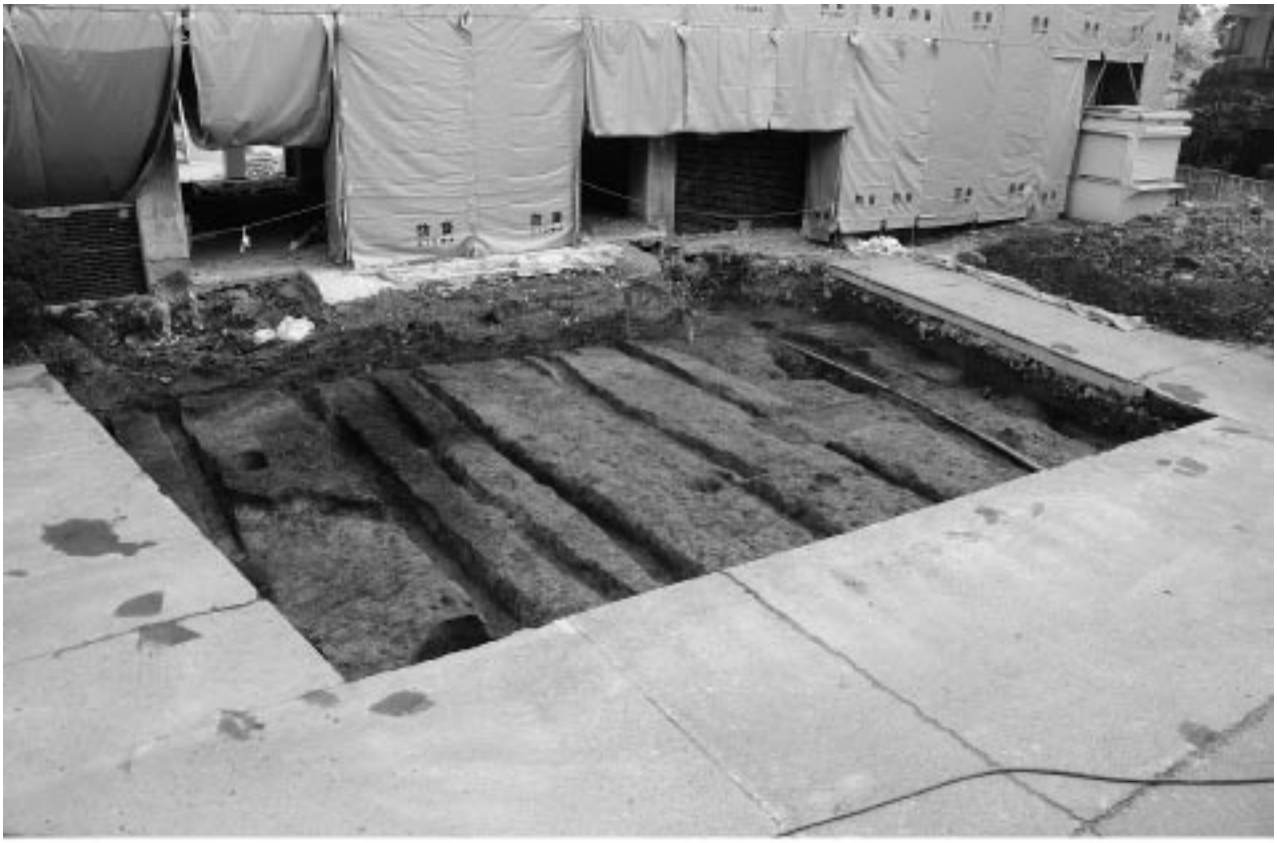


写真123　01306調査　Ⅰ区遺構検出状況（北東から）

写真124　01306調査　Ⅰ区遺構完掘状況（北から）

写真125　01306調査　Ⅰ区北壁土層

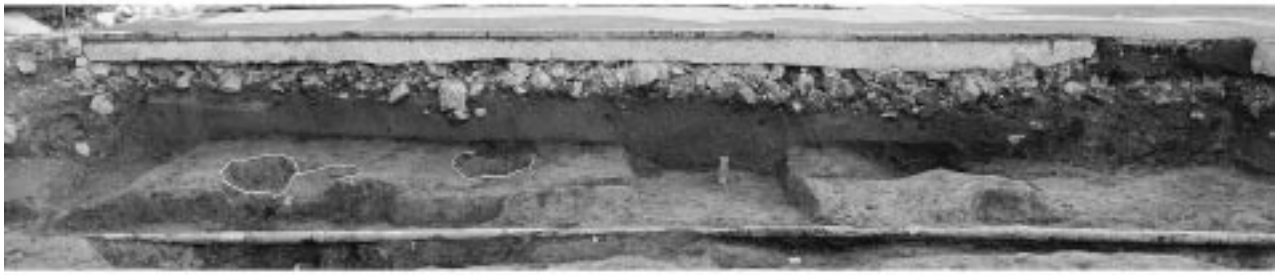


写真126　01306調査　Ⅰ区西壁土層

写真127　01306調査　Ⅰ区東壁土層

写真128　01306調査　Ⅰ区SK-２土層（西から）

写真129　01306調査　Ⅰ区SB-18完掘状況（北西から）

写真130　01306調査　Ⅰ区SB-19完掘状況（北西から）

写真131　01306調査　Ⅰ区SK-２遺構検出状況（北から）

写真132　01306調査　Ⅰ区SK-２遺構完掘状況（北から）

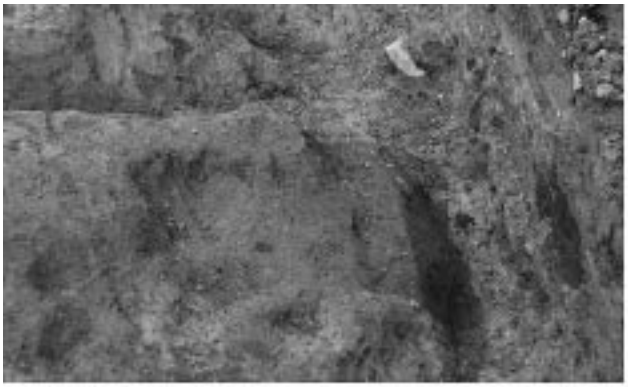


写真133　01306調査　Ⅰ区SK-１検出状況（東から）

写真134　01306調査　Ⅰ区SK-１完掘状況（西から）

写真135　01306調査　Ⅰ区SK-12完掘状況（北から）

写真136　01306調査　Ⅰ区SK-12土層（西から）

写真137　01306調査　Ⅰ区SK-５検出状況（西から）

写真138　01306調査　Ⅰ区SP-3土層（東から）

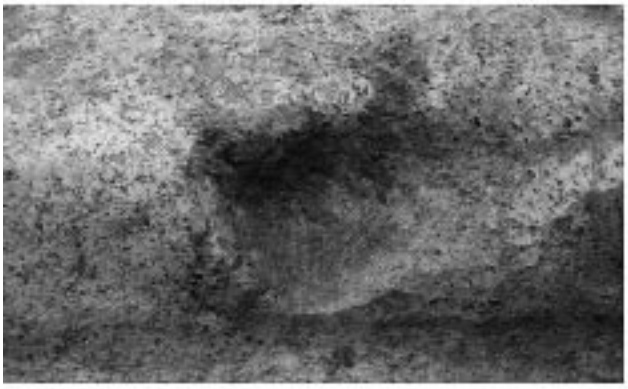


写真139　01306調査　Ⅰ区SP-７検出状況（東から）

写真140　01306調査　Ⅰ区SP-10土層（東から）

写真141　01306調査　Ⅱ区Ⅲ層検出状況（東から）

写真142　01306調査　Ⅱ区完掘状況（北東から）

写真143　01306調査　Ⅲ区完掘状況（南から）

写真144　01306調査　中棟西側工事立会（北から）

写真145　01306調査　Ⅳ区Ⅲ層検出状況（南から）

写真146　01306調査　Ⅳ区完掘状況（南から）

写真147　01306調査　中棟西側道路部分慎重工事（西から）

は、時期差によるものかもしれない、今後の調査で検討したい。

Ⅱ区とⅣ区では、Ⅲ層が出土している。Ⅱ区で検出したⅢ層から土師器坏の口縁部片が１点出土している。Ⅲ層の土質はⅠ区で検出した黒褐色系の埋土と共通しており、Ⅰ区で検出した黒褐色系の埋土をもつ遺構と同時期の遺構である可能性も考えられる。

樽味団地北東部では、これまで遺物包含層であるⅢ層は確認されているものの、遺構は確認されていなかった。Ⅰ区で初めて遺構を確認すると同時に掘立柱建物２棟や土壙などの集落域の一部を確認できた。本調査の大きな成果である。　（三吉）

01307　（山越団地）基幹環境整備（屋外排水）工事・合宿研修施設等改修機械設備工事に伴う確認調査（山越遺跡５次調査）

調 査 地 点　松山市山越４丁目11番10号
　　山越団地内
調 査 面 積　502㎡
調 査 期 間　2013年12月４日～2014年１月10日
調査の種別　確認調査
調 査 担 当　三吉秀充・田崎博之
調 査 補 助　宮崎直栄
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
　　（平成25年10月３日付）

１　調査に至る経緯

山越団地は、1992年度と2002年度の確認調査によって、沖積層に覆われた丘陵裾部からのびる段丘の落ち際から微高地上に立地することが確認されている（図25）。団地北東隅の旧河道の落ち際から、縄文時代晩期中頃の遺物に伴ってウメやカシ類の炭化種実や加工木などが出土し、団地西半部では古墳時代後期の遺物を包含する自然河道が確認されている。

2009年度～2010年度、愛媛大学、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会との間で愛媛大学構内における埋蔵文化財包蔵地の見直しを行った。山越団地については「現時点における調査結果では、埋蔵文化財包蔵地であるか判断できない」とされた。しかし、現地点における調査結果において判断できなかったものであり、埋蔵文化財が存在しないということではないことから、埋蔵文化財保護のための試掘調査や分布調査等を主体的に実施するよう求められた。

2013年３月、埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で2013年度工事計画を確認する中で、山越団地内の基幹・環境整備工事ならびに合宿研修施設等改修機械設備工事を検討しているとの報告があった。計画されている工事は建物工事、ガス工事、下水工事であった。その内、建物工事とガス工事に伴う掘削深度は、山越団地内の表土層内におさまると判断できた。しかし、団地内の下水を松山市公共下水に接続する下水工事については、埋蔵文化財への影響が及ぶ可能性があることを埋蔵文化財調査室と施設基盤部とで確認した。

その後、埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で、具体的な工事内容を検討した結果、下水工事南東部分に関しては、団地造成土内におさまることから慎重工事を依頼した。さらに、その他の工事予定地周辺を対象として埋蔵文化財の有無ならびに広がりを把握するための確認調査を実施することとした。

２　調査の概要（図24・25）

（１）調査の概要

2013年11月中旬から調査を開始する予定だったが、附属高校改修工事に伴う発掘調査（樽味遺跡13次調査、調査番号01306）を先行して実施することになり、同調査終了後の12月４日から山越確認調査に着手した。

調査は、北側から南へ順次進めることとし、安全を考慮して、重機を用いて表土層を掘り下げた後に人力による掘り下げ調査と記録化を行い、当日埋め戻すことを基本とした。調査区名は、調査段階では１区、２区、３区、４区、４-５①～④区、５区、６-１～３区、７-１～４区、８-１～２区としていたが、整理段階で、１区～４区に関してはそのまま、４-５①区を５区、４-５②区を６区、４-５③区を７区、４-５④区を８区、５区を９区、６-１区を10区、６-２区を11区、６-３区を12区、７-４区を13区、７-３区を14区、７-１・２区を15区、８-１区を16区、８-２区を17区に調査区名を変更した。本報告では変更後の調査区名を使用している。また、山越団地北端部に設けた１区～３区をⅠ区、団地中央部の４区～17区をⅡ区と呼称している。

Ⅰ区は現地表下２m以上の掘り下げとなるため、小規模な調査区として１区、２区、３区を設けた。

Ⅱ区は、北端部に設定した４区の調査では後述する縄文時代～古代の遺構と遺物を包含する基本層序Ⅲ層を確認できなかったものの、続いて南に設定した９区では、Ⅲ層を確認できた。そこで、Ⅲ層の広がりを確認するため、４区の南に５区を設定し、順次南へ調査を進めた。Ⅱ区の調査は、以上の経緯などから４区、９区、５区、６区、７区、８区、10区、11区、12区、15区、14区、13区、16区、17区の順に進めることとした。

調査区位置は平板測量（縮尺1/200）を行い、建物配

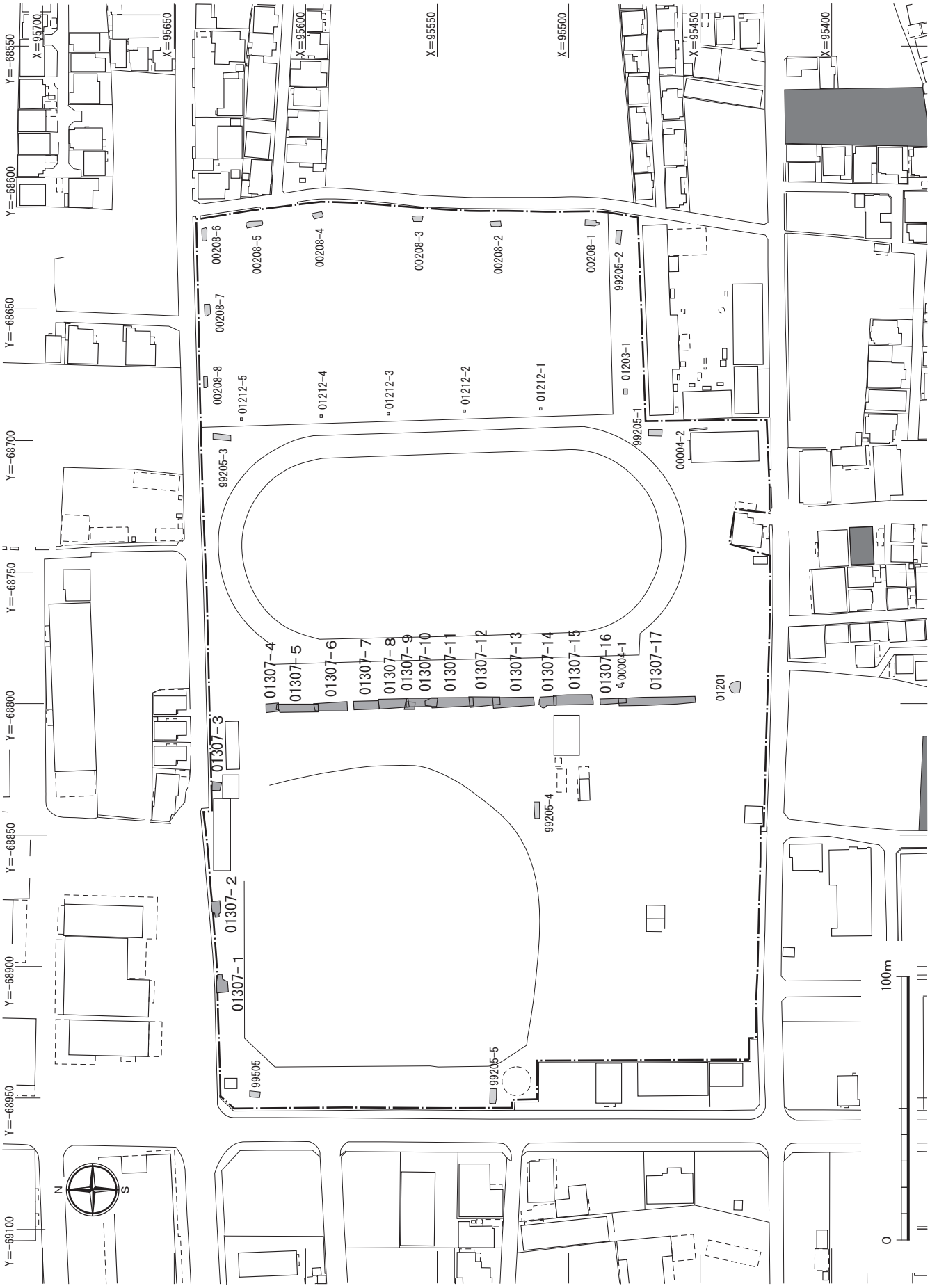


図24　01307調査（山越遺跡５次）調査地点位置図（縮尺1/2,000）

置等から松山市都市計画図に対応できるようにした。各調査区で確認した土層については、縮尺1/20の土層断面図を作成しながら、記録化を図った。標高については、調査段階では任意の基準高を設定したが、最終的に山越団地外に設置されていた松山市山越３丁目10-20番地先の公共座標１A077（世界測地系X＝95753.273、Y＝－69089.687、標高16.12m）を基に標高の再整理を行った。またデジタルカメラによる写真記録を行っている。

なお17区では、花粉分析用のサンプリングを行っており、今後自然科学的分析を行い、周辺の自然環境復元を行う予定である。

（２）基本層序

今回、上位からⅠ～Ⅳ層の基本層序を設定した。

Ⅰ層：真砂土層を主体とする表土層である。

Ⅱ層：オリーブ灰色を基調とする団地造成以前の近現代の水田層である。

Ⅲ層：暗緑灰色～黒色シルトで、縄文時代晩期後半～古代の遺物包含層である。Ⅱ区中央部～南半部でⅣ層の上層に見られる。調査区南部Ⅲ層上半部では撹拌痕跡を観察でき水田層の可能性も考えられる。

Ⅳ層：灰色～灰白色の砂礫層で、調査区全面に広がる縄文時代晩期後半以前の河川堆積層である。

本書では、この基本層序に基づき報告を進める。

３　調査の記録（図25～35）

（１）Ⅰ区

［１区］ 山越団地の北西端部にあたり、現地表下294㎝、標高14.08mまで重機を用いてⅠ・Ⅱ層を掘り下げた（写真148・149）。西壁土層では、現地表下217㎝、標高14.85mまでⅠ層が続き、直下で灰白色～黄灰色粗砂層～細砂層からなるⅡ-１層を確認した。遺物は出土していない。

［２区］ ２区と３区との間に設定した調査区で、現地表下235㎝、標高15.54mまで重機を用いて掘り下げた（写真152・153）。南壁土層では、現地表下172㎝、標高15.30mまでⅠ層が続き、直下でⅡ層が出土した。Ⅱ層は現地表下208㎝、14.94mまで続く。Ⅱ層下でⅢ層が出土し、Ⅲ-１層～Ⅲ-３層に分層できる。Ⅲ-１層は細砂混じりの暗緑灰色粘質シルトで淘汰が悪く、下面には小さな凹凸が多数見られる。この凹凸は、人為的な撹拌ではなく、生物擾乱によるものと考えられる。Ⅲ-２層は黒色シルトで未分解の有機質が混じる。Ⅲ-３層は灰色粘土質でⅢ-２層との層界は漸移的である。Ⅲ-３層下では河川堆積層であるⅣ層を確認している。遺物は出土していない。

［３区］ Ⅰ区の東端部に設定した調査区で、現地表下235㎝、標高14.56mまで重機を用いて掘り下げた（写真154・155）。南壁土層では、Ⅰ層は現地表下110㎝、標高15.70mまで、Ⅱ層は現地表下157㎝、標高15.23mまで続く。Ⅱ層直下で出土したⅢ層は、現地表下190㎝、標高14.90mまで続く。Ⅲ層直下にはオリーブ灰色～灰白色の粗砂～中砂からなるⅣ層が堆積している。Ⅳ層の観察では上方粗粒化を示す。遺物は出土していない。

（２）Ⅱ区

［４区］ Ⅱ区北端部に設けた南北約５m、東西約３mの調査区である（写真156）。重機を用いて現地表下200㎝、標高14.95mまで掘り下げ、Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ層を確認した。４区では現地表下147㎝、標高15.48mまでⅡ層が続き、直下でⅣ層が出土した。Ⅳ層は上方粗粒化を示す。遺物は出土していない。

［５区］ 南北約14.6m、東西約３mの調査区である（写真157）。重機を用いて現地表下約130㎝、標高15.60mまで掘り下げ、Ⅱ層直下でⅣ層を確認した。続けて現地表下207㎝、標高14.83mまで人力で掘り下げ、Ⅳ層が続いていることを確認した。遺物は出土していない。

［６区］ 南北約13m、東西約3.6mの調査区である（写真158）。重機を用いて現地表下138㎝、標高15.50mまで掘り下げ、Ⅱ層直下でⅣ層を確認した。続けて現地表下約188㎝、標高15.00mまで人力で掘り下げ、Ⅳ層が続いていることを確認した。なお、調査区北半部の調査壁が崩落したため、土層の一部は記録化ができなかった。遺物は出土していない。

［７区］ 南北約9.8m、東西約3.2mの調査区である（写真159）。重機を用いて現地表下125㎝、標高15.58mまで掘り下げ、Ⅱ層直下でⅣ層を確認した。続けて現地表下173㎝、標高15.10mまで掘り下げ、Ⅳ層が続いていることを確認した。

［８区］ 南北約13.5m、東西約3.7mの調査区である（写真160）。重機を用いて現地表下176㎝、標高16.36mまで掘り下げ、Ⅱ層直下でⅢ層を確認した。Ⅲ層は調査区全面に広がる。Ⅲ層は人力で掘り下げ、Ⅳ層を検出した。Ⅲ層は淘汰が悪く、生痕が多く見られる。

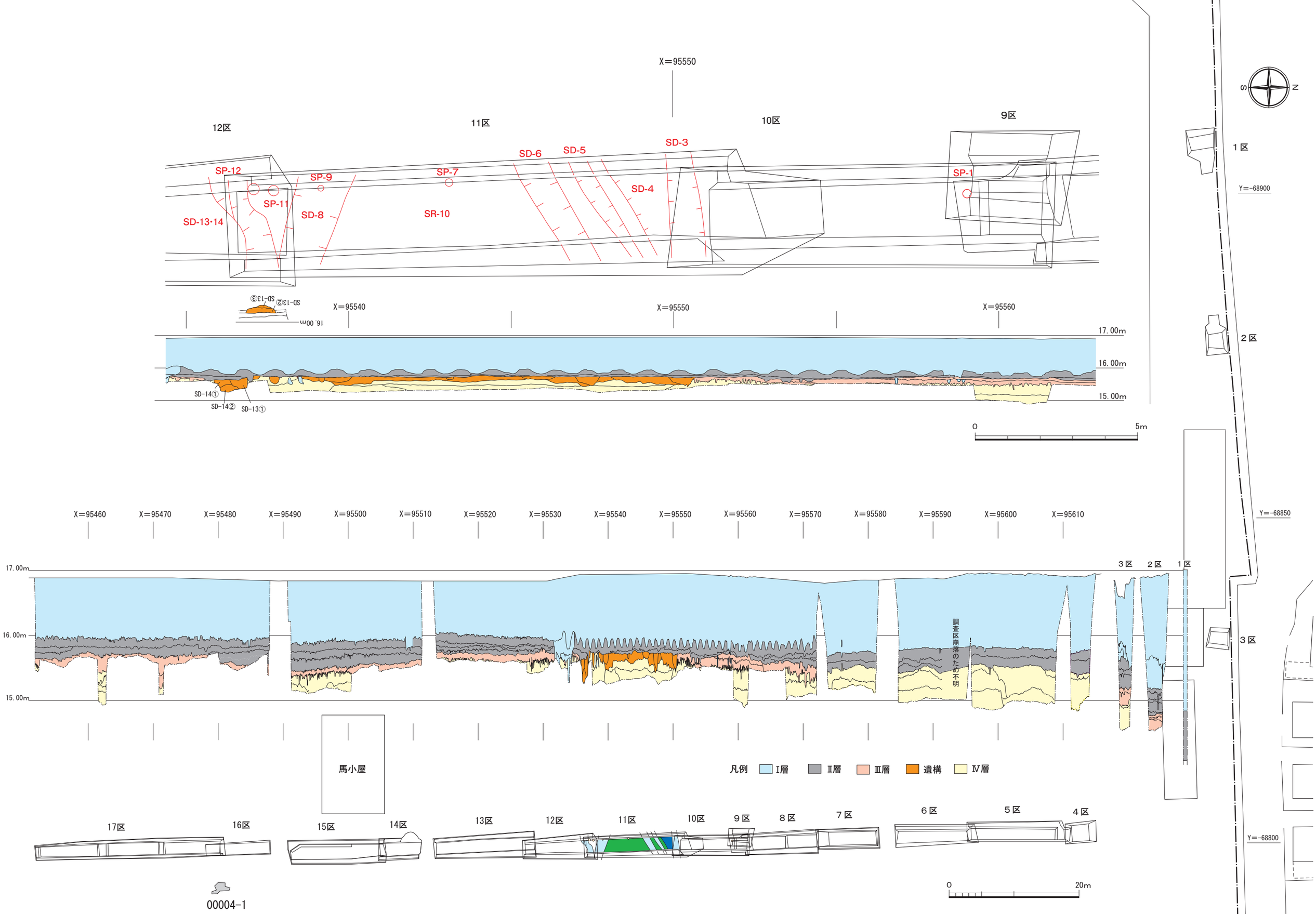


図25　01307調査（山越遺跡５次）調査地点位置図（縮尺1/500）、土層断面図（縮尺1/500・1/50）、遺構集中地点拡大図（縮尺1/100）

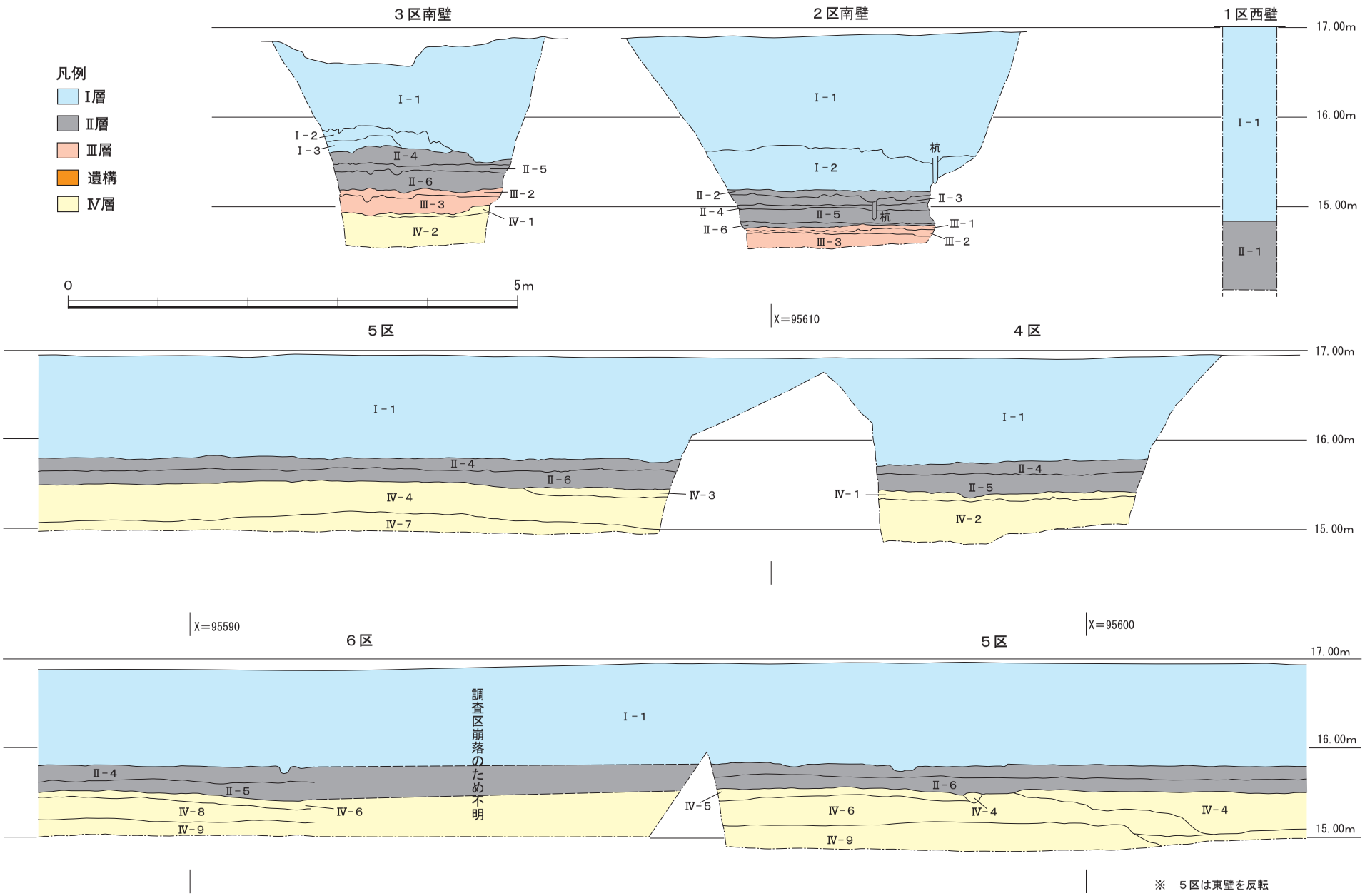


図26　01307調査（山越遺跡５次）土層断面図（１）（縮尺1/60）

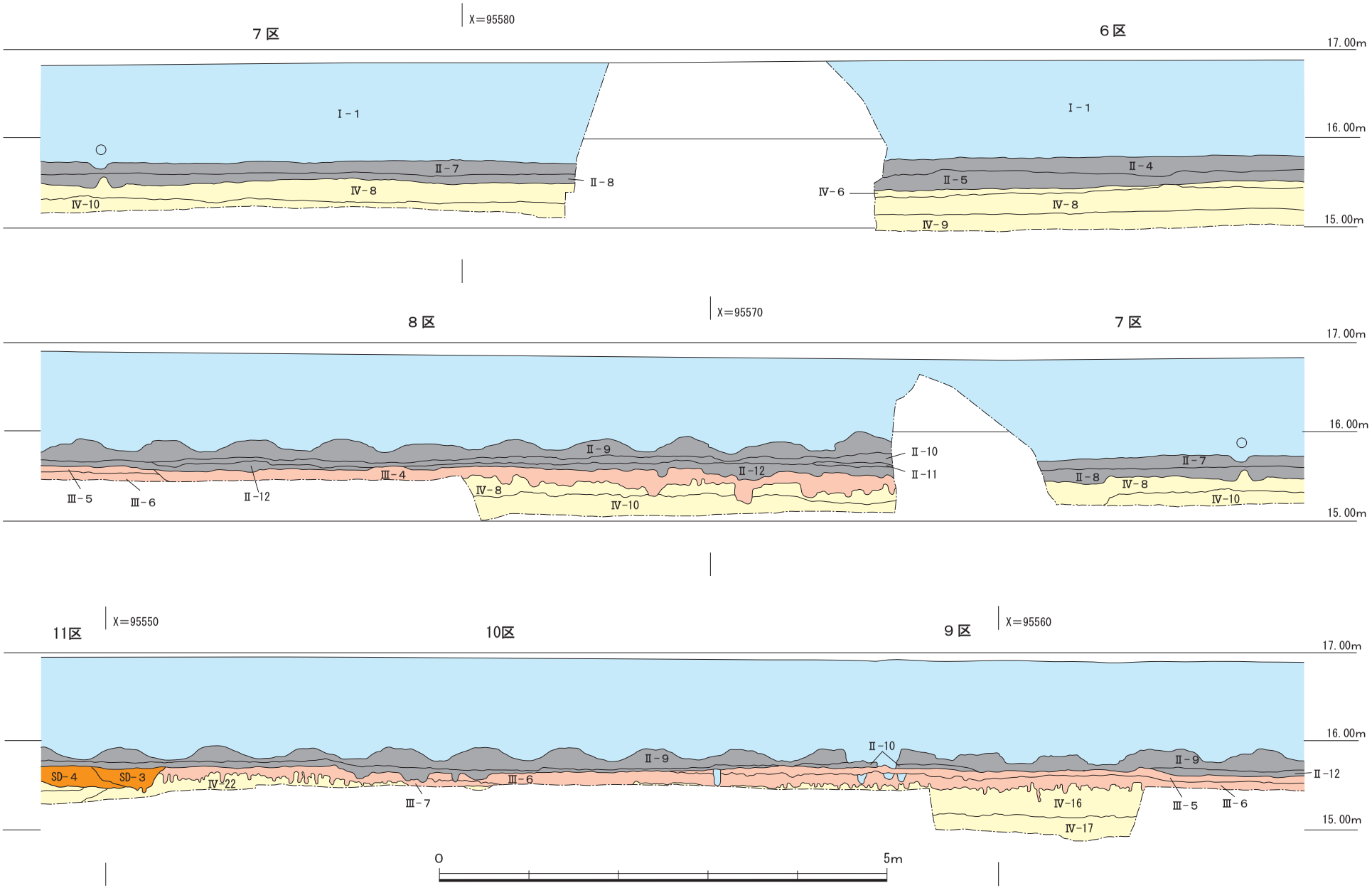


図27　01307調査（山越遺跡５次）土層断面図（２）（縮尺1/60）

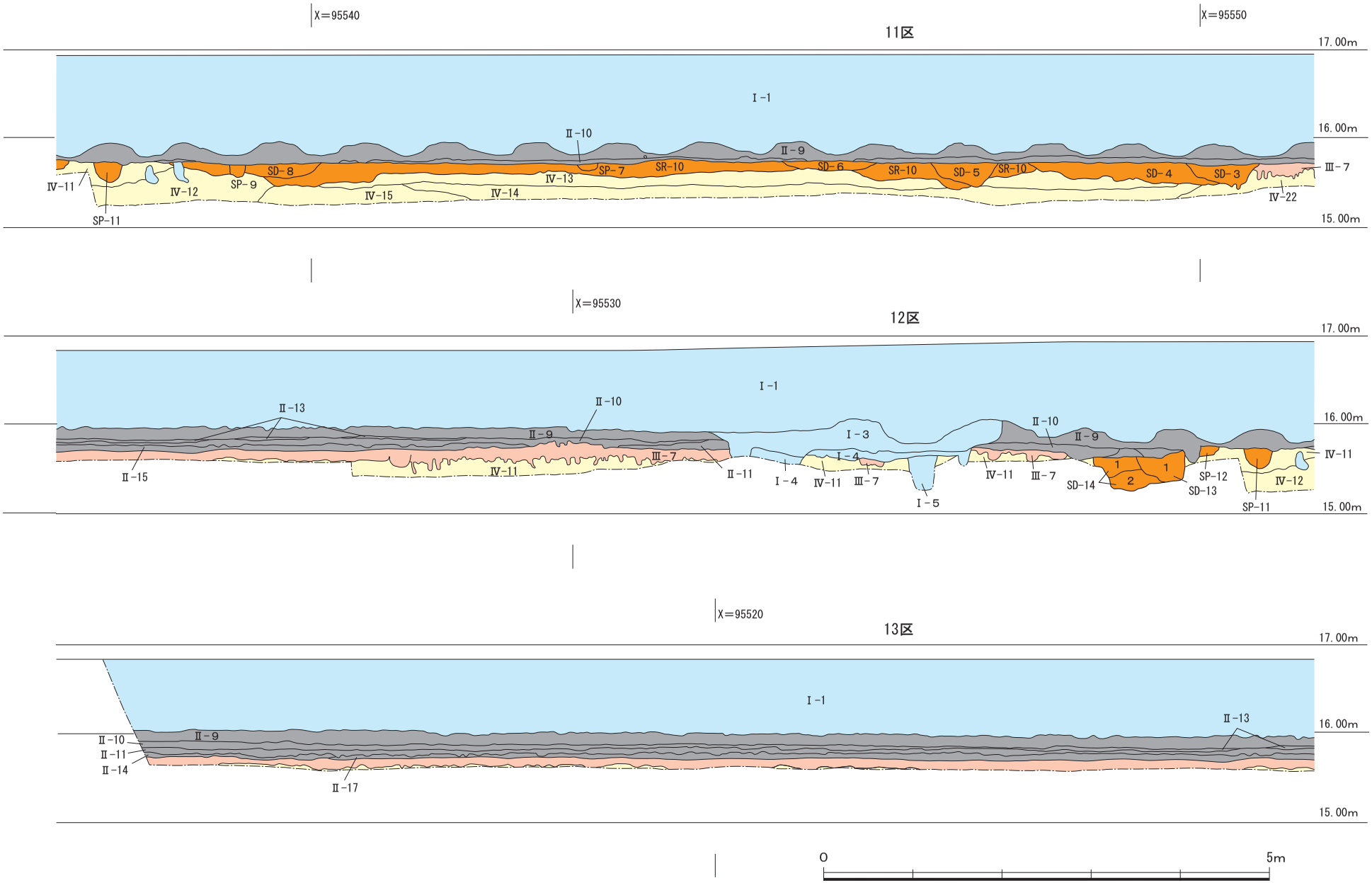


図28　01307調査（山越遺跡５次）土層断面図（３）（縮尺1/60）

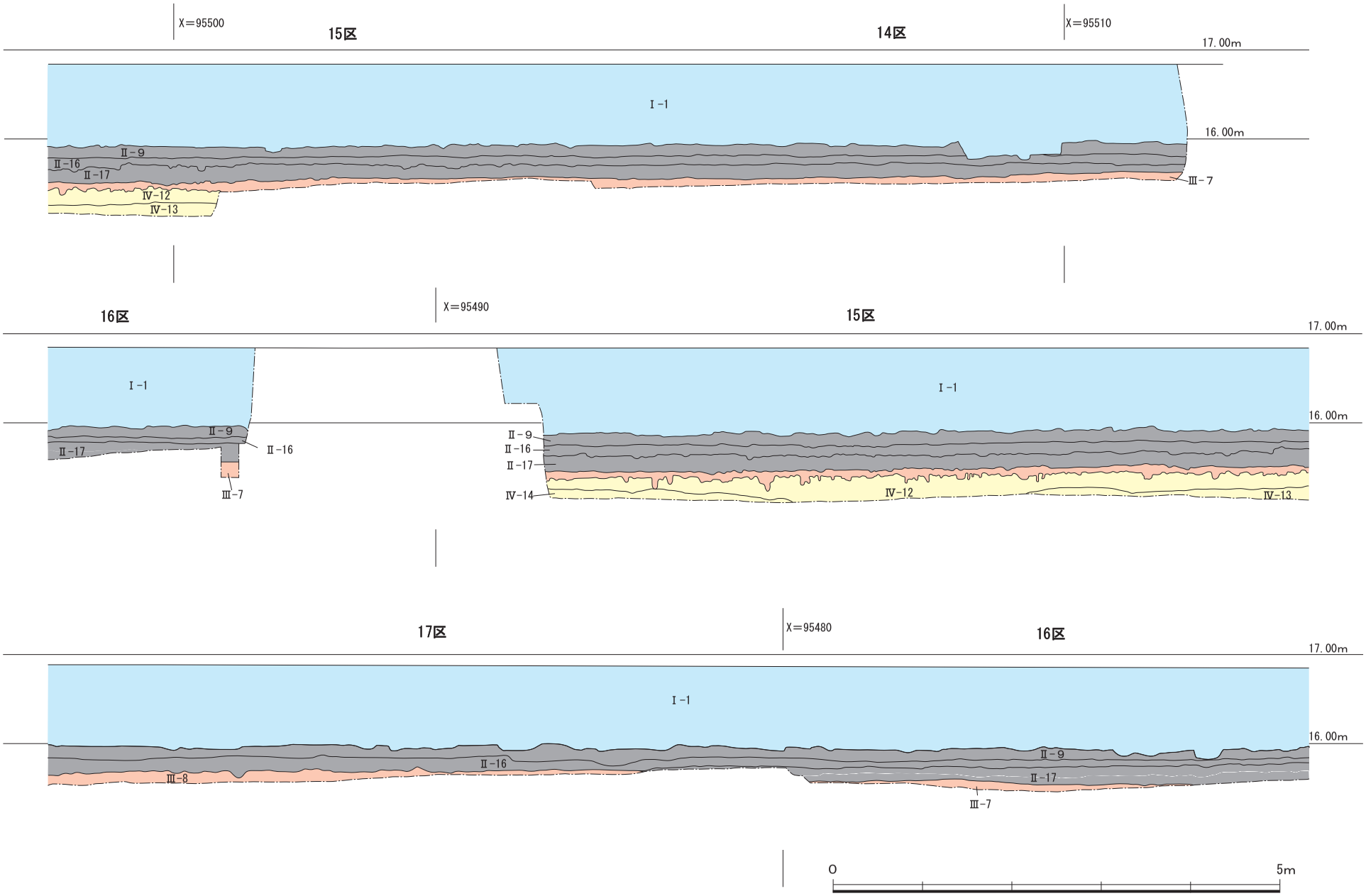
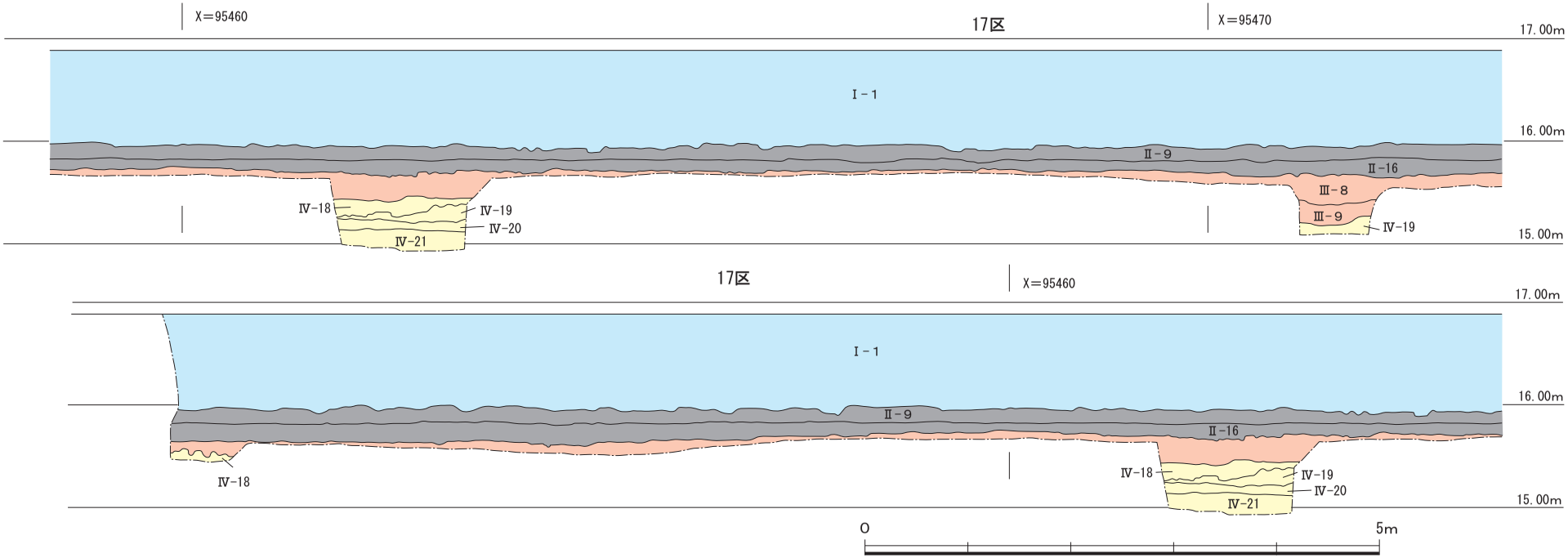


図29　01307調査（山越遺跡５次）土層断面図（４）（縮尺1/60）



Ⅰ層
Ⅰ-１：真砂土。
Ⅰ-２：オリーブ黒(5GY2/1)色砂礫層。細礫。極粗砂や砂質シルトの塊が混じる。
Ⅰ-３：緑灰(7.5GY5/1)色シルト。極粗砂～粗砂が混じる。
Ⅰ-４：真砂土。
Ⅰ-５：本来は黒(2.5GY2/1)色砂礫層であるが、グライ化して青灰色を呈する。

Ⅱ層
Ⅱ-１：灰白（2.5Y7/1）～黄灰（2.5Y6/1）色粗砂～細砂層。
Ⅱ-２：緑灰（7.5GY6/1）色粘質シルト。細砂～極粗砂が多く混じる。淘汰が悪くかきまぜられている。
Ⅱ-３：オリーブ灰(5GY6/1)色粘質土。細礫、極粗砂が混じる。淘汰悪い。全体にオレンジ色の鉄分・マンガンがうすく沈着。
Ⅱ-４：灰(10Y4/1)色砂質シルト。細礫～粗砂が混じる。淘汰悪い。
Ⅱ-５：オリーブ灰(5GY6/1)色シルト。粗砂～中砂が混じる。淘汰悪い。
Ⅱ-６：暗オリーブ灰(5GY4/1)色シルト。中砂～粗砂が混じる。
Ⅱ-７：オリーブ灰(5GY5/1)色シルト。
Ⅱ-８：緑黒（7.5GY2/1）色砂礫層。径２mm～10mmの礫が多い。
Ⅱ-９：暗オリーブ灰（2.5GY3/1）色粘質シルト。粗砂を少量含む。
Ⅱ-10：緑灰（5G5/1）色砂質シルト。上面は幅50cm、深さ10～20cmの凹凸がみられる。
Ⅱ-11：緑灰（5G5/1）色砂質シルト。径４～５mm前後の小礫～細礫が混じる。
Ⅱ-12：灰白（N7/）色砂質シルト。極粗砂が混じる。
Ⅱ-13：灰（7.5Y5/1）色砂質シルト。上層の影響をうけて鉄分・マンガンが沈着して、橙色を呈する。細砂～極粗砂が混じる。
Ⅱ-14：暗青灰（5B4/1）色砂質シルト。細礫～粗砂が混じる。
Ⅱ-15：灰（5Y4/1～5Y5/1）色砂質シルト。
Ⅱ-16：灰（5Y4/1～5Y5/1）色砂質シルト。Ⅱ-15層に比べてやや白っぽい。
Ⅱ-17：緑灰（5G5/1）色シルト。細礫～粗砂が混じる。
Ⅱ-18：灰（N5/）色シルト。Ⅱ-17層よりもやや暗色の土色で極粗砂が少ない。17層から18層への変化は漸移的である。

Ⅲ層
Ⅲ-１：暗緑灰(7.5GY4/1)色シルト。
Ⅲ-２：黒(N2/)色シルト。細砂が若干混じる。有機物は分解状態。
Ⅲ-３：灰(N6/)色粘質土。中砂のラミナが混まじる。
Ⅲ-４：オリーブ黒（7.5Y3/1）色シルト。径４～５mmの細砂が混じる。
Ⅲ-５：暗褐（10YR3/3）色砂質シルト。上層の影響をうけて鉄分・マンガンが沈着して橙色を呈する。
Ⅲ-６：黒褐（5YR3/1）色シルト。極粗砂～粗砂が混じる。
Ⅲ-７：黒褐（5YR3/1）色シルト。極粗砂～粗砂が混じる。層下面には凹凸が見られる。
Ⅲ-８：暗灰（N3/）色シルト。中砂～細砂が混じる。
Ⅲ-９：オリーブ黒（5Y3/1）色シルト。極粗砂～細砂が混じる。

Ⅳ層
Ⅳ-１：オリーブ灰(2.5GY5/1)色砂質土。粗砂～中砂層を主体とする。部分的に灰(N6/)色粘質土が混じる。
Ⅳ-２：灰白(N7/)色砂質土。極粗砂～中砂を主体とする砂層。全体として上方細粒化を示す。
Ⅳ-３：細礫～粗砂から構成される砂礫層。上層の影響をうけて橙色となる。
Ⅳ-４：青灰（5B5/1）色砂礫層。細礫～粗砂からなる。
Ⅳ-５：砂礫層。Ⅳ-６層と本来同じであるが上層の影響を受けて橙色となる。
Ⅳ-６：灰（N5/）色砂礫層。細礫～極粗砂からなる。下層と比べて暗色である。
Ⅳ-７：灰（N6/）色砂礫層。径5～10mmの円礫混じりの細礫～粗砂からなる。上方粗粒化を示す。
Ⅳ-８：灰白（N8/）色砂礫層。細礫～極粗砂が混じる。
Ⅳ-９：灰白（N8/）色砂礫層。径５～10mmの礫が混じる。
Ⅳ-10：灰黄褐（10YR4/2）色砂礫層。径1～10mm大の砂礫からなる。
Ⅳ-11：灰（7.5Y5/1）色砂質土。細礫～極粗砂が混じる。
Ⅳ-12：オリーブ灰(2.5GY6/1)色砂質土。中砂～細砂を主体とする。上層から木の根の浸食が著しい。
Ⅳ-13：鉄分・マンガンが沈着して明赤褐（5YR 5/6）色の砂礫層。中砂混じりの極粗砂～粗砂を主体とする。
Ⅳ-14：灰黄(2.5Y6/2)色砂質土。極粗砂～中砂からなる。ラミナが部分的にみられる。
Ⅳ-15：オリーブ灰(2.5GY6/1)色砂質土。中砂～細砂を主体とする。上方に極粗砂が混じり、若干の上方細粒化が見られる。
Ⅳ-16：灰黄(2.5Y7/2)色砂質土。極粗砂からなる。
Ⅳ-17：灰黄(10Y7/2)色砂質土。上方は粗砂、下部は細砂からなる。
Ⅳ-18：青灰（5B6/1）色砂質土。
Ⅳ-19：青灰（5B6/1）色砂質土。木の根はかなり少ない細砂層。
Ⅳ-20：青灰（5B6/1）色砂質土。粗砂が若干まじる極粗砂層。
Ⅳ-21：青灰（5B6/1）色砂質土。ラミナ発達、中砂～細砂層、全体として若干上方粗粒化。
Ⅳ-22：灰（7.5Y5/1）色砂質土。細礫～極粗砂が混じる。

図30　01307調査（山越遺跡５次）土層断面図（５）（縮尺1/60）

調査区南半部のⅢ層中から縄文土器片が３点、石庖丁未成品１点（図34-18）、緑色片岩片１点（図34-19）が出土している（写真161）。Ⅲ層とⅣ層との層界は漸移的である。現地表下234㎝、標高14.02ｍまで掘り下げ、Ⅳ層が続いていることを確認した。

［９区］南北約４ｍ、東西約2.7ｍの調査区である（写真162）。重機を用いてⅠ・Ⅱ層を掘り下げ、現地表下102㎝、標高15.90ｍでⅢ層が出土した。Ⅲ層は人力で調査を進めた。Ⅲ層直下の現地表下122㎝前後、標高15.70ｍ前後でⅣ層があらわれた。Ⅲ層の底面には小さな凹凸が多数見られることから、Ⅳ層上面で精査を行ったが、遺構は確認できなかった。なおⅢ層中から縄文土器、弥生土器、土師器片が少量出土している。Ⅳ層は、再度重機を用いて現地表下182㎝、標高15.10ｍまで掘り下げた。Ⅳ層では上方粗粒化を観察できる。

［10区］南北約12ｍ、東西約3.1ｍの調査区である（写真165）。重機で現地表下約110㎝、標高15.75ｍまで調査を進め、Ⅱ層直下でⅢ層が出土した。Ⅲ層から人力で掘り下げ、現地表下139㎝、標高15.46ｍでⅣ層を検出した。Ⅲ層底面には小さな凹凸が多数見られることから、Ⅳ層上面で遺構精査を行い、調査区北端部でSP-１を検出した。

SP-１（図25、写真163・164）は、径35㎝、深さ約10㎝の小穴で埋土は黒褐（10YR3/1）色砂質土である。遺物は出土していない。

Ⅲ層から縄文土器、弥生土器、土師器小片が多く出土し、緑色片岩片１点が出土している。その内、口縁部が外反し、頸部が「ハ」字形にすぼまる壺（図32-12）を図化している。縄文時代晩期末～弥生時代前期初頭に位置づけられる。

［11区］南北約18.2ｍ、東西約3.5ｍの調査区である（写真166・167）。現地表下120㎝、標高15.75ｍまで重機で掘り下げ、Ⅲ層を検出した。Ⅲ層は調査区全面に広がっており、人力で掘り下げながら精査した。Ⅳ層の上面を検出した後、調査区西壁沿いにⅣ層を深掘りし、西壁断面の上層堆積状況を観察した。その結果、Ⅲ層として認識していたものの一部が、SD-３～６、SD-８、SP-７・９・11・12、SR-10であることを確認できた。SD-３から遺物が少量出土しているのみで、詳細な時期比定は難しい。現状では縄文時代晩期末～古代の遺構と位置づけておきたい。

SD-３（図25）幅83㎝、深さ25～27㎝を測る。SD-４を切る。埋土は黒褐（10YR3/1）色シルト。極粗砂～中砂を主体とする。縄文土器や弥生土器が少量出土している。その内、縄文時代晩期末～弥生時代前期初頭に位置づけられる壺片（図32-13）を図化している。

SD-４（図25）は、残存幅216㎝、深さ23㎝を測る。SD-３に切られる。埋土は黒褐（10YR3/1）色砂質土。細礫～粗砂を主体とする。

SD-５（図25）は、幅76㎝、深さ27㎝を測る。SR-10を切る。埋土は褐灰（10YR6/1）色砂質土。砂礫～粗砂を主体とするラミナや中砂が混じる。またにぶい黄褐（10YR4/3）色シルトのブロックが混じる。

SD-６（図25）は、幅110㎝、深さ11㎝を測る。SR-10を切る。埋土は淡い黒褐（10YR3/1）色砂質土。細礫や極粗砂～中砂が混じる。

SD-８（図25）は、幅175㎝、深さ16㎝を測る。SR-10を切り、SP-９に切られる。埋土は褐灰（10YR5/1）色砂質土。粗砂～中砂を主体とする。部分的に黒褐（10YR3/2）色シルトの小塊が混じる。

SR-10（図25）は、中央部を東西に流れる自然河川で、幅8.7ｍ、深さ23㎝を測る。最上面はⅢ層で埋積され、SD-５・６・８、SP-7に切られる。埋土は灰白（10YR8/1）色砂質土で極粗砂～粗砂を主体とする。上方細粒化を示す。北側ではラミナがみられる。

SP-７（図25）は、径24㎝、深さ７㎝の小穴である。SR-10を切る。埋土は黒褐（10YR3/1）色砂質土で極粗砂～中砂からなる。

SP-９（図25）は、径18㎝、深さ14㎝の小穴である。SD-８を切る。埋土は黒褐（10YR3/1）色砂質土で粗砂～中砂を主体とする。

SP-11（図25）は、径32㎝、深さ23㎝の小穴である。埋土は褐灰（5YR5/1）色中砂～細砂で極粗砂が混じる。

SP-12（図25）は、南側は攪乱によって欠損する。残存径21㎝、深さ11㎝の小穴である。埋土は褐灰（5YR5/1）色中砂～細砂で極粗砂が混じる。

他にⅢ層から、縄文土器、弥生土器、土師器の小片・細片が多く出土している。

［12区］南北約11.5ｍ、東西約３～４ｍの調査区である（写真168・169）。重機を用いて現地表下106㎝、標高15.82ｍまで掘り下げ、Ⅲ層を確認した。人力でⅢ層を精査し、現地表下120㎝、標高15.68ｍでⅣ層を検出した。Ⅳ層上面で精査を行い、調査区北端部でSD-13・14を検出した。調査区南半部では遺構を検出

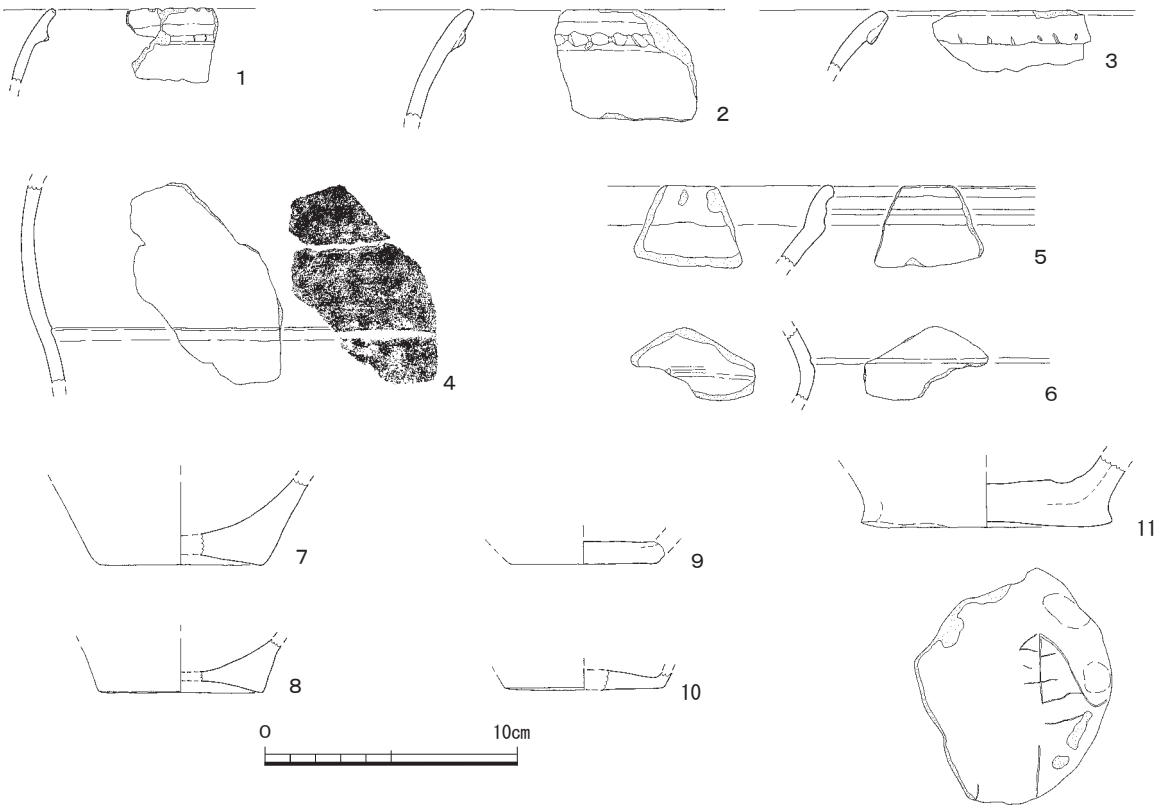


図31　01307調査（山越遺跡５次）出土遺物（１）（縮尺1/３）

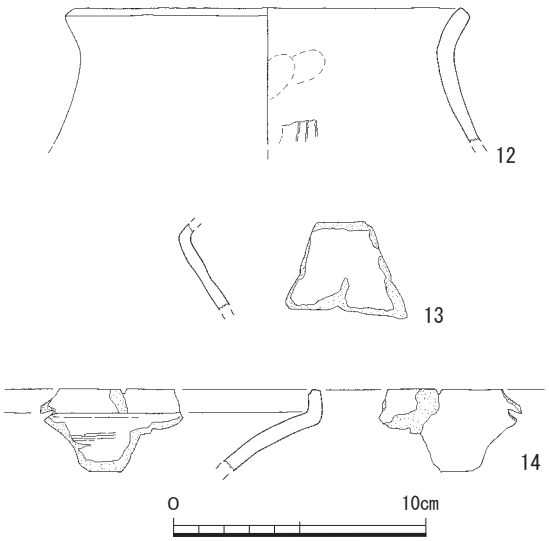


図32　01307調査（山越遺跡５次）出土遺物（２）（縮尺1/3）

できなかったが、西壁土層で精査を行った結果、Ⅲ層底面がシャープな層理面をなしており、遺構の可能性を残す。

SD-13とSD-14は、同一の溝として完掘した後、土層の精査を行い２条の溝が重なり、SD-13がSD-14を切っていることを確認できた（写真170）。

SD-13は、西壁では幅56cm、深さ32cm、東壁では幅93cm、深さ23cmを測る。埋土は西壁で①層、東壁で②層・③層を確認している。①層は褐灰（7.5Y4/1）色シルトで粗砂～中砂が混じる。②層は褐灰（7.5Y4/1）色シルトでやや黒みをおびる。粗砂～中砂が混じる。③層は褐灰（7.5YR4/1）色砂質土で粗砂～細砂を主体とし、褐灰（7.5YR5/1）色細砂のラミナがみられる。

SD-14は、幅80cm、深さ38cmを測る。埋土は西壁で①層と②層を確認している。①層は褐灰（7.5YR4/1）色砂質土で主体は粗砂～細砂だが、シルトが一部混じる。②層は灰白（7.5YR8/1）色中砂～細砂と褐灰（7.5YR5/1）色極粗砂～粗砂のラミナが互層堆積する。

SD-13・14の埋土として採り上げた遺物には、縄文土器や弥生土器片、石器がある。土器11点（図31-１～11）、台石１点（図33-15）、磨石１点（図33-16）を報告する。

１～３は深鉢口縁部片で、口縁部から離れた位置に

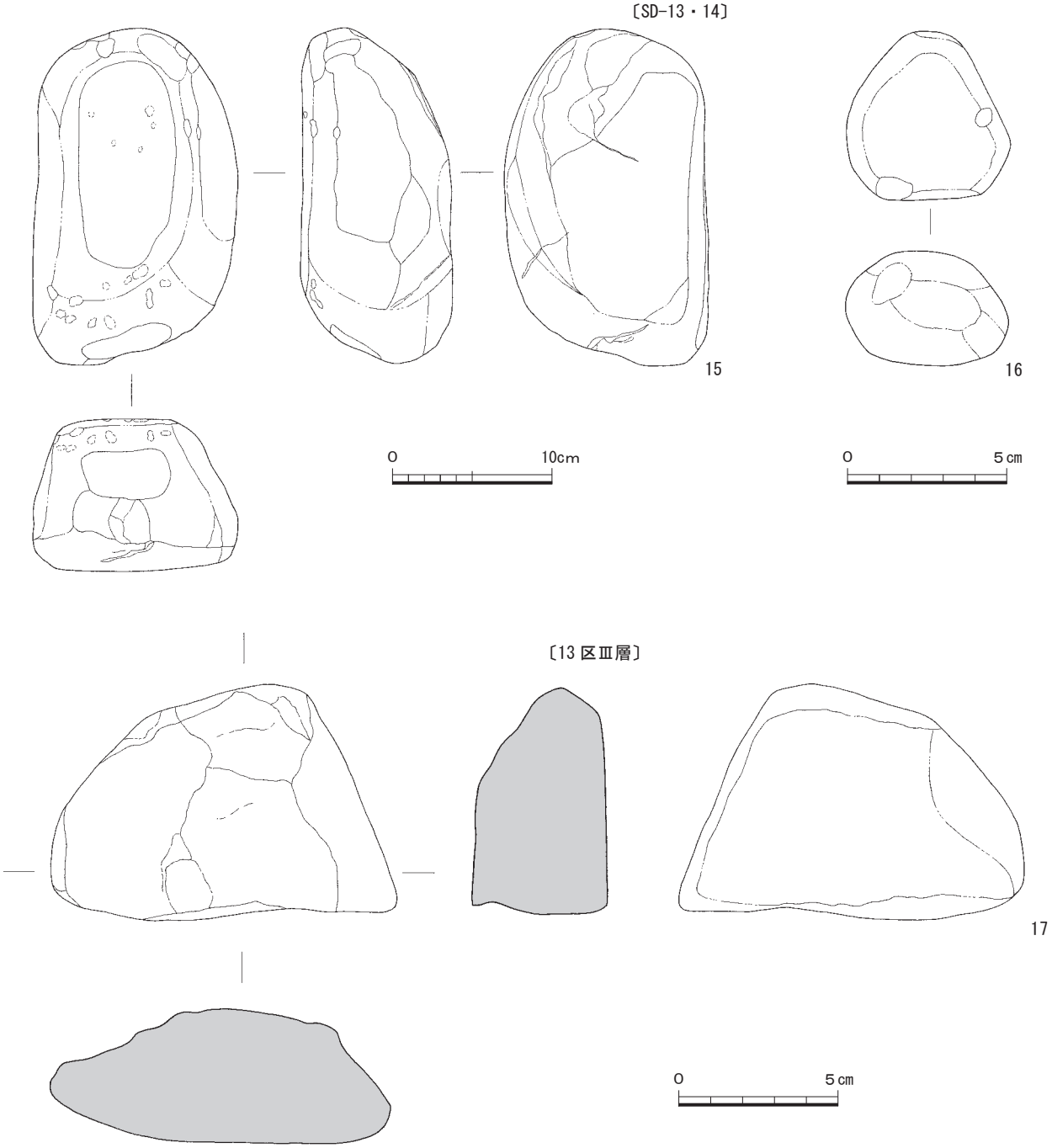


図33　01307調査（山越遺跡５次）出土遺物（３）（縮尺1/２・１/４）

刻目を施した細く低い凸帯が巡る。１の口縁端部には刻目を施す。４は深鉢頸胴部片で頸部と胴部との境界には沈線が巡る。１～３に施された凸帯は低く、４の肩の張りは弱いことから、刻目凸帯文土器系の弥生土器に位置づけておく。

５は浅鉢口縁部片、６は浅鉢の肩部片である。７・８・11・12は壺底部片、９・10は浅鉢底部片である。12の底部には線刻によって木の葉が描かれている。

以上の遺物の特徴から、SD-13・14は弥生時代前期初頭の溝と考えられる。

調査区内Ⅲ層から表面が磨滅した刻目凸帯文土器片を始めとする土器小片・細片や、スクレイパー（図35-22）や剥片（図35-23）、緑色片岩片１点（図34-20）などが出土している。

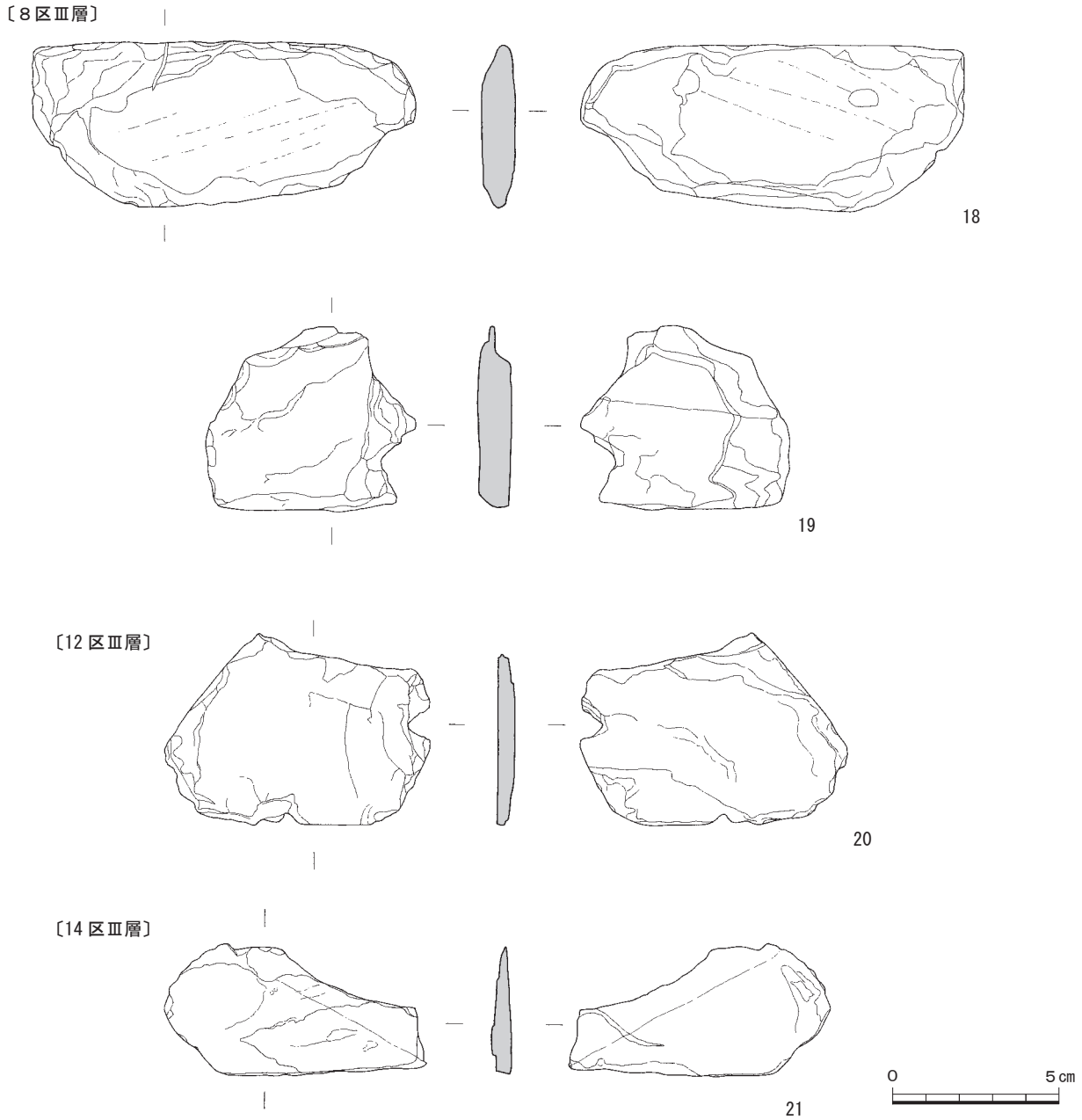


図34　01307調査（山越遺跡５次）出土遺物（４）（縮尺1/２）

［13区］南北約15.8m、東西約３～4.2mの調査区である（写真171）。重機を用いて現地表下106cm、標高15.79mまで掘り下げ、Ⅲ層を検出した。Ⅲ層は人力で掘り下げながら精査し、現地表下122cm、標高15.63mでⅣ層を確認した。

Ⅲ層から縄文時代晩期末～弥生時代前期初頭に位置づけられる浅鉢（図32-14）を始めとする土器小片・細片が約50点出土しており、表面は磨滅しているものが多い。石器も少量出土しており、サヌカイト残核１点（図35-24）と剥片１点（図35-25）、砥石（図33-17）を報告する。その他、サヌカイト石片１点が出土している。

［14区］南北約6.5m、東西約3.2mの調査区である（写真172）。重機を用いて現地表下129cm、標高15.63

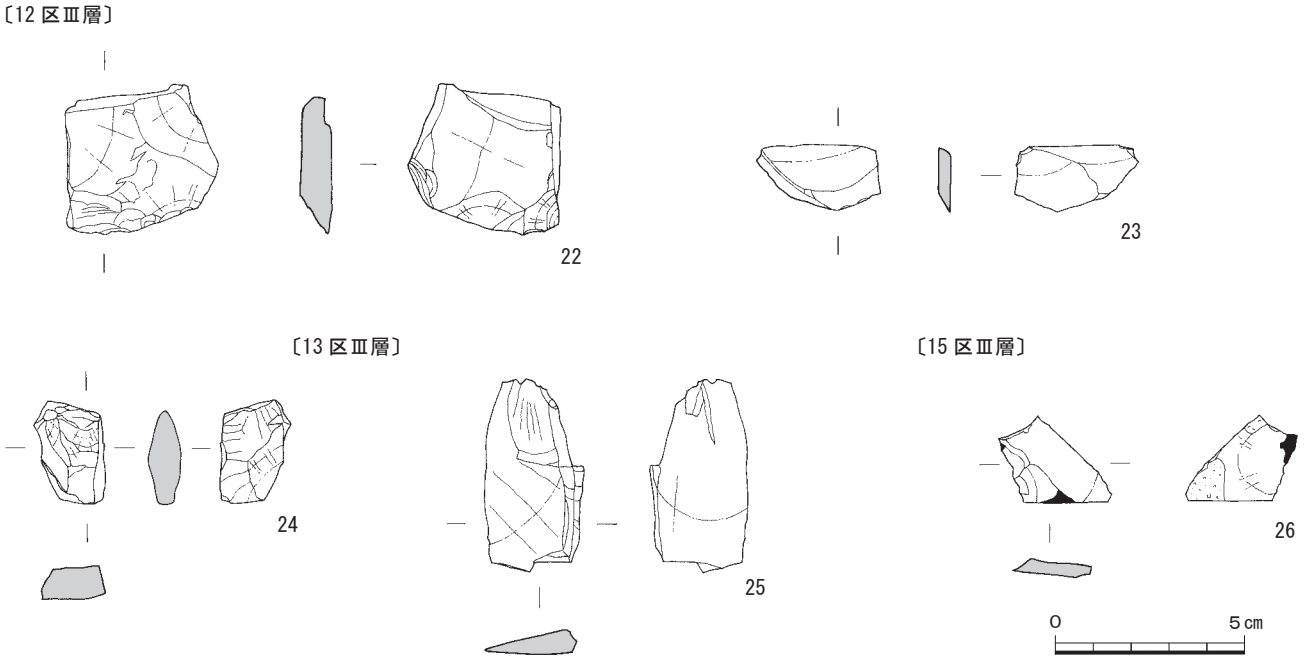


図35　01307調査（山越遺跡５次）出土遺物（５）（縮尺１/２）

ｍまで掘り下げ、Ⅲ層を検出した。Ⅲ層は人力で掘り下げを行い、刻目凸帯文土器の深鉢片などを含む縄文土器や弥生土器の小片・細片が約10点、緑色片岩片１点（図34-21）が出土した。土器片の表面は磨滅が著しい。現地表下144㎝、標高15.48ｍまでⅢ層を調査し、Ⅲ層が続いていることを確認した。

［15区］ 南北約14ｍ、東西約3.8ｍの調査区である（写真173・174）。重機を用いて現地表下126㎝、標高15.60ｍまで掘り下げ、Ⅲ層を検出した。Ⅲ層は人力で掘り下げながら精査を行い、縄文土器、弥生土器、土師器の小破片～細片が約30点、サヌカイト剥片２点、緑色片岩２点が出土した。その内サヌカイト剥片（図35-26）を図化している。現地表下136～146㎝、標高15.40～15.50ｍでⅣ層が出土している。

15区で検出したⅢ層検出面は、14区や16区で検出しているⅢ層に比べて大きく落ち込んでおり、Ⅲ層はⅣ層上面に見られる谷状地形の湿地性堆積物と考えられる。Ⅲ層の底面には凹凸が多数見られるが、根痕と考えられる。

［16区］ 南北約10ｍ、東西約２ｍの調査区である（写真175）。重機を用いて掘り下げ、調査区南半部で現地表下約150㎝、標高15.60ｍでⅢ層を検出した。人力によってⅢ層の掘り下げを行い、現地表下164㎝、標高15.46ｍまで掘り下げ、Ⅲ層が続いていることを確認した。北側については、北端部付近を人力で深掘りし、現地表下134㎝、標高15.56ｍでⅢ層を確認した。遺物は出土していない。

［17区］ Ⅱ区南端部に設けた南北約29.2ｍ、東西約３ｍの調査区である（写真176～178）。重機で現地表下128㎝、標高15.70ｍまで掘り下げⅢ層を検出した。さらにⅢ層の堆積状況を確認するため、調査区北部、中央部、南端部に幅0.8ｍ～1.6ｍの深掘り部分を設け、人力で掘り下げた。北部深掘り部では、現地表下127㎝、標高15.68ｍでⅢ層を確認し、現地表下177㎝、標高15.18ｍまで続くことを確認した。中央部深掘り部では現地表下126㎝、標高15.72ｍでⅢ層を確認し、現地表下158㎝、標高15.40ｍでⅣ層を検出した。Ⅳ層を現地表下206㎝、標高14.92ｍまで掘り下げ、遺物が出土しないことを確認した。西壁で花粉分析用の試料を採集している。

南端部深掘り部では、現地表下133㎝、標高15.65ｍでⅢ層を検出し、Ⅲ層直下の現地表下140㎝、標高15.58ｍでⅣ層を確認した。同深掘り部では、Ⅲ層から縄文土器小片が１点出土している。

３　まとめ

今回出土した遺構は、弥生時代前期初頭の溝２条、縄文時代晩期～古代の溝４条、自然河川１条、小穴５

表６　01307調査（山越遺跡５次）出土遺物観察表

挿図		出土調査区	出土遺構／層位		出土状況	遺物の観察			遺物登録番号	採り上げ番号	遺物実測図№	収納コンテナ
図	№		種別	番号		種別	器種	器面調整・焼成等				
31	1	12区	SD	13・14		弥生土器	深鉢	口縁端部ならびに突帯に刻み目を施される。内外面ともに磨滅。写真179。	101	R-12	2	1
31	2	12区	SD	13・14		弥生土器	深鉢	口縁端部直下の突帯に刻み目を施される。外面には工具によるナデ調整。写真180。	102	R-12	1	1
31	3	12区	SD	13・14		弥生土器	深鉢	口唇部に接して垂れさがった粘土帯の下端部位に刻み目を施される。内外面ともに磨滅。写真181。	103	R-12	2	1
31	4	12区	SD	13・14		弥生土器	深鉢	頸部と胴部との境には段が見られる。外面には工具によるナデ調整。写真182。	104	R-12	2	1
31	5	12区	SD	13・14		弥生土器	浅鉢	逆「く」の字状の口縁部片。口縁部の立ち上がりは短い。内外面ともに磨滅。写真183。	105	R-12	1	1
31	6	12区	SD	13・14		弥生土器	浅鉢	浅鉢の肩部片と考えられる。屈曲部には沈線が１条巡る。外面は磨滅。内面はミガキ調整。	106	R-12	1	1
31	7	12区	SD	13・14		弥生土器	壺	上げ底の底部片。内外面ともにナデ調整。	107	R-12	1	1
31	8	12区	SD	13・14		弥生土器	壺	上げ底の底部片。内外面ともにナデ調整。	108	R-12	2	1
31	9	12区	SD	13・14		弥生土器	浅鉢	平底の底部片。外面磨滅。内面ナデ調整。	110	R-12	2	1
31	10	12区	SD	13・14		弥生土器	浅鉢	平底の底部片。内外面ともにナデ調整。	111	R-12	1	1
31	11	12区	SD	13・14		弥生土器	壺	底部中央には線刻による木の葉文を施される。写真185。	112	R-12	2	1
32	12	10区	Ⅲ層			弥生土器	壺	口縁部片。外面磨滅。内面はナデ調整が施され、工具の押し当て痕跡が見られる。	113	R-3・4	1	1
32	13	11区	SD	3		弥生土器	壺	肩部片。内外面ともに磨滅。	114	R-10	1	1
32	14	13区	Ⅲ層			弥生土器	浅鉢	浅鉢の口縁部片。口縁部は短く直立気味に立ち上がる。外面は磨滅。内面はミガキ調整。写真184。	115	R-23	1	1
33	15	12区	SD	13・14		石器	台石・磨石	砂岩。上面、側面に使用痕が見られる。長さ21cm、幅12.6cm、厚さ9.5cm。重量3860ｇ。写真186。	117	R-12	3	2
33	16	12区	SD	13・14		石器	磨石	砂岩。長さ5.4cm、幅5.1cm、厚さ3.6cm。重量138.4ｇ。写真187。	118	R-12	3	1
33	17	13区	Ⅲ層		上部	石器	砥石	砂岩。長さ7.1cm、幅10.6cm、厚さ4.2cm。重量26.98ｇ。写真188。	119	R-21	5	1
34	18	８区	Ⅲ層		調査区南側	石器	石庖丁	石庖丁の未成品。緑色片岩。全長11.5cm、幅4.9cm、厚さ1.05cm。重量91ｇ。写真189。	120	R-1	4	1
34	19	８区	Ⅲ層		調査区南側	石器	石片	緑色片岩の石片。長さ6.2cm、幅5.5cm、厚さ１cm。重量50.7ｇ。写真190。	121	R-1	4	1
34	20	12区	Ⅲ層			石器	石片	緑色片岩の石片。長さ８cm、幅5.8cm、厚さ0.5cm。重量34.5ｇ。写真191。	122	R-13	4	1
34	21	14区	Ⅲ層			石器	石片	緑色片岩の石片。長さ7.5cm、幅3.95cm、厚さ0.6cm。重量26.4ｇ。写真192。	123	R-19	4	1
35	22	12区	Ⅲ層			石器	スクレイパー	サヌカイト。上辺と両側を折断。長さ4.0cm、幅3.6cm、厚さ0.85cm。重量18.1ｇ。写真193。	124	R-19	4	1
35	23	12区	Ⅲ層			石器	剥片	サヌカイト。長さ3.2cm、幅1.7cm、厚さ0.3cm。重量2.8ｇ。	125	R-13	5	1
35	24	13区	Ⅲ層		上部	石器	残核	サヌカイト。長さ2.55cm、幅1.8cm、厚さ0.85cm。重量5.9ｇ。写真196。	126	R-21	5	1
35	25	13区	Ⅲ層			石器	剥片	サヌカイト。長さ5.1cm、幅2.6cm、厚さ0.6cm。重量9.0ｇ。写真194。	127	R-22	5	1
35	26	15区	Ⅲ層			石器	剥片	サヌカイト。長さ2.3cm、幅2.2cm、厚さ0.4cm。重量3.0ｇ。写真195。	128	R-15	5	1

基である。主な出土遺物は、縄文土器、弥生土器、石庖丁の未成品、砥石、サヌカイトの打製石器剥片や緑色片岩片がある。

今回の調査と00208 調査の結果から、山越団地中央部から北東部における遺跡の分布状況を、以下のように推定できる。

まず、今回の調査で確認できたⅣ層や00208 調査２・４・７・８トレンチで確認された⑤層は、縄文時代晩期中頃以前の河川堆積層である。これらは山越団地全体に広がっていると考えられる。このⅣ層あるいは⑤層の上層に堆積するのが、Ⅲ層や00208 調査④層（湿地堆積物層）である。01212 調査１～４トレンチでも、Ⅲ層に対応する可能性がある黒褐色シルト～細砂層を確認できている。Ⅲ層は団地中央から東側に広がっている可能性が高い。00208 調査④層は７・８トレンチ、99205 調査１トレンチでも確認されている。④層中からは縄文時代晩期の遺物が出土し、今回の調査で出土したSD-13・14 から同時期の遺物が出土している。Ⅱ区中央部を中心として縄文時代晩期後半前後には、それ以前の活発な自然堆積作用が停滞して湿地化した後、弥生時代前期初頭の溝２条、縄文時代晩期～古代の溝４条、自然河川１条、小穴５基が営まれる。

またⅡ区南部の15区を中心として大きな谷部がのびており、活発な自然堆積作用が停滞した後、縄文時代～古代にⅢ層の一部が水田として利用されていた可能

写真148　01307調査　１区完掘状況（東から）

写真149　01307調査　１区西壁土層（東から）

写真150　01307調査　２区完掘状況（西から）

写真151　01307調査　２区南壁土層（北から）

写真152　01307調査　２区南壁土層（北から）

写真153　01307調査　２区南壁土層（北から）

写真154　01307調査　３区完掘状況（西から）

写真155　01307調査　３区南壁土層（北から）

写真156　01307調査　４区完掘状況（東から）

写真157　01307調査　５区完掘状況（東から）

写真158　01307調査　６区西壁土層（南東から）

写真159　01307調査　７区西壁土層（北東から）

写真160　01307調査　８区完掘状況（南東から）

写真161　01307調査　８区Ⅲ層中遺物出土状況

写真162　01307調査　９区完掘状況（東から）

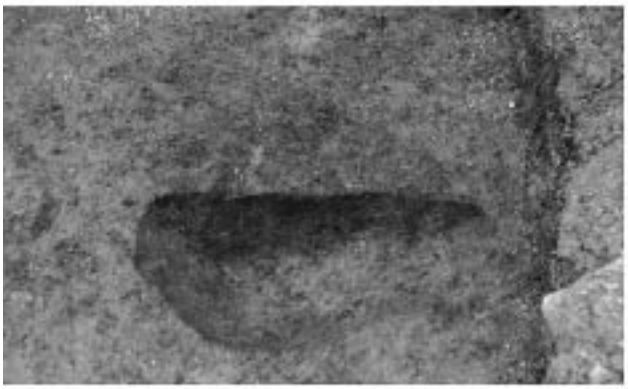


写真163　01307調査　10区SP-１土層断面（東から）

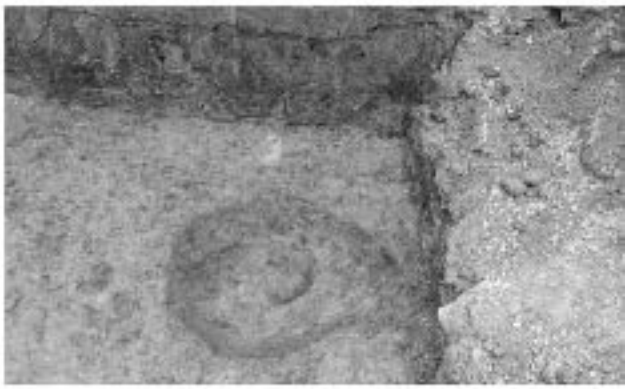


写真164　01307調査　10区SP-１完掘状況（東から）

写真165　01307調査　10区完掘状況（南東から）

写真166　01307調査　11区完掘状況（南東から）

写真167　01307調査　11区完掘状況（北東から）

写真168　01307調査　12区完掘状況（南東から）

写真169　01307調査　12区完掘状況（北から）

写真170　01307調査　12区SD-13・14完掘状況（東から）

写真171　01307調査　13区完掘状況（南東から）

写真172　01307調査　14区完掘状況（南東から）

写真173　01307調査　15区南部完掘状況（南東から）

写真174　01307調査　15区北部完掘状況（南東から）

写真175　01307調査　16区完掘状況（北東から）

写真176　01307調査　17区完掘状況（南から）

写真177　01307調査　17区北部完掘状況（南東から）

写真178　01307調査　17区南端部完掘状況（南東から）

写真179　SD-13・14
（図31-1）

写真180　SD-13・14
（図31-2）

写真181　SD-13・14
（図31-3）

写真182　SD-13・14（図31-4）

写真183　SD-13・14（図31-5）　　写真184　13区Ⅲ層（図31-6）

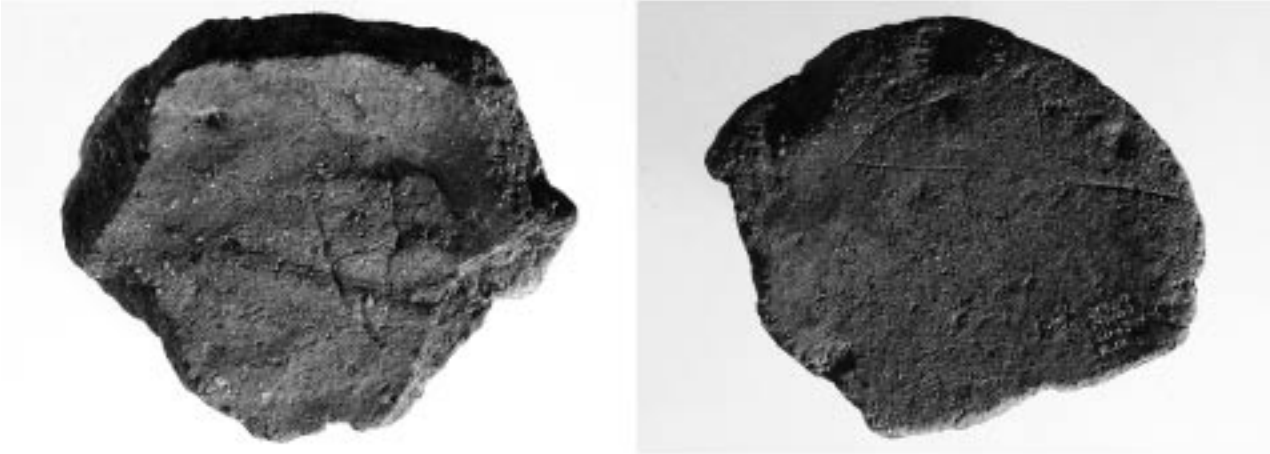


写真185　SD-13・14（図31-11）

写真186　SD-13・14（図33-15）

写真187　SD-13・14（図33-16）

写真188　13区Ⅲ層（図33-17）

写真189　８区Ⅲ層（図34-18）

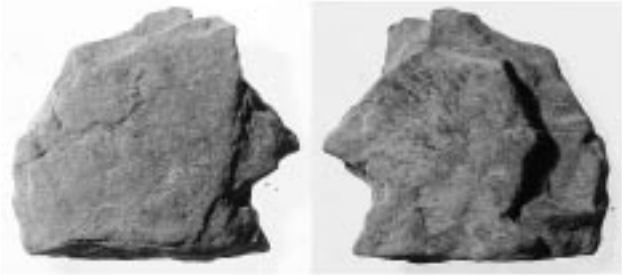


写真190　８区Ⅲ層（図34-19）　　写真191　12区Ⅲ層（図34-20）

写真192　14区Ⅲ層（図34-21）　　写真193　12区Ⅲ層（図35-22）

写真194　13区Ⅲ層（図35-25）　　写真195　15区Ⅲ層（図35-26）　　写真196　13区Ⅲ層（図35-24）

性も考えられる。

一方、団地北部のⅠ区やⅡ区北部では自然河道によって形成された谷部がのびる。出土遺物はないが、層序関係から00208調査で出土した自然河川③層に対応していると考えられる。自然河川③層から８世紀前半に比定できる須恵器が出土している。00208 調査③層は１～４トレンチでも確認しており、今回の調査所見を加えると、山越団地北側から南東部にかけて古代以降の自然河道がのびていると推定できる。

山越団地では、これまで実施されてきた調査が小規模なため、全体像は明らかでなかった。今回の調査によって少なくとも団地の中央部分に縄文時代晩期後半～古代の遺構が存在することを確認できた。

なお、本調査結果や既往の調査成果に基づき、山越団地の一部が、平成26年９月９日付で周知の埋蔵文化財包蔵地である山越遺跡となった。　（三吉）

01308 （城北団地）自家発電設備工事に伴う調査（文京遺跡56次調査）

調 査 地 点　松山市文京町３　城北団地内
調 査 面 積　6.4㎡
調 査 期 間　2014年１月６日
調査の種別　本格調査
調 査 担 当　三吉秀充
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
（平成25年10月10日付）

１　はじめに

2013年３月、施設基盤部から城北団地南東部にある生物環境試料バンク建物の南西部に自家発電設備工事計画があることが示された。同年10月、具体的な工事計画が提示された。工事計画は以下の通りである。

工事Ａ：非常用発電機設置に伴う掘削工事（現地表下20cmまでの掘削）
工事Ｂ：非常用発電機設置に伴う掘削工事（現地表下40cmまでの掘削）
工事Ｃ：フェンス設置に伴う掘削工事（現地表下30cmまでの掘削）

埋蔵文化財調査室では、周辺の調査成果に基づき意見書を作成し、平成25年10月21日付で松山市教育委員会を通じて、愛媛県教育委員会へ土木工事等届出書を提出した。10月30日付で愛媛県教育委員会より、非常用発電機設置部分を中心とした工事地点の南部については発掘調査、その他については工事立会を実施するようにとの指示があった（図36）。これを承けて、11月14日付で発掘調査届け等の手続きを行った後、同年11月25日付で愛媛県教育委員会より届出受理の通知があった。日程調整を行い、2014年１月６日に発掘調査を実施することとなった。

本報告は、発掘調査の正式報告である。

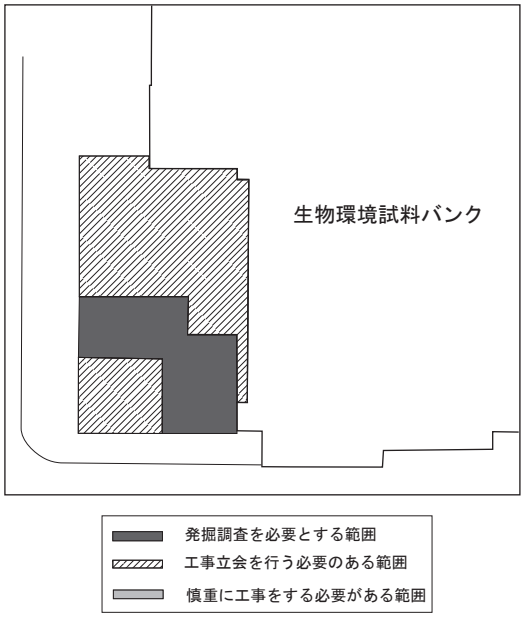


図36　01308調査（文京遺跡56次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲

２　調査の記録（図37・写真197～200）

発掘調査は、１区と２区の２地点で行った。

１区は発掘調査指示地点の一部に設けた調査区である。現地表下37cm、標高29.03mまで重機を用いて掘り下げを行い、表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

２区は建物に接する地点に設けた調査区である。土木工事届出の指示では、工事立会地点に含まれる。現地表下67cm、標高28.68mまで重機を用いて掘り下げを行った。表土層であるⅠ層が続いていることを確認した。

調査地点周辺の状況を見ると、 調査地点の東側で実施した00501調査では、現地表（道路面）から45cm、

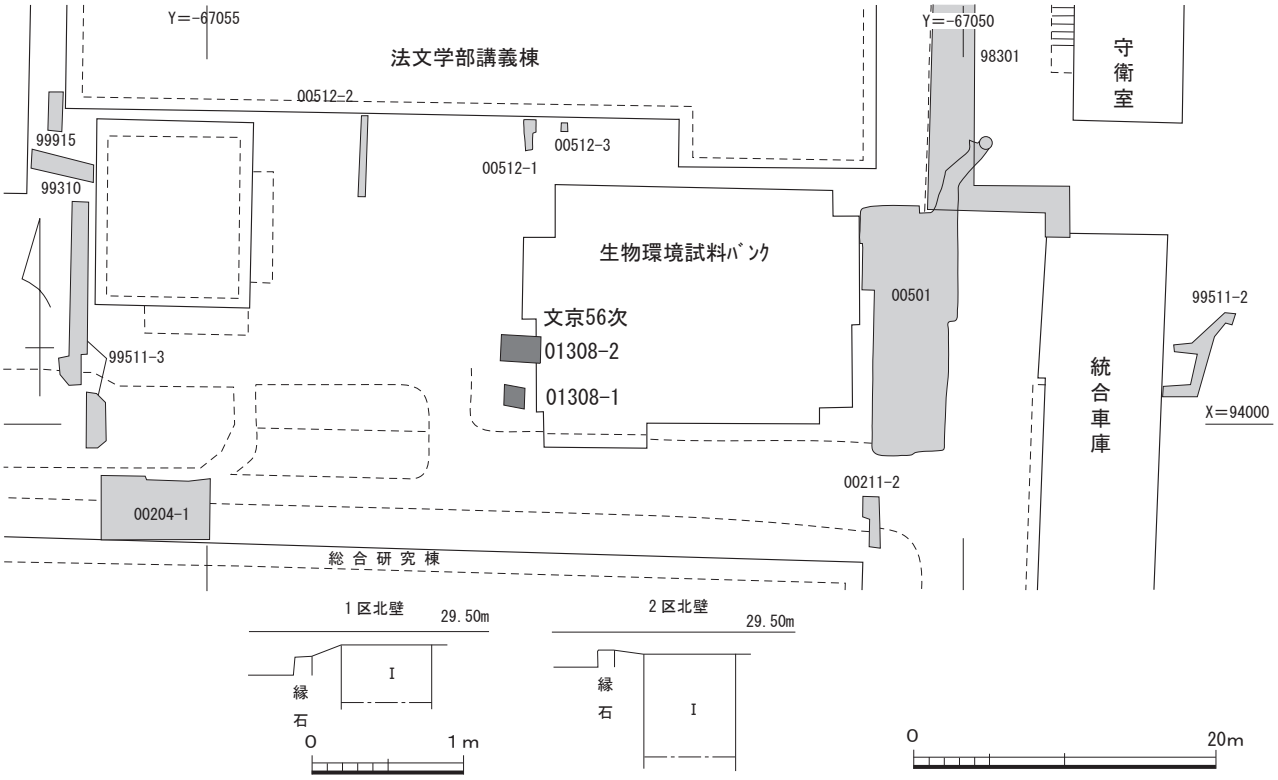


図37　01308調査（文京遺跡56次）調査位置図（縮尺1/500）、土層柱状図（縮尺1/50）

写真197　01308調査　調査地点全景（南西から）

写真198　01308調査　調査地点全景（南から）

写真199　01308調査　１区完掘状況（南から）

写真200　01308調査　２区完掘状況（南から）

標高28.85ｍで弥生時代中期後葉～古墳時代の竪穴建物跡や土壙が出土している。調査地点の北側で実施した00512調査１トレンチでは、現地表下65㎝、標高28.45ｍで弥生時代～古墳時代の遺物包含層であるⅢ層が出土している。同２トレンチでは、現地表下45㎝、標高28.46ｍでⅢ層が出土している。今回の調査では、表土層であるⅠ層を確認しただけであるが、Ⅰ層の下部にはⅢ層が残されているものと判断できる。

３　まとめ

本調査では､埋蔵文化財への直接的な影響が及ばず、工事に伴う掘削面と埋蔵文化財との間に20㎝以上の土層があることを確認できたことから、以下に関しては、現状保存することとした。今後、本調査区内および周辺において現地表下65㎝以上の掘削を伴う工事では、発掘調査等の対応が必要である。　　（三吉）

01309　（城北団地）総合研究棟（理学系）等環境整備（植栽等）工事に伴う発掘調査（文京遺跡57次調査）

調 査 地 点　松山市文京町２番、３番　城北団地内
調 査 面 積　61.4㎡
調 査 期 間　2014年１月27日、３月10日
調査の種別　本格調査
調 査 担 当　柴田昌児・三吉秀充
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
（平成25年11月20日付）

１　はじめに

（１）調査に至る経緯

2012年11月、施設基盤部から城北団地理学部構内および法文学部２号館周辺における環境整備工事を計画中であるとの報告があった。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で、埋蔵文化財への影響を少なくするための協議を行い、工事計画を修正した後、平成25年11月20日付で正式な工事依頼があった。それを承けて11月22日付で意見書を作成し、11月28日付で土木工事等届出書を提出した。12月16日付で愛媛県教育委員会より発掘調査及び愛媛大学埋蔵文化財調査室による工事立会の指示があった（図38）。工事着手前の発掘調査指示を受けて、同年12月27日付で埋蔵文化財発掘調査届出書を提出し、平成26年１月14日付で、愛媛県教育委員会より発掘調査に係わる届出について受理したとの通知があった。

（２）工事の概要と調査

工事に伴う調査は理学部構内（文京町２番）と法文学部２号館周辺（文京町３番）の２地区で実施した。理学部構内では、①バーコラ基礎工事、②掲示板基礎工事、③ベンチ基礎工事、④石積基礎工事が計画されていた。いずれも工事立会の指示であり、2013年２月

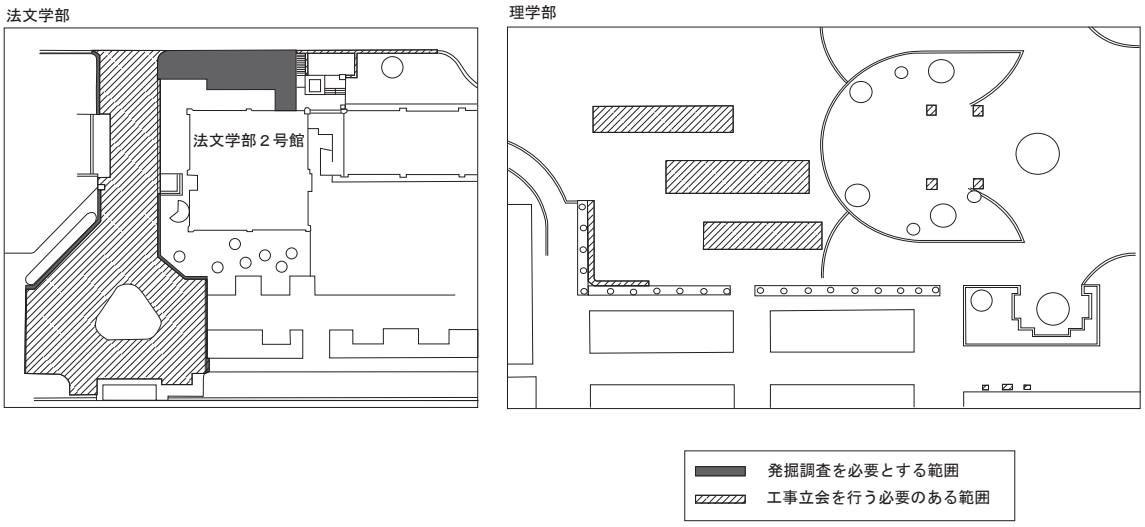
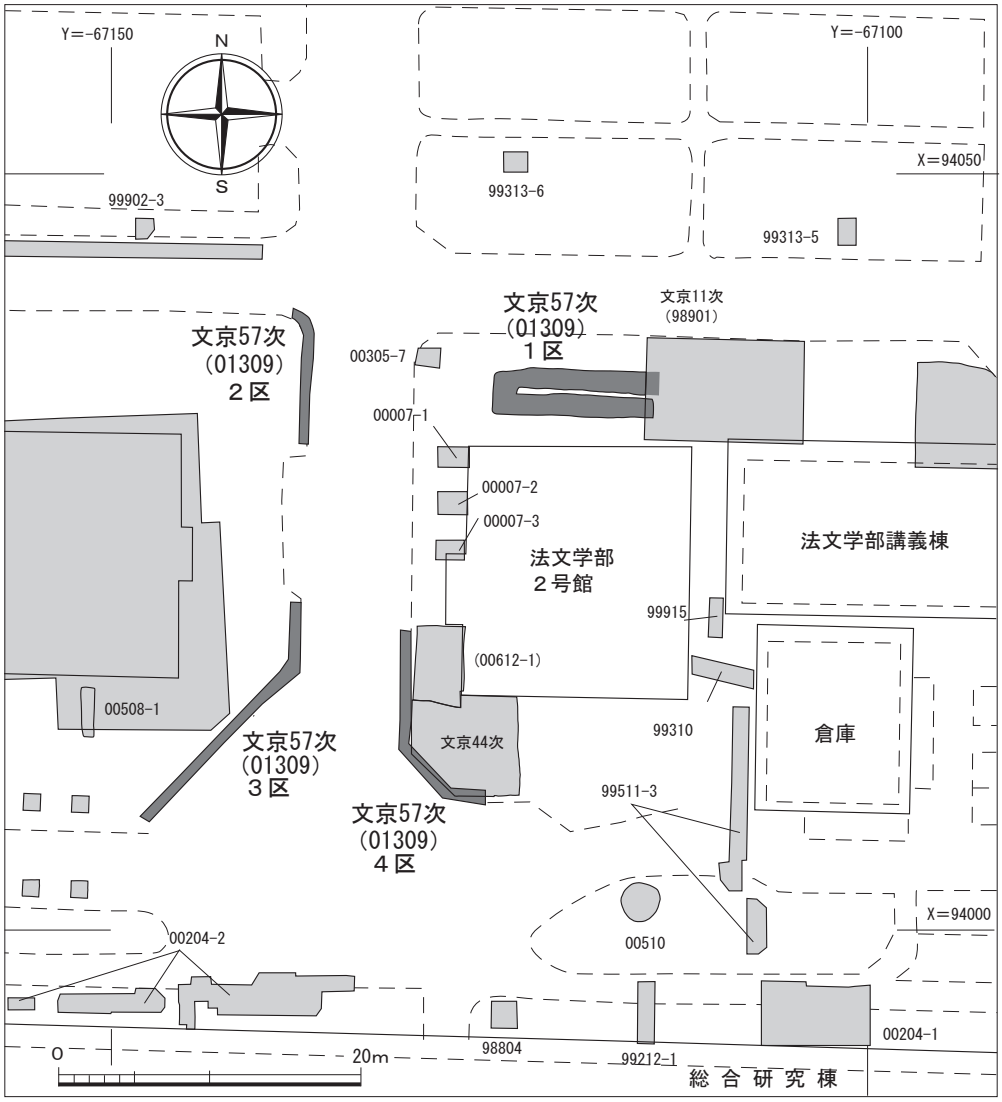


図38　01309調査（文京遺跡57次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲



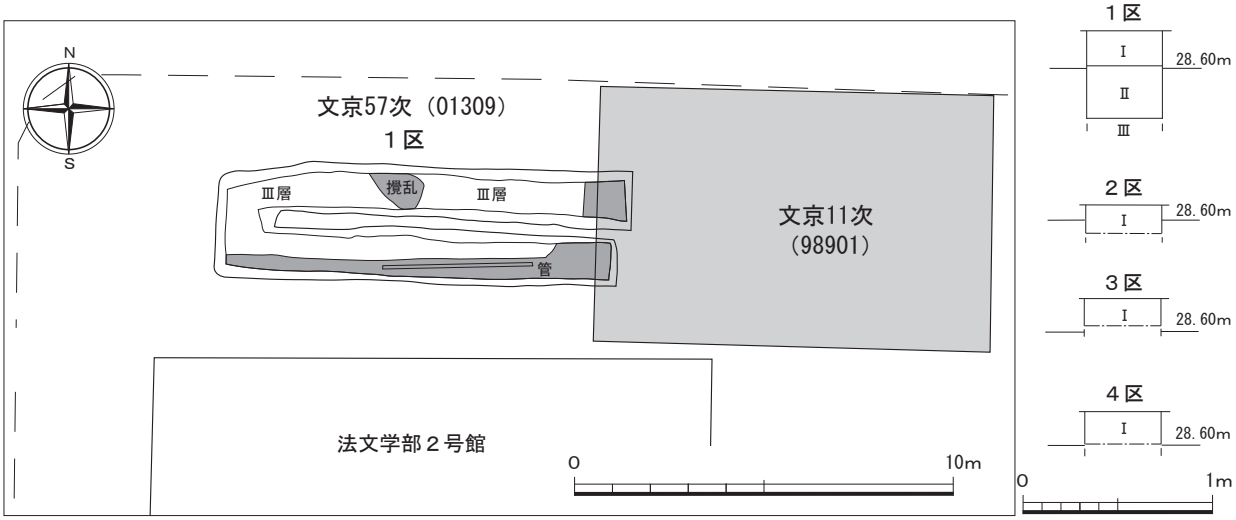


図39　01309調査（文京遺跡57次）調査地点位置図（縮尺1/500）、１区平面図（縮尺1/200）、土層柱状図（縮尺1/40）

写真201　01309調査　１区完掘状況（南西から）

写真202　01309調査　１区完掘状況（北東から）

写真203　01309調査　１区完掘状況（西から）

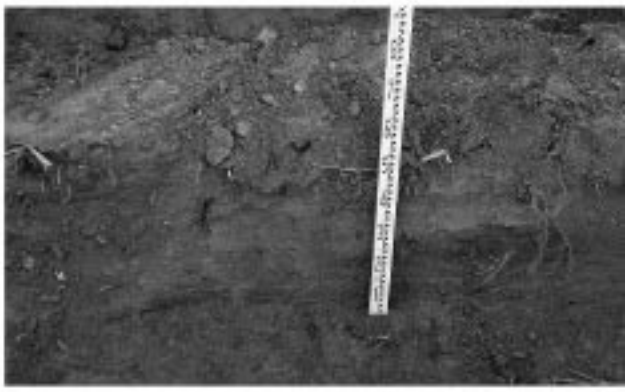


写真204　01309調査　１区土層（北から）

写真205　01309調査　２区完掘状況（北から）

写真206　01309調査　３区完掘状況（北から）

写真207　01309調査　４区完掘状況（北西から）

写真208　01309調査　４区完掘状況（南西から）

写真209　01309調査　法文学部２号館北側工事地点（北西から）

写真210　01309調査　法文学部２号館北側工事地点土層（北から）

写真211　01309調査　法文学部講義棟北側工事立会（西から）

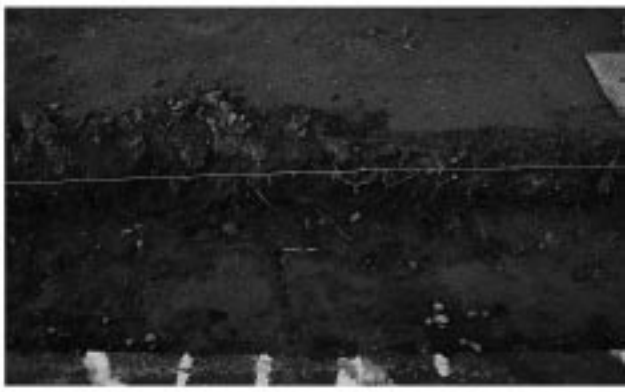


写真212　01309調査　法文学部講義棟北側工事立会土層（北から）

写真213　01309調査　理学部構内工事立会地点遠景（北から）

写真214　01309調査　理学部工事立会（東から）

写真215　01309調査　理学部工事立会（東から）

写真216　01309調査　理学部工事立会（東から）

７日、10日に実施し、基本層序Ⅰ層内におさまっていることを確認できた（写真213～216）。

法文学部２号館周辺では、①スロープ・花壇撤去工事（再掘削）、②掲示板撤去工事（再掘削）、③外部床タイル工事（再掘削）、④L型側溝撤去工事（再掘削）、⑤インターロッキングブロック舗装撤去工事(再掘削)、⑥アスファルト舗装撤去工事(再掘削)、⑦１号縁石取設工事、⑧２号縁石取設工事、⑨１号自由勾配側溝工事、⑩２号自由勾配側溝工事、⑪１号集水桝工事、⑫インターロッキング舗装工事、⑬縁石工事、⑭スロープ工事が計画されていた。①～⑥は既設構造物の撤去に伴う工事であり、⑦～⑭は新規の工事となる。

愛媛県教育委員会からの指示は、発掘調査：④の一部、⑦、⑬、⑭、工事立会：④の一部、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫である。工事立会については、2014年１月27日、３月10日に実施した（写真209～212）。発掘調査指示地点の内、⑦⑭は１区として１月27日、⑬は２～４区として３月10日に実施した。発掘調査地点の内、④の一部については、既存構造物の撤去が行われた３月10日に、土層の精査を行い、基本層序Ⅰ・Ⅱ層内におさまっていることを確認し、写真による記録化を行った。以上を踏まえて、以下の報告では１区～４区の調査記録を中心として正式報告を行う。

２　調査の記録（図39）

１区は法文学部２号館前に設けた逆「コ」の字状の調査区である（写真201～203）。東側は文京遺跡11次調査に接する。現地表下46cmまで掘り下げを行い、基本層序Ⅲ層を検出した（写真204）。調査区全面を精査し、調査区内の北側の一部、調査区東側、調査区南側ではⅢ層がすでに破壊されていることを確認した。工事に必要な掘削深度は、現地表下40cmまでであることから、埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で協議を行い、Ⅲ層以下については現状保存することとした。

２区は法文学部２号館北西部に設けた調査区である（写真205）。アスファルト除去後、現地表下15cmまで掘り下げを行い、基本層序Ⅰ層が続いていることを確認した。以下の埋蔵文化財への影響はないことから埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で協議を行い、現状保存することとした。

３区は法文学部本館南東部に設けた調査区である（写真206）。アスファルト除去後、現地表下14cmまで掘り下げを行い、基本層序Ⅰ層が続いていることを確認した。以下の埋蔵文化財への影響はないことから、現状保存することとした。

４区は法文学部２号館南西部に設けた調査区である（写真207・208）。アスファルト除去後、現地表下17cmまで掘り下げを行い、基本層序Ⅰ層が続いていることを確認した。以下の埋蔵文化財への影響はないことから現状保存することとした。

３　まとめ

今回の調査では、１区では攪乱部分を除いて、調査区全面にⅢ層が広がっていることを確認した。隣接する文京遺跡11次調査では、弥生時代中期から後期の遺構・遺物が出土しており、同時期の遺構が広がっていると想定できる。２～４区については、縁石設置工事に伴う小範囲での調査となることから、埋蔵文化財への直接的な影響がないことを確認した上で、現状保存することとした。よって将来１～４区およびその周辺において深度が深い掘削を伴う土木工事を行う際には、発掘調査を行う必要がある。　（三吉）

01310　（樽味団地・持田団地）基幹・環境整備（給水設備）工事に伴う調査（持田遺跡９次調査）

調査地点　松山市樽味三丁目305番　樽味団地内および松山市持田町一丁目860番　持田団地内
調査面積　153㎡
調査期間　2014年２月21日
調査の種別　本格調査
調査担当　柴田昌児・三吉秀充
依頼文書　施設基盤部長発事務連絡（平成25年12月13日付）

１　はじめに

2013年12月、施設基盤部から樽味団地内および持田団地内において給水設備工事を予定しているとの報告があった。同年12月13日付で正式な依頼があり、埋蔵文化財調査室で意見書を作成し、平成25年12月25日付で土木工事等届出書を提出した。平成26年１月22日付で愛媛県教育委員会から図40の指示があった。持田団地では附属幼稚園プール西側のろ過器置場工事および

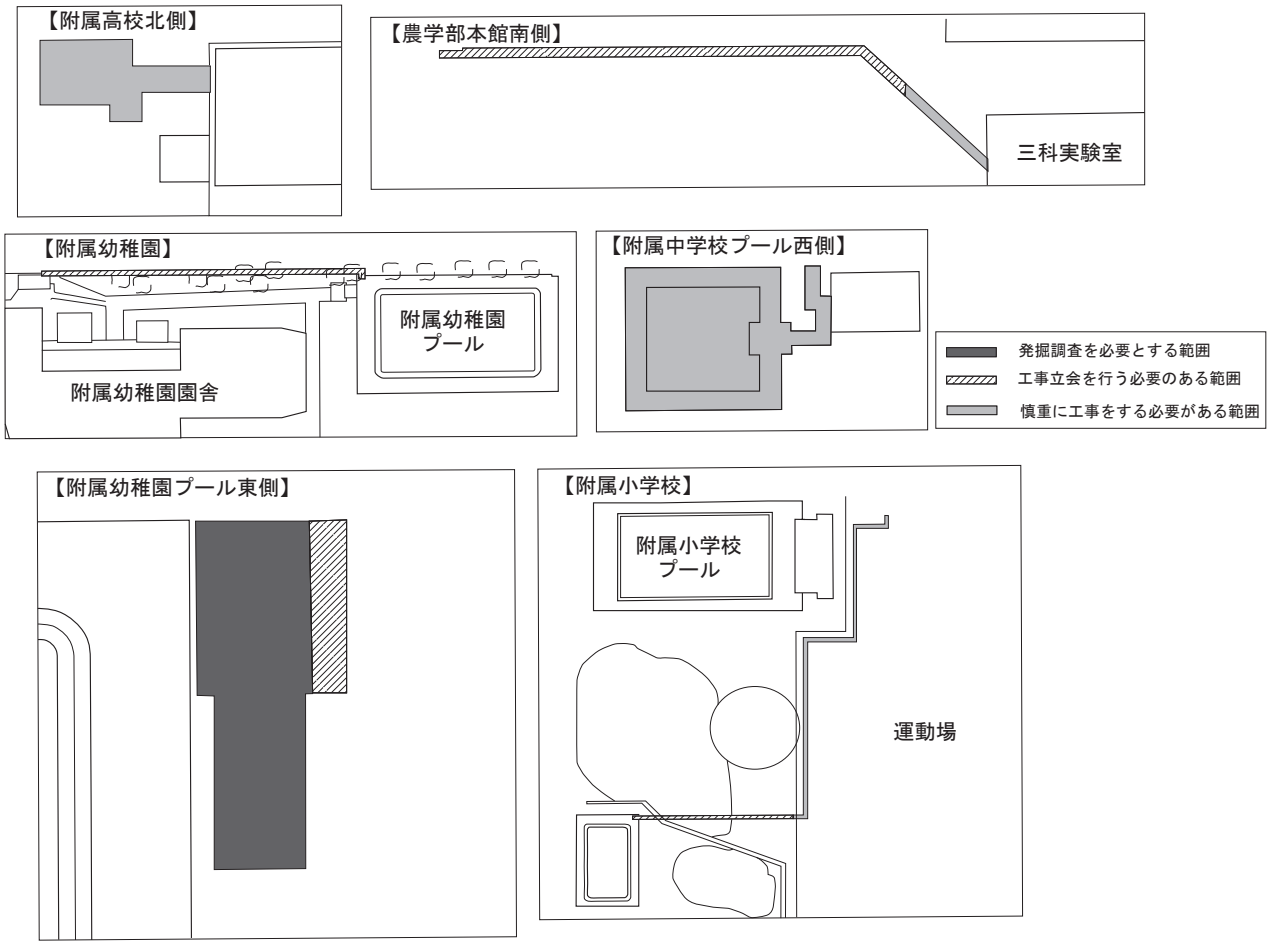


図40　01310調査（持田遺跡９次）愛媛県教育委員会による指示の調査範囲

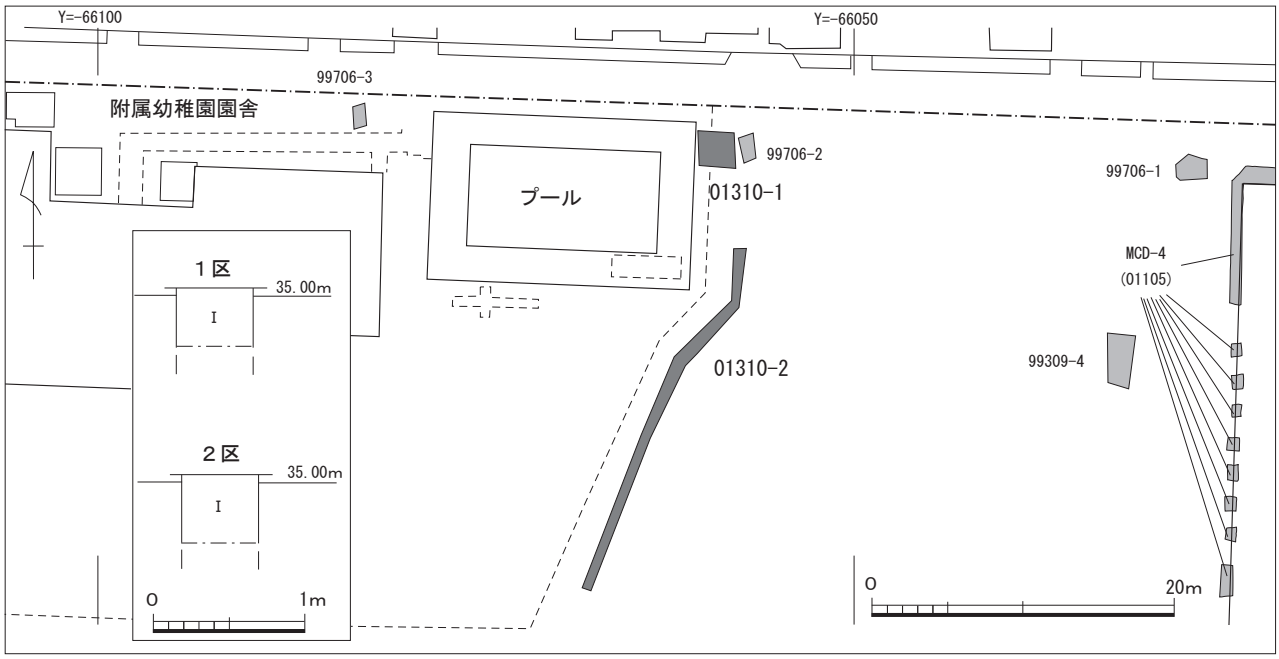


図41　01310調査（持田遺跡９次）調査地点位置図（縮尺1/500）、土層柱状図（縮尺1/50）

写真217　01310調査　１区完掘状況（南東から）

写真218　01310調査　１区北壁土層（南から）

写真219　01310調査　２区工事立会（南から）

写真220　01310調査　２区北端部土層（南から）

写真221　01310調査　樽味団地工事立会（西から）

写真222　01310調査　樽味団地工事立会（東から）

その南側の給水管工事地点について発掘調査、園舎北側における配管設置工事および園舎南東部の給水管設置工事部分については工事立会の指示があった。樽味団地では、農学部本館南側の管路工事部分について工事立会の指示があり、１月31日に実施した（写真221・222）。愛媛県教育委員会の指示に基づいて、平成26年２月４日付で埋蔵文化財発掘調査届出書を提出し、同年２月10日付で発掘調査に係る届出を受理したとの通知があった。これを受けて発掘調査の準備に入り、２月21日に持田団地における発掘調査と工事立会を行った。

２　調査の記録

愛媛県教育委員会の指示による発掘調査範囲は、持田団地内北部、附属幼稚園プールの東側のみであったが、工事立会の指示範囲にあたる園舎南東側の給水管工事も同時に行うことなったことから、前者を１区、後者を２区として調査を行った。

１区は、重機を用いて現地表下39㎝、標高34.665ｍまで掘り下げを行い、表土層である持田団地内基本層序Ⅰ層が続いていることを確認した（図41、写真217・218）。工事による掘削深度は、以下に及ばないことから、現状保存するとした。

２区は、重機を用いて現地表下48.6㎝、標高34.565ｍまで掘り下げを行い、表土層であるⅠ層内におさまっていることを確認した（図41、写真219・220）。

３　まとめ

持田団地では、団地北側に古代～中世の水田を始めとする持田遺跡が広がる。今回の調査は、調査区も狭く、水田を面的に調査できないことから、埋蔵文化財への影響が及ばないことを確認した上でⅠ層までの掘り下げに止め、以下については現状保存することとした。今後本調査区を含めた周辺における土木工事において、埋蔵文化財へ影響が及ぶ工事を行う際には、発掘調査や工事立会などの対応が必要である。（三吉）

01311　（城北団地）城北事務センター１（生協売店部分）における埋蔵文化財試掘調査

調 査 地 点　松山市文京町３番　城北団地内
調 査 面 積　1.5㎡
調 査 期 間　2014年３月７日
調査の種別　試掘調査
調 査 担 当　柴田昌児・三吉秀充
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
（平成26年３月３日付）

１　調査に至る経緯

2014年２月、施設基盤部から城北事務センター１（現在、大学生協売店部分）改修を計画しており、７月上旬以降に工事に着手したいとの連絡があった。同時に、改修工事計画を策定中であるが、既存建物の柱基礎データがないため、埋蔵文化財調査室で試掘調査を実施してもらいたいとの依頼があった。埋蔵文化財調査室と施設基盤部との間で日程調整を行い、2014年３月７日に試掘調査を行った。

２　調査の記録（図42、写真223・224）

試掘調査は、城北事務センター北西部の柱基礎周辺に調査区を設け、重機を用いて現地表下133㎝まで掘り下げを行った。

調査では現地表下33㎝まで表土層であるⅠ層が続き、直下でⅡ層が出土している。Ⅱ層は現地表下70～73㎝まで続き、Ⅱ-１～５層を確認できている。水田層の耕作土層あるいは床土層であるが、畦畔は確認できていない。遺物が出土しておらず、詳細な時期は不明である。

Ⅱ層直下でⅢ層が出土している。Ⅲ層は、現地表下91～97㎝まで続く。Ⅲ層はⅢ-１層とⅢ-２層からなり、Ⅲ-１層、Ⅲ-２層ともに灰黄褐色で円礫などを含んでいる。遺物は出土していない。

Ⅲ層の直下でⅣ層が出土している。Ⅳ層はいずれも砂質が強く、遺構や遺物などは出土していない。

写真223　01311調査　１区完掘状況（東から）

写真224　01311調査　１区東壁土層（西から）

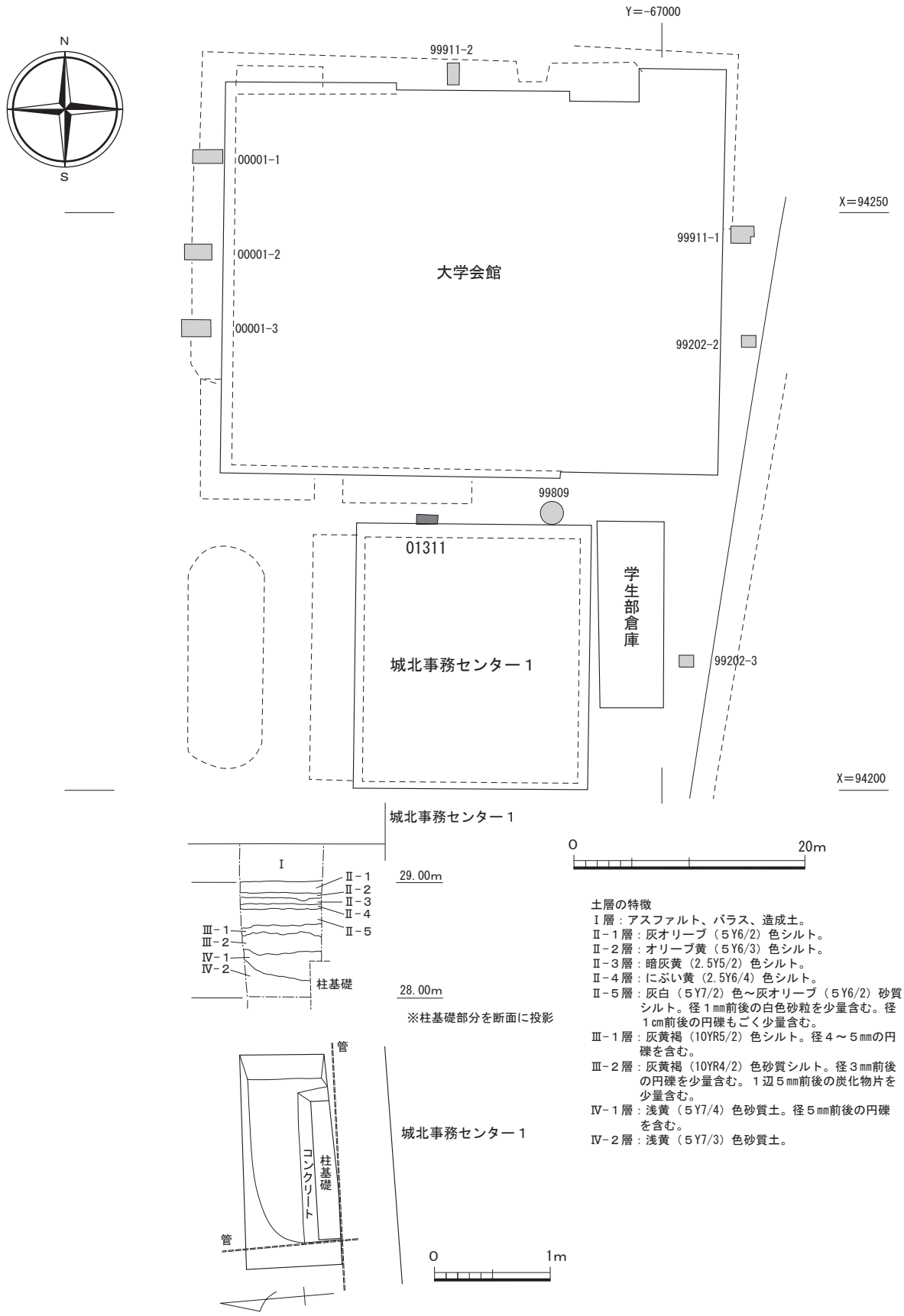


図42　01311調査調査地点位置図（縮尺1/500）、調査区平面図および土層図（縮尺1/50）

3　まとめ

今回の試掘調査で、以下の点を確認できた。

①柱基礎部分の余掘りはほとんどなく、柱基礎の外側に、幅10cm前後のコンクリートが広がっている。

②現地表下70～73cmでⅢ層が出土している。このⅢ層は、色調がうすく、土器などの遺物を含んでおらず城北団地の南西部で確認している弥生時代～古墳時代の暗褐色系のシルト層とは少し異なる。小範囲の調査区であり、遺構のたちあがりなどを確認できていないが、理学部構内における調査や文京遺跡40次調査などで確認されている中世以前の自然河川の堆積土の一部と考えられる。

③Ⅱ層については、出土遺物がないことから近世・近代以前の水田層であり、その上限については明らかにできない。

以上から、城北事務センター１の改修工事に当たって既存の柱基礎部分から外側に掘削がおよぶ場合は、発掘調査が必要となる。また、城北事務センター１周辺では、現地表下70～73cmでⅢ層が出土することから、これより掘削深度が深くなる工事については、発掘調査が必要となる。　（三吉）

01312　（樽味団地）ユーカリ会館等改修工事に伴う立会調査

調 査 地 点　松山市樽味三丁目305番　樽味団地内
調 査 面 積　25㎡
調 査 期 間　2013年12月20日
調査の種別　立会調査
調 査 担 当　田崎博之・三吉秀充
依 頼 文 書　施設基盤部長発事務連絡
（平成25年９月９日付）

1　はじめに

2013年３月中旬、施設基盤部との協議の中で、2013年度樽味団地内附属高校、ユーカリ会館の耐震改修工事計画を作成中であるとの報告がなされた。愛媛大学埋蔵文化財調査室では、余掘り範囲の確定と埋蔵文化財の分布状況の確認を目的として、６月上旬に試掘調査（01302調査）を実施し、平成25年６月21日付で施設基盤部に試掘調査結果を報告した。９月下旬、施設基盤部よりユーカリ会館等改修工事計画の提示があり、埋蔵文化財調査室では試掘調査成果に基づいた意見書を作成し、平成25年９月27日付で愛媛県教育委員会へ土木工事等届出書を提出した。同年10月10日付で愛媛県教育委員会から、工事に対して「埋蔵文化財への影響がないよう慎重に工事を実施すること」との指示があった。

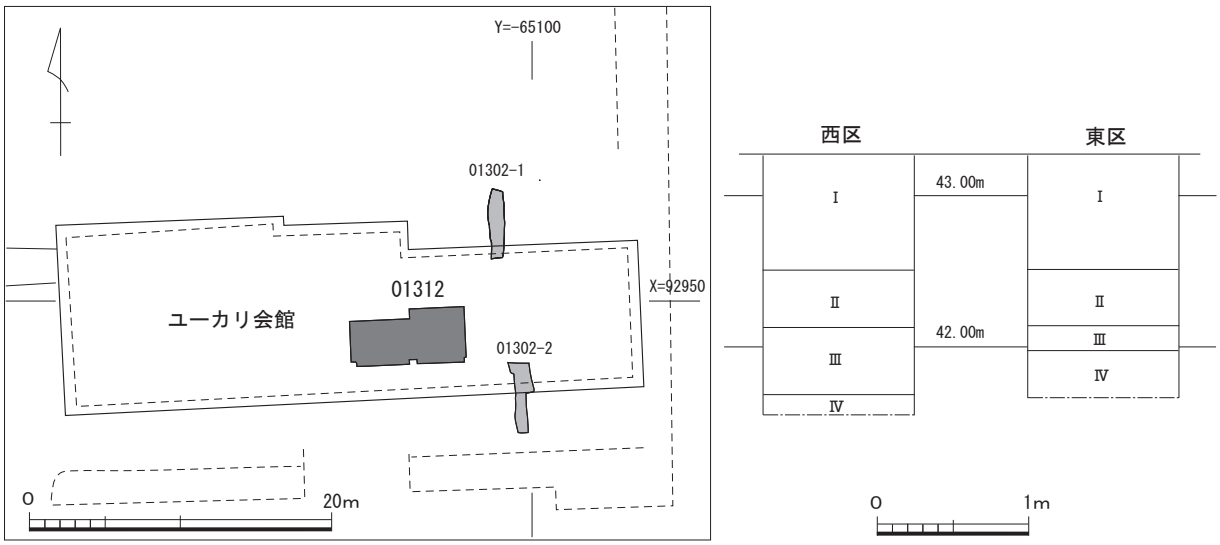


図43　01312調査調査地点位置図（縮尺1/500）、土層柱状図（縮尺1/50）

写真225　01312調査　西区（南西から）

写真226　01312調査　西区北壁土層（南西から）

写真227　01312調査　東区全景（北東から）

写真228　01312調査　東区北壁土層（南から）

２　調査の記録（図43）

本体工事部分の便所工事地点は、計画段階では埋蔵文化財が既存建物の建設時に破壊されていると想定していた。しかし既存建物工事の記録類だけでは判断できないことから、埋蔵文化財調査室では施設基盤部と協議の上で、工事掘削が深くなる地点では工事立会を実施することとした。その結果、便所工事地点で樽味遺跡基本層序Ⅲ層を確認した。土層断面の観察では、Ⅲ層下面には凹凸が見られなかったころから、遺構ではなく遺物包含層と判断した。

西区（写真225・226）では土間面（標高約43.27m）から約70m（約42.57m）までⅠ・Ⅱ層が続き、直下でⅢ層を確認した。Ⅲ層は土間面から約115㎝（標高約42.12m）まで続き、直下でⅣ層を確認した。以下、同面から170㎝（標高約41.57m）まで掘り下げを行い、Ⅳ層が続くことを確認した。東区（写真227・228）では土間面（標高約43.27m）から120㎝（約42.07m）までⅠ・Ⅱ層が続き直下でⅢ層を確認した。Ⅲ層は土間面から約130㎝（標高約41.97m）まで続き、直下でⅣ層を確認した。以下、土間面から160㎝（標高約41.67m）まで掘り下げを行い、Ⅳ層が続いていることを確認した。なお調査では遺物は出土しなかった。

３　まとめ

当初、本工事地点内では埋蔵文化財への直接的な影響はないと想定していたが、埋蔵文化財へ影響を与えることとなった。６月上旬に実施したユーカリ会館北側における試掘調査１トレンチでは、Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ層が出土したが、Ⅲ層は出土していなかった。１トレンチ内では42.25m前後でⅣ層を確認しており、後世の耕作などによってⅢ層が破壊されたものと考えられる。本調査で確認できたⅢ層は、後世の耕作が及ばなかったためⅢ層が残存したと考えられる。このように調査地周辺では、Ⅲ層が残存している地点もあることが想定される。今後も可能な限り工事立会などを実施して、遺跡保護に努める必要がある。　（三吉）

報　告　書　抄　録

ふりがな	えひめだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽう
書名	愛媛大学埋蔵文化財調査室年報2013年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛媛大学埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	ＸＸⅧ
編著者名	田崎博之・三吉秀充
編集機関	愛媛大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒790-8577　松山市道後樋又10番13号
発行年月日	2015年３月６日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ぶんきょういせき 文京遺跡 52次調査	まつやましぶんきょうちょう 松山市文京町３番	38201	33° 51′ 2″	132° 46′ 20″	2013.4.5～ 4.15	408㎡	給水設備改修工事
たるみいせき 樽味遺跡 12次調査	まつやましたるみ 松山市樽味３丁目 118番地1	38201	33° 50′ 20″	132° 47′ 34″	2013.8.9～ 10.8	99㎡	校舎（総合研究棟）改修工事
ぶんきょういせき 文京遺跡 55次調査	まつやましぶんきょうちょう 松山市文京町３番	38201	33° 50′ 55″	132° 46′ 11″	2013.8.27～ 8.29	166㎡	環境整備工事
もちだいせき 持田遺跡 ８次調査	まつやましもちだ 松山市持田１丁目 860番	38201	33° 50′ 34″	132° 47′ 2″	2013.11.8・ 2014.2.4	78㎡	校舎（附属中学校体育館）改修工事
たるみいせき 樽味遺跡 13次調査	まつやましたるみ 松山市樽味３丁目 305番	38201	33° 50′ 23″	132° 47′ 40″	2013.11.18～ 11.29	94㎡	校舎（附属高校校舎）改修工事
やまごえいせき 山越遺跡 ５次調査	まつやましやまごえ 松山市山越４丁目 11番10号	38201	33° 51′ 44″	132° 45′ 14″	2014.12.4～ 2014.1.10	502㎡	確認調査
ぶんきょういせき 文京遺跡 56次調査	まつやましぶんきょうちょう 松山市文京町３番	38201	33° 50′ 56″	132° 46′ 21″	2014.1.6	6.4㎡	自家発電設備工事
ぶんきょういせき 文京遺跡 57次調査	まつやましぶんきょうちょう 松山市文京町３番	38201	33° 50′ 57″	132° 46′ 20″	2014.1.27・3.1	61.4㎡	環境整備工事
もちだいせき 持田遺跡 ９次調査	まつやましもちだ 松山市持田１丁目 860番	38201	33° 50′ 39″	132° 47′ 1″	2014.2.21	153㎡	環境整備工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
文京遺跡 52次調査	集落				現状保存
樽味遺跡 12次調査	集落				現状保存
文京遺跡 55次調査	集落	弥生時代		弥生土器	現状保存
持田遺跡 ８次調査	水田				現状保存
樽味遺跡 13次調査	集落	中世	掘立柱建物２棟、土壙４基、小穴８	土師器	
山越遺跡 ５次調査	集落	縄文時代 弥生時代	溝６条、自然河川１条、小穴５基	縄文土器、弥生土器、砥石、打製石器	
文京遺跡 56次調査	集落				現状保存
文京遺跡 57次調査	集落				現状保存
持田遺跡 ９次調査	水田				現状保存

愛媛大学埋蔵文化財調査室年報

— 2013年度 —

愛媛大学埋蔵文化財調査報告　XXⅧ

2015年３月６日

発行　愛媛大学先端研究・学術推進機構埋蔵文化財調査室
〒790-8577　松山市道後樋又10番13号
TEL･FAX 089-927-9127

印刷　岡　田　印　刷　株　式　会　社
〒790-0012　松山市湊町７丁目１の８
TEL089-941-9111